

令和6年度

講義概要（シラバス）

専門学校 星城大学リハビリテーション学院

＜ カリキュラム表 ＞

教育内容		科目名		Ⅰ部（昼間部）		Ⅱ部（夜間部）		選択必修	授業形態
				単位数	時間数	単位数	時間数		
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	人文科学	心理学	2	30	2	30	必	講
			文化人類学	2	30	2	30	必	講
		社会科学	社会福祉学	2	30	2	30	必	講
		自然科学	情報科学	2	30	2	30	必	講
		保健体育学		2	30	2	30	必	講
		外国語	日常英語	2	30	2	30	必	講
			医学英語	2	30	2	30	必	講
		合 計		14	210	14	210		

専 門 基 礎 分 野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	解剖学	解剖学Ⅰ	2	60	2	60	必	講
			解剖学Ⅱ	2	60	2	60	必	講
		生理学	生理学Ⅰ	2	60	2	60	必	講
			生理学Ⅱ	2	60	2	60	必	講
		運動学	Ⅰ	1	30	1	30	必	講
			Ⅱ	1	30	1	30	必	講
			Ⅲ	1	30	1	30	必	講
			Ⅳ	1	30	1	30	必	講
		小 計			12	450	16	450	
	疾病と障害の成り 立ち及び 回復過程の促進	人間発達学		1	30	1	30	必	講
		医学概論		1	30	1	30	必	講
		病理学概論		1	30	1	30	必	講
		薬理学		1	30	1	30	必	講
		内科学Ⅰ		1	30	1	30	必	講
		内科学Ⅱ		1	30	1	30	必	講
		学Ⅰ		1	30	1	30	必	講
		整形外科Ⅱ		1	30	1	30	必	講
		神経学		1	30	1	30	必	講
		臨床科学		1	30	1	30	必	講
		臨床心理学		1	30	1	30	必	講
		精神科学		1	30	1	30	必	講
		小児科学		1	30	1	30	必	講
		リハビリテーション学		1	30	1	30	必	講
	小 計			14	420	14	420		
	保健医療福祉と リハビリテーショ ンの理念	リハビリテーション障害論		1	30	1	30	必	講
		保健医療福祉制度論		1	30	1	30	必	講
		コメディカル論		1	30	1	30	必	講
		地域包括ケア論		1	30	1	30	必	講
		小 計			4	120	4	120	
	合 計			30	900	30	900		

教育内容		科目名		Ⅰ部（昼間部）		Ⅱ部（夜間部）		選択必修	授業形態
				単位数	時間数	単位数	時間数		
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論	I	1	30	1	30	必	講
			II	1	30	1	30	必	講
		理学療法研究論		1	30	1	30	必	講
		機能解剖学		1	30	1	30	必	演
		運動生理学		1	30	1	30	必	講
		運動療法論		1	30	1	30	必	講
		小計		6	180	6	180		
	理学療法管理学	理学療法管理学Ⅰ		1	30	1	30	必	講
		理学療法管理学Ⅱ		1	30	1	30	必	講
		小計		2	60	2	60		
	理学療法評価学	理学療法評価論		1	30	1	30	必	講
		理学療法評価学	I	1	30	1	30	選	講
			II	1	30	1	30	選	講
			III	1	30	1	30	選	講
			IV	1	30	1	30	選	講
			V	1	30	1	30	選	講
		小計		6	180	6	180		
	理学療法治療学	病態運動学	I	1	30	1	30	必	講
			II	1	30	1	30	必	講
		運動療法学	I	1	30	1	30	必	講
			II	1	30	1	30	必	講
			III	1	30	1	30	必	講
			IV	1	30	1	30	必	講
			V	1	30	1	30	必	講
			VI	1	30	1	30	必	講
		物理療法学	I	1	30	1	30	必	講
			II	1	30	1	30	必	講
		義肢装具学	義肢学	1	30	1	30	必	講
			装具学	1	30	1	30	必	講
		理学療法特論	I	1	30	1	30	必	講
			II	1	30	1	30	必	講
		臨床理学療法学		2	60	2	60	必	講
		臨床理学療法演習	I	1	30	1	30	必	演
			II	2	60	2	60	必	演
			III	1	30	1	30	必	演
		小計		20	600	20	600		
		地域理学療法学	日常生活活動論		1	30	1	30	必
	生活環境支援学		1	30	1	30	必	講	
	地域理学療法学		1	30	1	30	必	講	
	小計		3	90	3	90			
	臨床実習	臨床実習	I	1	45	1	45	必	実
			II	1	45	1	45	必	実
			III	6	270	6	270	必	実
			IV	16	720	16	720	必	実
		小計		24	1080	24	1080		
	合計		61	2190	61	2190			
総計		105	3300	105	3300				

＜ カリキュラム表（学年別） ＞

教育内容			科目名		合計		1 年		2年		3 年		
					単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解 (規定単位数 14 単位)	人文科学	心理学	2	30	2	30						
			文化人類学	2	30	2	30						
		社会科学	社会福祉学	2	30	2	30						
		自然科学	情報科学	2	30	2	30						
		保健体育学		2	30	2	30						
		外国語	日常英語	2	30	2	30						
			医学英語	2	30	2	30						
		合 計				14	210	14	210	0	0	0	0
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び 心身の発達 (規定単位数 12 単位)	解剖学	解剖学Ⅰ	2	60	2	60						
			解剖学Ⅱ	2	60	2	60						
		生理学	生理学Ⅰ	2	60	2	60						
			生理学Ⅱ	2	60	2	60						
		運動学	Ⅰ	1	30	1	30						
			Ⅱ	1	30	1	30						
			Ⅲ	1	30	1	30						
			Ⅳ	1	30	1	30						
	小 計				12	360	12	360	0	0	0	0	
	疾病と障害の成り立ち 及び 回復過程の促進 (規定単位数 14 単位)	人間発達学		1	30	1	30						
		医学概論		1	30	1	30						
		病理学概論		1	30	1	30						
		薬理学		1	30			1	30				
		内科学Ⅰ		1	30			1	30				
		内科学Ⅱ		1	30			1	30				
		整形外科Ⅰ		1	30			1	30				
		整形外科Ⅱ		1	30			1	30				
		神経学		1	30			1	30				
		臨床科学		1	30			1	30				
		臨床心理学		1	30			1	30				
		精神科学		1	30			1	30				
		小児科学		1	30			1	30				
	リハビリテーション学		1	30			1	30					
	小 計				14	420	3	90	11	330	0	0	
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念 (規定単位数 4 単位)	リハビリテーション障害論		1	30	1	30						
		保健医療福祉制度論		1	30	1	30						
		コメディカル論		1	30			1	30				
		地域包括ケア論		1	30			1	30				
		小 計				4	120	2	60	2	60	0	0
	合 計				30	900	17	510	13	390	0	0	
	専門分野	基礎理学療法学 (規定単位数 6 単位)	理学療法学概論	Ⅰ	1	30	1	30					
				Ⅱ	1	30			1	30			
			理学療法研究論		1	30			1	30			
			機能解剖学		1	30	1	30					
			運動生理学		1	30	1	30					
			運動療法学		1	30	1	30					
			小 計				6	180	4	120	2	60	0
		理学療法管理学 (規定単位数 2 単位)	理学療法管理学	Ⅰ	1	30			1	30			
				Ⅱ	1	30			1	30			
小 計					2	60	0	0	2	60	0	0	
理学療法評価学 (規定単位数 6 単位)		理学療法評価論		1	30	1	30						
		理学療法評価学	Ⅰ	1	30	1	30						
			Ⅱ	1	30	1	30						
			Ⅲ	1	30	1	30						
			Ⅳ	1	30			1	30				
			Ⅴ	1	30			1	30				
		小 計				6	180	4	120	2	60	0	0
理学療法治療学 (規定単位数 20 単位)		病態運動学	Ⅰ	1	30			1	30				
			Ⅱ	1	30			1	30				
		運動療法学	Ⅰ	1	30			1	30				
			Ⅱ	1	30			1	30				
			Ⅲ	1	30			1	30				
			Ⅳ	1	30			1	30				
			Ⅴ	1	30			1	30				
			Ⅵ	1	30			1	30				
		物理療法学	Ⅰ	1	30	1	30						
			Ⅱ	1	30			1	30				
		義肢装具学	義肢学	1	30			1	30				
			装具学	1	30			1	30				
		理学療法特論	Ⅰ	1	30	1	30						
			Ⅱ	1	30			1	30				
		臨床理学療法学		2	60						2	60	
		臨床理学療法演習	Ⅰ	1	30			1	30				
			Ⅱ	2	60						2	60	
			Ⅲ	1	30						1	30	
		小 計				20	600	2	60	13	390	5	150
地域理学療法学 (規定単位数 3 単位)		日常生活活動論		1	30			1	30				
		生活環境支援学		1	30			1	30				
		地域理学療法学		1	30			1	30				
		小 計				3	90	0	0	3	90	0	0
臨床実習 (規定単位数 20 単位)		臨床実習	Ⅰ	1	45	1	45						
			Ⅱ	1	45			1	45				
			Ⅲ	6	270						6	270	
			Ⅳ	17	765						17	765	
		小 計				25	1125	1	45	1	45	23	1035
	合 計				62	2235	11	345	23	705	28	1185	
総 計				106	3345	42	1065	36	1095	28	1185		

＜ 教 科 担 当 ＞

	科目名		I 部（昼間部）	II 部（夜間部）
基礎分野	人文科学	心理学	菅 吉基	菅 吉基
		文化人類学	天野 紗緒里	天野 紗緒里
	社会科学	社会福祉学	吉村 和代	吉村 和代
	自然科学	情報科学	八並 真澄	八並 真澄
	保健体育学		大久保 博史	大久保 博史
	外国語	日常英語	小林 信子	小林 信子
		医学英語	豊田 慎一	豊田 慎一
専門基礎分野	解剖学	解剖学Ⅰ	長谷川 義美	長谷川 義美
		解剖学Ⅱ	長谷川 義美	長谷川 義美
	生理学	生理学Ⅰ	中谷 直史	中谷 直史
		生理学Ⅱ	中谷 直史	中谷 直史
	運動学	I	沼倉 功	沼倉 功
		II	宮田 かおり	宮田 かおり
		III	水上 志帆	岡田 恭兵
		IV	沼倉 功	沼倉 功
	人間発達学		三宅 わか子	三宅 わか子
	医学概論		坂口 勇人	坂口 勇人
	病理学概論		加藤 裕美	秋山 芳夫
	薬理学		野々垣 常正	野々垣 常正
	内科学	I	波多野 敬	古山 明夫
		II	波多野 敬	古山 明夫
	整形外科学	I	森川 圭造	森川 圭造
		II	森川 圭造	森川 圭造
	神経学		道勇 学	道勇 学
	臨床科学		高橋 立夫	安田 宗義・前田 憲幸・伊藤 元一 高須俊太郎・永谷 哲也・石川 隆之
	臨床心理学		菅 吉基	菅 吉基
	精神科学		波多野 敬	奥代 啓太
	小児科学		益田 健史	益田 健史
	リハビリテーション学	梶原 敏夫	梶原 敏夫	梶原 敏夫
		尾川 貴洋		
		古川 公宣		
	リハビリテーション障害論		中山 直輝	中山 直輝
	保健医療福祉制度論		北川 秀朗	中山 直輝
	コメディカル論	村瀬 幸恵（言語療法）	村瀬 幸恵（言語療法）	
		田中 敏彦（作業療法）	田中 敏彦（作業療法）	
		林 隆彦（放射線）	林 隆彦（放射線）	
		北川 絵里奈（栄養）	北川 絵里奈（栄養）	
		瀬川 あかね（看護）	瀬川 あかね（看護）	
	地域包括ケア論		北川 秀朗	北川 秀朗

＜ 教 科 担 当 ＞

	科目名		I 部（昼間部）	II 部（夜間部）
専 門 分 野	理学療法概論	I	小島 賢史	本保 真
		II	長岡 正和	中川 仁
	理学療法研究論		中川 仁	中川 仁
	機能解剖学		宮田 かおり	小島 賢史
	運動生理学		本保 真	本保 真
	運動療法論		長岡 正和	長岡 正和
	理学療法管理学	I	中山 直輝	中山 直輝
		II	坂口 勇人	坂口 勇人
	理学療法評価論		宮田 かおり	宮田 かおり
	理学療法評価学	I	北川 秀朗	北川 秀朗
		II	水上 志帆	舩内 真二
		III	小島 賢史	本保 真
		IV	長岡 正和	本保 真
		V	三宅 わか子	三宅 わか子
	病態運動学	I	豊田 慎一	豊田 慎一
		II	豊田 慎一	豊田 慎一
	運動療法学	I	小島 賢史	宮田 かおり
		II	中山 直輝	中山 直輝
		III	沼倉 功	沼倉 功
		IV	長岡 正和	本保 真
		V	三宅 わか子	三宅 わか子
		VI	水上 志帆	水上 志帆
	物理療法学	I	小島 賢史	小島 賢史
		II	保村 豊	保村 豊
	義肢装具学	義肢学	坂口 勇人	坂口 勇人
		装具学	中川 仁	中川 仁
	理学療法特論	I	長岡 正和	中川 仁
		II	保村 豊	保村 豊
	臨床理学療法学		内部教員	内部教員
	臨床理学療法演習	I	内部教員	内部教員
		II	内部教員	内部教員
		III	内部教員	内部教員
	日常生活活動論		豊田 慎一	宮田 かおり
	生活環境支援学		北川 秀朗	北川 秀朗
	地域理学療法学		水上 志帆	水上 志帆
	臨床実習	I	内部教員	内部教員
		II	内部教員	内部教員
		III	内部教員	内部教員
		IV	内部教員	内部教員

【基礎分野】心理学

担当講師	菅 吉基	対象学年	I 部 1 年・II 部 1 年																																
概 要	本講では知覚、感情、記憶、思考など様々な観点から人間の心について講義する。心理学の知識を得ることで、理学療法士として、人の行動と心理を理解することに役立てられるようにする。																																		
学習到達目標	① 歴史について説明できる ② 防衛機制と転移について説明できる ③ 発達過程を踏まえた学習、記憶、行動について説明できる																																		
教 科 書	『現代心理学の基礎と応用—人間理解と対人援助—』 芝垣正光・目黒達哉編 樹村房																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 講義最終試験（定期試験）100% ＜評価基準＞ 60 点以上を合格とする																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>心理学とは何かについて理解する。</td></tr><tr><td>2</td><td>視覚、幾何学的錯視、仮現運動、誘導運動について理解する。</td></tr><tr><td>3</td><td>聴覚、子供の知覚、奥行知覚について理解する。</td></tr><tr><td>4</td><td>レスポナント行動とオペラント行動について理解する。</td></tr><tr><td>5</td><td>般化と分化、観察学習、洞察学習について理解する。</td></tr><tr><td>6</td><td>知能、スピアマンの 2 因子説、サーストンの 7 因子説について理解する。</td></tr><tr><td>7</td><td>知能の測定、創造性について理解する。</td></tr><tr><td>8</td><td>感覚記憶、短期記憶、長期記憶について理解する。</td></tr><tr><td>9</td><td>意味記憶、エピソード記憶、手続き記憶について理解する。</td></tr><tr><td>10</td><td>ジェームズ・ランゲ説、感情の表出と読み取りについて理解する。</td></tr><tr><td>11</td><td>感情の発達、欲求と動機付けについて理解する。</td></tr><tr><td>12</td><td>性格の形成、遺伝的要因、環境的要因について理解する。</td></tr><tr><td>13</td><td>ストレスと自我防衛機制、転移について健康管理も踏まえて理解する。</td></tr><tr><td>14</td><td>心理学の歴史の始まり、行動主義について理解する</td></tr><tr><td>15</td><td>心理学の歴史の流れ、ゲシュタルト心理学について理解する。</td></tr></table>			回数	内容	1	心理学とは何かについて理解する。	2	視覚、幾何学的錯視、仮現運動、誘導運動について理解する。	3	聴覚、子供の知覚、奥行知覚について理解する。	4	レスポナント行動とオペラント行動について理解する。	5	般化と分化、観察学習、洞察学習について理解する。	6	知能、スピアマンの 2 因子説、サーストンの 7 因子説について理解する。	7	知能の測定、創造性について理解する。	8	感覚記憶、短期記憶、長期記憶について理解する。	9	意味記憶、エピソード記憶、手続き記憶について理解する。	10	ジェームズ・ランゲ説、感情の表出と読み取りについて理解する。	11	感情の発達、欲求と動機付けについて理解する。	12	性格の形成、遺伝的要因、環境的要因について理解する。	13	ストレスと自我防衛機制、転移について健康管理も踏まえて理解する。	14	心理学の歴史の始まり、行動主義について理解する	15	心理学の歴史の流れ、ゲシュタルト心理学について理解する。
回数	内容																																		
1	心理学とは何かについて理解する。																																		
2	視覚、幾何学的錯視、仮現運動、誘導運動について理解する。																																		
3	聴覚、子供の知覚、奥行知覚について理解する。																																		
4	レスポナント行動とオペラント行動について理解する。																																		
5	般化と分化、観察学習、洞察学習について理解する。																																		
6	知能、スピアマンの 2 因子説、サーストンの 7 因子説について理解する。																																		
7	知能の測定、創造性について理解する。																																		
8	感覚記憶、短期記憶、長期記憶について理解する。																																		
9	意味記憶、エピソード記憶、手続き記憶について理解する。																																		
10	ジェームズ・ランゲ説、感情の表出と読み取りについて理解する。																																		
11	感情の発達、欲求と動機付けについて理解する。																																		
12	性格の形成、遺伝的要因、環境的要因について理解する。																																		
13	ストレスと自我防衛機制、転移について健康管理も踏まえて理解する。																																		
14	心理学の歴史の始まり、行動主義について理解する																																		
15	心理学の歴史の流れ、ゲシュタルト心理学について理解する。																																		

【基礎分野】文化人類学

担当講師	天野 紗緒里	対象学年	I 部 1 年・II 部 1 年																																
概 要	文化人類学とは、人類の文化と社会の本質を普遍性と特殊性の両面から追及する学問である。本講義を通じて、文化の多様性や価値観を学び、自分自身の「当たり前」を再検討することで、自分とは異なる文化や価値観を持つ人に対して柔軟に対応できるようになる。																																		
学習到達目標	文化人類学の知見から、自分とは全く異なるさまざまな文化や価値観を知ることで、将来、医療現場で出会う他分野の専門家、異なる世代の人、外国人のスタッフ、患者とその家族などと信頼を構築し協働する際に必要となる他者理解の基本姿勢を身につける。																																		
教 科 書	講師作成の資料。メモ・ノートを取ることが望ましい。参考文献は、適宜、紹介する。																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 中間レポート 50%、論述形式の期末試験 50% ＜評価基準＞ レポートと期末試験の総合点で評価し、60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>文化人類学とは：自然とヒト、生業と文化の関係を理解し、生活様式によって文化や価値観が異なることを理解する。</td></tr><tr><td>2</td><td>わたしの文化とあなたの文化：自文化中心主義と文化相対主義を理解し、他者への尊重と相互理解のための基本姿勢を理解する。</td></tr><tr><td>3</td><td>文化人類学の夜明け：植民地主義、進化論、伝播論について知り、文化人類学の成立背景を理解する。</td></tr><tr><td>4</td><td>文化人類学の研究手法：フィールドワークと民族誌という文化人類学の研究手法を学び、「文化を書く」文化人類学の有用性と問題点を理解する。</td></tr><tr><td>5</td><td>宗教と世界観 1：呪術、アニミズム、シャーマニズムについて理解する。</td></tr><tr><td>6</td><td>宗教と世界観 2：創唱宗教、特に、世界宗教であるキリスト教・イスラム教・仏教について知るとともに、新宗教やカルト宗教についても知る。「無神論」と「無宗教」の違いを理解する。</td></tr><tr><td>7</td><td>この世とあの世：ライフサイクル、ライフステージ、死生観について理解する。</td></tr><tr><td>8</td><td>経済と文化：贈与交換と貨幣経済について理解する。また、中間のまとめをする。</td></tr><tr><td>9</td><td>家族と親族：世界の多様な家族・親族・相続の形態について理解する。</td></tr><tr><td>10</td><td>性と家族のありかた：ジェンダー、セクシュアリティ、LGB、多様な家族あり方について理解する。</td></tr><tr><td>11</td><td>国家と政治：法律と秩序、紛争と暴力について学び、ナショナリズムについて理解する。</td></tr><tr><td>12</td><td>多数 vs 少数：民族問題について学び、マジョリティーとマイノリティーの関係を理解する。</td></tr><tr><td>13</td><td>観光と文化 1：文化遺産と文化政策について理解する。</td></tr><tr><td>14</td><td>観光と文化 2：「作られた伝統」について学び、近年、世界で注目を集めているオルタナティブツーリズムについて理解する。</td></tr><tr><td>15</td><td>全体の総括を行う。</td></tr></table>			回数	内容	1	文化人類学とは：自然とヒト、生業と文化の関係を理解し、生活様式によって文化や価値観が異なることを理解する。	2	わたしの文化とあなたの文化：自文化中心主義と文化相対主義を理解し、他者への尊重と相互理解のための基本姿勢を理解する。	3	文化人類学の夜明け：植民地主義、進化論、伝播論について知り、文化人類学の成立背景を理解する。	4	文化人類学の研究手法：フィールドワークと民族誌という文化人類学の研究手法を学び、「文化を書く」文化人類学の有用性と問題点を理解する。	5	宗教と世界観 1：呪術、アニミズム、シャーマニズムについて理解する。	6	宗教と世界観 2：創唱宗教、特に、世界宗教であるキリスト教・イスラム教・仏教について知るとともに、新宗教やカルト宗教についても知る。「無神論」と「無宗教」の違いを理解する。	7	この世とあの世：ライフサイクル、ライフステージ、死生観について理解する。	8	経済と文化：贈与交換と貨幣経済について理解する。また、中間のまとめをする。	9	家族と親族：世界の多様な家族・親族・相続の形態について理解する。	10	性と家族のありかた：ジェンダー、セクシュアリティ、LGB、多様な家族あり方について理解する。	11	国家と政治：法律と秩序、紛争と暴力について学び、ナショナリズムについて理解する。	12	多数 vs 少数：民族問題について学び、マジョリティーとマイノリティーの関係を理解する。	13	観光と文化 1：文化遺産と文化政策について理解する。	14	観光と文化 2：「作られた伝統」について学び、近年、世界で注目を集めているオルタナティブツーリズムについて理解する。	15	全体の総括を行う。
回数	内容																																		
1	文化人類学とは：自然とヒト、生業と文化の関係を理解し、生活様式によって文化や価値観が異なることを理解する。																																		
2	わたしの文化とあなたの文化：自文化中心主義と文化相対主義を理解し、他者への尊重と相互理解のための基本姿勢を理解する。																																		
3	文化人類学の夜明け：植民地主義、進化論、伝播論について知り、文化人類学の成立背景を理解する。																																		
4	文化人類学の研究手法：フィールドワークと民族誌という文化人類学の研究手法を学び、「文化を書く」文化人類学の有用性と問題点を理解する。																																		
5	宗教と世界観 1：呪術、アニミズム、シャーマニズムについて理解する。																																		
6	宗教と世界観 2：創唱宗教、特に、世界宗教であるキリスト教・イスラム教・仏教について知るとともに、新宗教やカルト宗教についても知る。「無神論」と「無宗教」の違いを理解する。																																		
7	この世とあの世：ライフサイクル、ライフステージ、死生観について理解する。																																		
8	経済と文化：贈与交換と貨幣経済について理解する。また、中間のまとめをする。																																		
9	家族と親族：世界の多様な家族・親族・相続の形態について理解する。																																		
10	性と家族のありかた：ジェンダー、セクシュアリティ、LGB、多様な家族あり方について理解する。																																		
11	国家と政治：法律と秩序、紛争と暴力について学び、ナショナリズムについて理解する。																																		
12	多数 vs 少数：民族問題について学び、マジョリティーとマイノリティーの関係を理解する。																																		
13	観光と文化 1：文化遺産と文化政策について理解する。																																		
14	観光と文化 2：「作られた伝統」について学び、近年、世界で注目を集めているオルタナティブツーリズムについて理解する。																																		
15	全体の総括を行う。																																		

【基礎分野】社会福祉学

担当講師	吉村 和代	対象学年	I 部 1 年・Ⅱ部 1 年																																
概 要	社会福祉の背景と沿革を知り、現在の社会福祉と今後の社会福祉の在り方を考えることができるような総合的な知識の修得を目指す。																																		
学習到達目標	①社会福祉の背景と沿革が理解できる。 ②国民の生活ならびに健康を支える社会保障を専門職・非専門職のかかわりから理解できる。 ③対象者中心の視点からさまざまな障害者に対する福祉サービスが理解できる。																																		
教 科 書	教員作成のスライドや配布資料等を活用する。																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 定期試験 100% ＜評価基準＞ 60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>社会福祉の背景と沿革について学習する。</td></tr><tr><td>2</td><td>国民の生活を支える社会保障について学習する。</td></tr><tr><td>3</td><td>高齢者福祉論の概要について学習する。</td></tr><tr><td>4</td><td>介護保険制度を理解する①。</td></tr><tr><td>5</td><td>介護保険制度を理解する②。</td></tr><tr><td>6</td><td>障害者福祉論の概要について学習する。</td></tr><tr><td>7</td><td>障害者総合支援法を理解する。</td></tr><tr><td>8</td><td>身体障害者の福祉（肢体不自由を中心に）について学習する。</td></tr><tr><td>9</td><td>身体障害者の福祉（内部障害者を中心に）について学習する。</td></tr><tr><td>10</td><td>精神障害者の福祉について学習する。①</td></tr><tr><td>11</td><td>精神障害者の福祉について学習する。②</td></tr><tr><td>12</td><td>児童福祉論を理解する。</td></tr><tr><td>13</td><td>公的扶助制度を理解する。</td></tr><tr><td>14</td><td>地域福祉論を理解する</td></tr><tr><td>15</td><td>社会福祉援助技術を理解する。</td></tr></table>			回数	内容	1	社会福祉の背景と沿革について学習する。	2	国民の生活を支える社会保障について学習する。	3	高齢者福祉論の概要について学習する。	4	介護保険制度を理解する①。	5	介護保険制度を理解する②。	6	障害者福祉論の概要について学習する。	7	障害者総合支援法を理解する。	8	身体障害者の福祉（肢体不自由を中心に）について学習する。	9	身体障害者の福祉（内部障害者を中心に）について学習する。	10	精神障害者の福祉について学習する。①	11	精神障害者の福祉について学習する。②	12	児童福祉論を理解する。	13	公的扶助制度を理解する。	14	地域福祉論を理解する	15	社会福祉援助技術を理解する。
回数	内容																																		
1	社会福祉の背景と沿革について学習する。																																		
2	国民の生活を支える社会保障について学習する。																																		
3	高齢者福祉論の概要について学習する。																																		
4	介護保険制度を理解する①。																																		
5	介護保険制度を理解する②。																																		
6	障害者福祉論の概要について学習する。																																		
7	障害者総合支援法を理解する。																																		
8	身体障害者の福祉（肢体不自由を中心に）について学習する。																																		
9	身体障害者の福祉（内部障害者を中心に）について学習する。																																		
10	精神障害者の福祉について学習する。①																																		
11	精神障害者の福祉について学習する。②																																		
12	児童福祉論を理解する。																																		
13	公的扶助制度を理解する。																																		
14	地域福祉論を理解する																																		
15	社会福祉援助技術を理解する。																																		

【基礎分野】情報科学

担当講師	八並 真澄	対象学年	I 部 1 年・II 部 1 年																																
概 要	パソコンの基礎、インターネット（メール・Web サイト検索）、Word、Excel、PowerPoint																																		
学習到達目標	在学中、また理学療法士として就職後に必要となる、最低限のパソコンスキルを身に付ける。 各ソフトの特徴を生かし、様々な資料作成・記録・データ分析が可能となること。 データを扱ううえでの個人情報やネットセキュリティについての基礎を身に着ける。 課題制作を通して課題対応力の素地を養う。																																		
教 科 書	学生のためのかんたん Word/Excel/PowerPoint 入門 技術評論社																																		
評価方法	<評価方法と割合> Word（ビジネス文書作成）：最終日試験 30% Excel（集計表・グラフ作成）：最終日試験 30% PowerPoint（プレゼンテーション資料の作成）：課題提出 40% <評価基準> 以上の評価割合の総合点で評価し 60 点以上を合格とする																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>Windows 基礎・ファイル・フォルダの取り扱い 文字入力（e-typing サイト、タイピングソフト使用）</td></tr><tr><td>2</td><td>Web ブラウザ使用方法（検索方法・お気に入り等） ネットセキュリティの適切な知識を身に着ける、SNS 利用の心得など</td></tr><tr><td>3</td><td>Word 基礎 ビジネス文書作成（文字・段落編集・印刷・保存・PDF・パスワード設定）</td></tr><tr><td>4</td><td>Word 基礎 smartArt 図解、図形、画像挿入</td></tr><tr><td>5</td><td>Word 基礎 練習問題、スクリーンショット、表作成</td></tr><tr><td>6</td><td>Word 基礎 様々な文書作成（案内文書・ポップ、はがき作成等）</td></tr><tr><td>7</td><td>Word 小テスト解説、Excel 基礎 データ入力、数式入力、書式設定</td></tr><tr><td>8</td><td>Excel 基礎 基本的な関数（SUM・AVERAGE・COUNT 等）</td></tr><tr><td>9</td><td>Excel 基礎 応用的な関数（IF・COUNTIF・SUMIF 等）</td></tr><tr><td>10</td><td>Excel 基礎 グラフ作成・印刷</td></tr><tr><td>11</td><td>Excel 基礎 データベース（並べ替え・抽出・置換）復習問題（成績表・売上表等）</td></tr><tr><td>12</td><td>Excel 基礎 小テスト、解説</td></tr><tr><td>13</td><td>PowerPoint 基礎 スライド作成・アニメーション設定</td></tr><tr><td>14</td><td>PowerPoint 基礎 プレゼンテーション技法</td></tr><tr><td>15</td><td>PowerPoint 課題制作 課題テーマに合わせて、5 枚上のプレゼンテーション資料の作成</td></tr></table>			回数	内容	1	Windows 基礎・ファイル・フォルダの取り扱い 文字入力（e-typing サイト、タイピングソフト使用）	2	Web ブラウザ使用方法（検索方法・お気に入り等） ネットセキュリティの適切な知識を身に着ける、SNS 利用の心得など	3	Word 基礎 ビジネス文書作成（文字・段落編集・印刷・保存・PDF・パスワード設定）	4	Word 基礎 smartArt 図解、図形、画像挿入	5	Word 基礎 練習問題、スクリーンショット、表作成	6	Word 基礎 様々な文書作成（案内文書・ポップ、はがき作成等）	7	Word 小テスト解説、Excel 基礎 データ入力、数式入力、書式設定	8	Excel 基礎 基本的な関数（SUM・AVERAGE・COUNT 等）	9	Excel 基礎 応用的な関数（IF・COUNTIF・SUMIF 等）	10	Excel 基礎 グラフ作成・印刷	11	Excel 基礎 データベース（並べ替え・抽出・置換）復習問題（成績表・売上表等）	12	Excel 基礎 小テスト、解説	13	PowerPoint 基礎 スライド作成・アニメーション設定	14	PowerPoint 基礎 プレゼンテーション技法	15	PowerPoint 課題制作 課題テーマに合わせて、5 枚上のプレゼンテーション資料の作成
回数	内容																																		
1	Windows 基礎・ファイル・フォルダの取り扱い 文字入力（e-typing サイト、タイピングソフト使用）																																		
2	Web ブラウザ使用方法（検索方法・お気に入り等） ネットセキュリティの適切な知識を身に着ける、SNS 利用の心得など																																		
3	Word 基礎 ビジネス文書作成（文字・段落編集・印刷・保存・PDF・パスワード設定）																																		
4	Word 基礎 smartArt 図解、図形、画像挿入																																		
5	Word 基礎 練習問題、スクリーンショット、表作成																																		
6	Word 基礎 様々な文書作成（案内文書・ポップ、はがき作成等）																																		
7	Word 小テスト解説、Excel 基礎 データ入力、数式入力、書式設定																																		
8	Excel 基礎 基本的な関数（SUM・AVERAGE・COUNT 等）																																		
9	Excel 基礎 応用的な関数（IF・COUNTIF・SUMIF 等）																																		
10	Excel 基礎 グラフ作成・印刷																																		
11	Excel 基礎 データベース（並べ替え・抽出・置換）復習問題（成績表・売上表等）																																		
12	Excel 基礎 小テスト、解説																																		
13	PowerPoint 基礎 スライド作成・アニメーション設定																																		
14	PowerPoint 基礎 プレゼンテーション技法																																		
15	PowerPoint 課題制作 課題テーマに合わせて、5 枚上のプレゼンテーション資料の作成																																		

【基礎分野】保健体育学

担当講師	大久保 博史	対象学年	I 部 1 年・II 部 1 年
概 要	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。		
学習到達目標	保健では、個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようする。また体育では、各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。		
教 科 書	現代高等 保健体育（改訂版） 大修館書店 見開 B4 版		
評価方法	<評価方法と割合> レポート 45%、体育実技 45%、講義出席率 10% <評価基準> 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする。		
授業計画	回数	内容	
	1	健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた	
	2	体育実技 1	
	3	健康に関する意思決定・行動選択と環境づくり 生活習慣病とその予防	
	4	体育実技 2	
	5	食事と健康 活動を営む上での精神・心理機能を鑑みた運動・休養と健康	
	6	体育実技 3	
	7	喫煙・飲酒と健康 薬物乱用と健康	
	8	体育実技 4	
	9	感染症とその予防 欲求と適応機制	
	10	体育実技 5	
	11	心身相関とストレス 心の健康と自己実現	
	12	体育実技 6	
	13	動くとは スポーツの始まりと変遷、文化としてのスポーツ	
	14	体育実技 7	
	15	オリンピックと国際理解 スポーツと経済	

【基礎分野】 日常英語

担当講師	小林 信子	対象学年	I 部 1 年・Ⅱ部 1 年																																
概 要	ESP(English for Specific Purposes)の新たな学習に向けて動機づけを行い、中・高レベルの EGP を復習しつつ、理学療法士として求められる自立的英語活用の基礎づくりを目指す。																																		
学習到達目標	1. 理学療法士の職場によくある状況を想定し、既習の EGP の力を活用した意思疎通ができる。 2. 英会話 (Spoken/Informal)と英文書(Written/Formal)の差異を認識し、使い分けができる。 3. 上項 1～2 を通じ、職業技術としての異文化間コミュニケーションへ自主的な取り組みができる。																																		
教 科 書	講師作成の印刷教材 (《発音編》、《会話編》、《文書編》の三部構成*) を使用する。																																		
評価方法	<評価の方法と割合> 講義内容確認テスト#1 (小テスト) と講義内容確認テスト#2 (小テスト 兼模擬テスト)、さらに講義出席率に鑑みた上で、学期末試験を実施して評価する。 <評価の基準> 上記の学期末試験 (総合 100 点) で評価し、60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>講 義 内 容</th></tr><tr><td>1</td><td>授業進行案内。明確な ESP 学習に向けた動機づけ。医療現場が求める ESP の 4 技能 (アンケート調査紹介)。音声学基礎 (音声器官、有声音 vs 無声音、母音 vs 子音)。</td></tr><tr><td>2</td><td>医療現場にみられるカタカナ語 (歴史的背景と活用の意義)。《発音》日本語の「イ」と「エ」に似た母音。《会話》L1-KY: 英語文型の I～Ⅲの語順 (日本語の助詞と比較)。第Ⅱ文型を作る動詞 (be, seem, sound, look, feel)におけるニュアンスな違いの理解。</td></tr><tr><td>3</td><td>《発音》リズム言語としての英語発音のアクセントとイントネーションと調音。母音の発音:「ア」に似た母音と曖昧母音の/ə/。《会話》L1-D1: “What is health?” 《解説》WHO による健康定義と専門分野の用語定義の重要性: CDC, rehab, PT, COVID-19 etc.</td></tr><tr><td>4</td><td>《解説》母語の英語と国際共通語としての英語のちがい。《発音》「ウ」と「オ」に似た母音。《会話》L2-KW~D1: “I’m your physical therapist.” (自己紹介の重要性)</td></tr><tr><td>5</td><td>《発音》母音〈短母音・長母音・二重母音〉。《会話》L2-D2: “I’m ..., Chief Physical Therapist.” (役職の紹介。相手の気持ちに寄り添う表現⇔仮定法を上手に利用する)</td></tr><tr><td>6</td><td>《発音》子音〈破裂音〉、接尾辞による発音変化(/-d/, /-id/, /-t/)。《会話》L3-KW~D1: “May I help you?” (丁寧な問いかけ)と“Would you...? I would like you to ...” (婉曲表現)</td></tr><tr><td>7</td><td>《発音》子音〈摩擦音〉/h/, /f/, /v/と〈歯擦音〉/θ/, /ð/。《会話》L3-D2~3: “Would you tell me WH-close S+V?” (第Ⅳ文型と複文: 予約の確認)。「小テスト#1」(約 30 分)</td></tr><tr><td>8</td><td>「小テスト#1」結果講評。《発音》子音〈摩擦音〉/s/- /z/, /ʃ/-/ʒ/。《会話》L4-D1: “If you don’t feel well, please let me know.” (第Ⅴ文型と使役動詞: have, get, make, let)</td></tr><tr><td>9</td><td>《発音》子音〈破擦音〉/ts/-/dz/, /tʃ/-/dʒ/。《会話》L4: “If you feel any pain ..., just let me know.” 容態の変化を気づかう声かけ。SD-1 入れ替えドリルの導入と練習。</td></tr><tr><td>10</td><td>《発音》子音〈流音〉/l/-/r/。《会話》L5: “How may I help you?”と SD2-1 “Is this the ... department?” (「～科の病棟」の英語表現学習とペアワークによる SD 練習)。</td></tr><tr><td>11</td><td>《発音》子音〈鼻音〉/m/-/n/, 〈歯茎音〉/ŋ/, 〈半母音〉/j/-/w/。《会話》L6-SD2-2: 院内施設の英語)。《文書》話し言葉(Spoken/Informal)と書き言葉(Written/Formal)の差異。</td></tr><tr><td>12</td><td>《会話》L6-KW~D1&2: “... have an appointment with...?” (予約確認)、L6-SD3: (～専門医の表現)。《文書》Spoken English vs. Written English。英語文書形式の発展。</td></tr><tr><td>13</td><td>《会話》L7-SE~D-7-1&2: “Answering Phone Calls” (電話応対)。L7-SD: (申し訳ありませんが...です)。《文書》英語文書の構成とレイアウト、英文書にある独特な表現。</td></tr><tr><td>14</td><td>《会話》L8-KW&SE: “Encouraging your patient” (療法を示す表現)。《文書》「5つのC」、ウェブ英語の発展、文献検索、専門的知識技術の継続的更新。「小テスト#2」</td></tr><tr><td>15</td><td>《会話》L8-SD4: “... will be effective.” 「小テスト#2」結果講評と期末テストの案内: 外国語の筆記試験では、上の講義で得た推論やイメージ同定の力を活用するとよい。</td></tr></table> *講義前半は発音編と会話編、後半から会話編と文書編の教材を組合せて授業を進める。			回数	講 義 内 容	1	授業進行案内。明確な ESP 学習に向けた動機づけ。医療現場が求める ESP の 4 技能 (アンケート調査紹介)。音声学基礎 (音声器官、有声音 vs 無声音、母音 vs 子音)。	2	医療現場にみられるカタカナ語 (歴史的背景と活用の意義)。《発音》日本語の「イ」と「エ」に似た母音。《会話》L1-KY: 英語文型の I～Ⅲの語順 (日本語の助詞と比較)。第Ⅱ文型を作る動詞 (be, seem, sound, look, feel)におけるニュアンスな違いの理解。	3	《発音》リズム言語としての英語発音のアクセントとイントネーションと調音。母音の発音:「ア」に似た母音と曖昧母音の/ə/。《会話》L1-D1: “What is health?” 《解説》WHO による健康定義と専門分野の用語定義の重要性: CDC, rehab, PT, COVID-19 etc.	4	《解説》母語の英語と国際共通語としての英語のちがい。《発音》「ウ」と「オ」に似た母音。《会話》L2-KW~D1: “I’m your physical therapist.” (自己紹介の重要性)	5	《発音》母音〈短母音・長母音・二重母音〉。《会話》L2-D2: “I’m ..., Chief Physical Therapist.” (役職の紹介。相手の気持ちに寄り添う表現⇔仮定法を上手に利用する)	6	《発音》子音〈破裂音〉、接尾辞による発音変化(/-d/, /-id/, /-t/)。《会話》L3-KW~D1: “May I help you?” (丁寧な問いかけ)と“Would you...? I would like you to ...” (婉曲表現)	7	《発音》子音〈摩擦音〉/h/, /f/, /v/と〈歯擦音〉/θ/, /ð/。《会話》L3-D2~3: “Would you tell me WH-close S+V?” (第Ⅳ文型と複文: 予約の確認)。「小テスト#1」(約 30 分)	8	「小テスト#1」結果講評。《発音》子音〈摩擦音〉/s/- /z/, /ʃ/-/ʒ/。《会話》L4-D1: “If you don’t feel well, please let me know.” (第Ⅴ文型と使役動詞: have, get, make, let)	9	《発音》子音〈破擦音〉/ts/-/dz/, /tʃ/-/dʒ/。《会話》L4: “If you feel any pain ..., just let me know.” 容態の変化を気づかう声かけ。SD-1 入れ替えドリルの導入と練習。	10	《発音》子音〈流音〉/l/-/r/。《会話》L5: “How may I help you?”と SD2-1 “Is this the ... department?” (「～科の病棟」の英語表現学習とペアワークによる SD 練習)。	11	《発音》子音〈鼻音〉/m/-/n/, 〈歯茎音〉/ŋ/, 〈半母音〉/j/-/w/。《会話》L6-SD2-2: 院内施設の英語)。《文書》話し言葉(Spoken/Informal)と書き言葉(Written/Formal)の差異。	12	《会話》L6-KW~D1&2: “... have an appointment with...?” (予約確認)、L6-SD3: (～専門医の表現)。《文書》Spoken English vs. Written English。英語文書形式の発展。	13	《会話》L7-SE~D-7-1&2: “Answering Phone Calls” (電話応対)。L7-SD: (申し訳ありませんが...です)。《文書》英語文書の構成とレイアウト、英文書にある独特な表現。	14	《会話》L8-KW&SE: “Encouraging your patient” (療法を示す表現)。《文書》「5つのC」、ウェブ英語の発展、文献検索、専門的知識技術の継続的更新。「小テスト#2」	15	《会話》L8-SD4: “... will be effective.” 「小テスト#2」結果講評と期末テストの案内: 外国語の筆記試験では、上の講義で得た推論やイメージ同定の力を活用するとよい。
回数	講 義 内 容																																		
1	授業進行案内。明確な ESP 学習に向けた動機づけ。医療現場が求める ESP の 4 技能 (アンケート調査紹介)。音声学基礎 (音声器官、有声音 vs 無声音、母音 vs 子音)。																																		
2	医療現場にみられるカタカナ語 (歴史的背景と活用の意義)。《発音》日本語の「イ」と「エ」に似た母音。《会話》L1-KY: 英語文型の I～Ⅲの語順 (日本語の助詞と比較)。第Ⅱ文型を作る動詞 (be, seem, sound, look, feel)におけるニュアンスな違いの理解。																																		
3	《発音》リズム言語としての英語発音のアクセントとイントネーションと調音。母音の発音:「ア」に似た母音と曖昧母音の/ə/。《会話》L1-D1: “What is health?” 《解説》WHO による健康定義と専門分野の用語定義の重要性: CDC, rehab, PT, COVID-19 etc.																																		
4	《解説》母語の英語と国際共通語としての英語のちがい。《発音》「ウ」と「オ」に似た母音。《会話》L2-KW~D1: “I’m your physical therapist.” (自己紹介の重要性)																																		
5	《発音》母音〈短母音・長母音・二重母音〉。《会話》L2-D2: “I’m ..., Chief Physical Therapist.” (役職の紹介。相手の気持ちに寄り添う表現⇔仮定法を上手に利用する)																																		
6	《発音》子音〈破裂音〉、接尾辞による発音変化(/-d/, /-id/, /-t/)。《会話》L3-KW~D1: “May I help you?” (丁寧な問いかけ)と“Would you...? I would like you to ...” (婉曲表現)																																		
7	《発音》子音〈摩擦音〉/h/, /f/, /v/と〈歯擦音〉/θ/, /ð/。《会話》L3-D2~3: “Would you tell me WH-close S+V?” (第Ⅳ文型と複文: 予約の確認)。「小テスト#1」(約 30 分)																																		
8	「小テスト#1」結果講評。《発音》子音〈摩擦音〉/s/- /z/, /ʃ/-/ʒ/。《会話》L4-D1: “If you don’t feel well, please let me know.” (第Ⅴ文型と使役動詞: have, get, make, let)																																		
9	《発音》子音〈破擦音〉/ts/-/dz/, /tʃ/-/dʒ/。《会話》L4: “If you feel any pain ..., just let me know.” 容態の変化を気づかう声かけ。SD-1 入れ替えドリルの導入と練習。																																		
10	《発音》子音〈流音〉/l/-/r/。《会話》L5: “How may I help you?”と SD2-1 “Is this the ... department?” (「～科の病棟」の英語表現学習とペアワークによる SD 練習)。																																		
11	《発音》子音〈鼻音〉/m/-/n/, 〈歯茎音〉/ŋ/, 〈半母音〉/j/-/w/。《会話》L6-SD2-2: 院内施設の英語)。《文書》話し言葉(Spoken/Informal)と書き言葉(Written/Formal)の差異。																																		
12	《会話》L6-KW~D1&2: “... have an appointment with...?” (予約確認)、L6-SD3: (～専門医の表現)。《文書》Spoken English vs. Written English。英語文書形式の発展。																																		
13	《会話》L7-SE~D-7-1&2: “Answering Phone Calls” (電話応対)。L7-SD: (申し訳ありませんが...です)。《文書》英語文書の構成とレイアウト、英文書にある独特な表現。																																		
14	《会話》L8-KW&SE: “Encouraging your patient” (療法を示す表現)。《文書》「5つのC」、ウェブ英語の発展、文献検索、専門的知識技術の継続的更新。「小テスト#2」																																		
15	《会話》L8-SD4: “... will be effective.” 「小テスト#2」結果講評と期末テストの案内: 外国語の筆記試験では、上の講義で得た推論やイメージ同定の力を活用するとよい。																																		

【基礎分野】医学英語

担当講師	豊田 慎一	対象学年	I 部 1 年・II 部 1 年
概 要	理学療法士が医療現場に必要な医学専門用語を英語で学習し習得を目指し講義を進める。		
学習到達目標	・ 医療現場で日常的に使われる医学英語の習得 ・ 解剖学的名称の英語表記を習得 ・ 特に、骨名，筋名の英語表記読み書きを習得		
教 科 書	骨単 語源から覚える解剖学英語集〔骨編〕 NTS 肉単 語源から覚える解剖学英語集〔筋肉編〕 NTS		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 出席状況，レポート提出状況，小テスト，定期テストの結果を総合的に反映する ＜評価基準＞ 上記結果から 60 点以上にて合格		
授業計画	回数	内容	
	1	人体基本構造名称	
	2	解剖学的基本用語 1	
	3	基本用語 2（運動方向）	
	4	基本用語 3（姿勢）	
	5	骨名称	
	6	骨名称	
	7	骨名称	
	8	骨名称	
	9	骨名称	
	10	骨名称	
	11	筋の名称	
	12	筋の名称	
	13	筋の名称	
	14	筋の名称	
	15	筋の名称	

【専門基礎分野】解剖学Ⅰ

担当講師	長谷川 義美	対象学年	I 部 1 年・II 部 1 年																																
概 要	解剖学は人体の正常な形態と構造について学ぶもので、医療系学生にとって基礎医学の中でも最重要科目のひとつである。解剖学Ⅰでは組織学・運動器系（骨格系・筋系）・神経系・および感覚器系について学修する。																																		
学習到達目標	理学療法士として知っておくべき身体構造のうち運動器・神経系・感覚器との関連について学修し、国家試験合格、更には臨床でも応用のきく療法士を目指して教授された内容の把握に努めること。																																		
教 科 書	教科書：「人体の正常構造と機能 全 10 巻縮刷版」日本医事新報社 「解剖学カラーアトラス」第 8 版 J. W. Rohen 他 医学書院 「PT・OT のための多肢選択問題集 解剖学」第 15 版 一粒書房 「講義資料 解剖学Ⅰ」一粒書房																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 毎回、前回の確認テストを実施、基準以下の学生には再試験を行う。 ＜評価基準＞ 各回の確認テストおよび再試験で 100 満点中 60 点以上を合格とし、平均で 60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>解剖学総論：人体の大要と解剖学用語について理解する。 人体の構成：細胞の構造、および解剖学用語について説明できる。</td></tr><tr><td>2</td><td>人体の構成：細胞周期・細胞分裂について説明できる。組織・器官について理解できる。人体の器官系が説明できる。発生の仕組みが分かる。</td></tr><tr><td>3</td><td>骨学・関節学①：骨の基本構造が説明できる。骨の構成と発生について理解できる。骨の連結について理解できる。関節の種類が説明できる。</td></tr><tr><td>4</td><td>体幹の骨について脊柱と胸郭の構造と関節の構成が説明できる。</td></tr><tr><td>5</td><td>骨学・関節学②：上肢骨（上肢帯・上腕骨・前腕骨・手骨）の構造が説明できる。</td></tr><tr><td>6</td><td>上肢を構成する関節の構造と種類が説明できる。</td></tr><tr><td>7</td><td>骨学・関節学③：下肢骨（下肢帯・大腿骨・下腿骨・足骨）の構造が説明できる。</td></tr><tr><td>8</td><td>下肢を構成する関節の構造と種類が説明できる。</td></tr><tr><td>9</td><td>骨学・関節学④：頭蓋骨を構成する骨の構造について説明できる。</td></tr><tr><td>10</td><td>頭蓋骨の内頭蓋底にある孔と通過物について理解できる。 顎関節の構成について説明できる。</td></tr><tr><td>11</td><td>筋学①：筋の構成と種類について理解できる。</td></tr><tr><td>12</td><td>頭頸部の筋について説明できる。</td></tr><tr><td>13</td><td>筋学②：上肢帯・上腕の筋名・起始・停止・支配神経について説明できる。</td></tr><tr><td>14</td><td>前腕・手の筋名・起始・停止・支配神経について説明できる。</td></tr><tr><td>15</td><td>筋学③：下肢帯・大腿の筋名・起始・停止・支配神経について説明できる。</td></tr></table>			回数	内容	1	解剖学総論：人体の大要と解剖学用語について理解する。 人体の構成：細胞の構造、および解剖学用語について説明できる。	2	人体の構成：細胞周期・細胞分裂について説明できる。組織・器官について理解できる。人体の器官系が説明できる。発生の仕組みが分かる。	3	骨学・関節学①：骨の基本構造が説明できる。骨の構成と発生について理解できる。骨の連結について理解できる。関節の種類が説明できる。	4	体幹の骨について脊柱と胸郭の構造と関節の構成が説明できる。	5	骨学・関節学②：上肢骨（上肢帯・上腕骨・前腕骨・手骨）の構造が説明できる。	6	上肢を構成する関節の構造と種類が説明できる。	7	骨学・関節学③：下肢骨（下肢帯・大腿骨・下腿骨・足骨）の構造が説明できる。	8	下肢を構成する関節の構造と種類が説明できる。	9	骨学・関節学④：頭蓋骨を構成する骨の構造について説明できる。	10	頭蓋骨の内頭蓋底にある孔と通過物について理解できる。 顎関節の構成について説明できる。	11	筋学①：筋の構成と種類について理解できる。	12	頭頸部の筋について説明できる。	13	筋学②：上肢帯・上腕の筋名・起始・停止・支配神経について説明できる。	14	前腕・手の筋名・起始・停止・支配神経について説明できる。	15	筋学③：下肢帯・大腿の筋名・起始・停止・支配神経について説明できる。
回数	内容																																		
1	解剖学総論：人体の大要と解剖学用語について理解する。 人体の構成：細胞の構造、および解剖学用語について説明できる。																																		
2	人体の構成：細胞周期・細胞分裂について説明できる。組織・器官について理解できる。人体の器官系が説明できる。発生の仕組みが分かる。																																		
3	骨学・関節学①：骨の基本構造が説明できる。骨の構成と発生について理解できる。骨の連結について理解できる。関節の種類が説明できる。																																		
4	体幹の骨について脊柱と胸郭の構造と関節の構成が説明できる。																																		
5	骨学・関節学②：上肢骨（上肢帯・上腕骨・前腕骨・手骨）の構造が説明できる。																																		
6	上肢を構成する関節の構造と種類が説明できる。																																		
7	骨学・関節学③：下肢骨（下肢帯・大腿骨・下腿骨・足骨）の構造が説明できる。																																		
8	下肢を構成する関節の構造と種類が説明できる。																																		
9	骨学・関節学④：頭蓋骨を構成する骨の構造について説明できる。																																		
10	頭蓋骨の内頭蓋底にある孔と通過物について理解できる。 顎関節の構成について説明できる。																																		
11	筋学①：筋の構成と種類について理解できる。																																		
12	頭頸部の筋について説明できる。																																		
13	筋学②：上肢帯・上腕の筋名・起始・停止・支配神経について説明できる。																																		
14	前腕・手の筋名・起始・停止・支配神経について説明できる。																																		
15	筋学③：下肢帯・大腿の筋名・起始・停止・支配神経について説明できる。																																		

授業計画		
	回数	内容
	16	下腿・足の筋名・起始・停止・支配神経について説明できる。
	17	筋学④：体幹の前面・側面の筋名・起始・停止について説明できる。
	18	体幹の背面の筋名・起始・停止について説明できる。
	19	神経学①：神経の構造と構成について理解できる。
	20	主に上半身に分布する脊髄神経の種類や分布について説明できる。
	21	主に下半身に分布する脊髄神経の種類や分布について説明できる。
	22	神経学②：脳神経の種類と走向・分布について説明できる。
	23	中枢神経の髄膜の構成と種類について理解できる。脊髄の構造について説明できる。
	24	神経学③：脳室の構造、脳脊髄液の循環、脳神経核について説明できる。
	25	脳幹の種類と構成、小脳・間脳・大脳の構造と関係について説明できる。
	26	神経学④：求心性神経路について理解できる。
	27	遠心性神経路について理解できる。
	28	感覚器学①：視覚器について位置と構成を理解し、眼球壁や内容の構造を説明できる。眼球と外眼筋との関係、付属視覚器の説明が出来る。
	29	感覚器学②：聴覚器について、聴覚伝導路の関係を理解しそれぞれの構造を説明できる。内耳の骨迷路と膜迷路の関係を理解できる。
	30	感覚器学③：味覚器・嗅覚器の構造を理解できる。皮膚構造において感覚器の位置や種類、毛・脂腺・汗腺との関係を説明できる。

【専門基礎分野】解剖学Ⅱ

担当講師	長谷川 義美	対象学年	I 部 1 年・II 部 1 年																																
概 要	解剖学Ⅱの講義では循環器学（心臓・動脈系・静脈系・リンパ系）と内臓学（消化器・呼吸器・泌尿器・生殖器・内分泌器）を学修する。後半の実習では骨学・組織学と筋学・神経学の復習に加え人体解剖見学実習を行う。																																		
学習到達目標	解剖学分野の循環器学と内臓学を理解する。後半の実習について、骨学実習は標本を用いて講義内容を再確認し、組織学実習では顕微鏡で微細構造を理解する。人体解剖見学実習では局所的アプローチから立体的に人体構造を確認する。																																		
教 科 書	教科書：「人体の正常構造と機能 全 10 巻縮刷版」日本医事新報社 「解剖学カラーアトラス」第 8 版 J. W. Rohen 他 医学書院 「PT・OT のための多肢選択問題集 解剖学」第 15 版 一粒書房 「講義資料 解剖学Ⅱ」一粒書房 「解剖学実習提要」一粒書房																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 解剖学Ⅰと同様、循環器学と内臓学は毎回の確認テストを実施し、基準以下は再試験を行う。実習ではスケッチ・レポート・口頭試問等を課し、総合評価する。 ＜評価基準＞ 講義 40%、本学実習 30%、人体解剖見学実習 30%とし、60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>循環器学①：循環器の構成が分かる。心臓の構造について説明できる。</td></tr><tr><td>2</td><td>頭頸部・脳・上肢に分布する動脈系について説明できる。</td></tr><tr><td>3</td><td>循環器学②：体幹・下肢に分布する動脈系について説明できる。</td></tr><tr><td>4</td><td>胎児循環・静脈系・リンパ系について説明できる。</td></tr><tr><td>5</td><td>内臓学①：呼吸器について理解し、鼻腔・咽頭・喉頭・気管の上気道について説明できる。発声器の構造を理解できる。</td></tr><tr><td>6</td><td>肺について、胸郭との関係や気管支・肺胞・胸膜について説明できる。縦隔の概念を理解し、胸部器官の位置関係を説明できる。</td></tr><tr><td>7</td><td>内臓学②：消化器の構成を理解し、口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸・肛門の消化管構造を説明できる。</td></tr><tr><td>8</td><td>唾液腺・肝臓・膵臓などの消化腺の構造について説明できる。腹膜について理解し、腹部内臓の位置関係が説明できる。</td></tr><tr><td>9</td><td>内臓学③：泌尿器について腎臓の構造を理解できる。</td></tr><tr><td>10</td><td>排尿器官の構成が分かり、尿路を理解できる。</td></tr><tr><td>11</td><td>内臓学④：男性生殖器について構造と精路を説明できる。</td></tr><tr><td>12</td><td>女性生殖器と性周期との関係を理解できる。</td></tr><tr><td>13</td><td>内臓学⑤：内分泌器の種類と位置関係を理解して、各内分泌器官の構造について説明できる。(1)</td></tr><tr><td>14</td><td>内分泌器の種類と位置関係を理解して、各内分泌器官の構造について説明できる。(2)</td></tr><tr><td>15</td><td>人体解剖学見学実習① (1)</td></tr></table>			回数	内容	1	循環器学①：循環器の構成が分かる。心臓の構造について説明できる。	2	頭頸部・脳・上肢に分布する動脈系について説明できる。	3	循環器学②：体幹・下肢に分布する動脈系について説明できる。	4	胎児循環・静脈系・リンパ系について説明できる。	5	内臓学①：呼吸器について理解し、鼻腔・咽頭・喉頭・気管の上気道について説明できる。発声器の構造を理解できる。	6	肺について、胸郭との関係や気管支・肺胞・胸膜について説明できる。縦隔の概念を理解し、胸部器官の位置関係を説明できる。	7	内臓学②：消化器の構成を理解し、口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸・肛門の消化管構造を説明できる。	8	唾液腺・肝臓・膵臓などの消化腺の構造について説明できる。腹膜について理解し、腹部内臓の位置関係が説明できる。	9	内臓学③：泌尿器について腎臓の構造を理解できる。	10	排尿器官の構成が分かり、尿路を理解できる。	11	内臓学④：男性生殖器について構造と精路を説明できる。	12	女性生殖器と性周期との関係を理解できる。	13	内臓学⑤：内分泌器の種類と位置関係を理解して、各内分泌器官の構造について説明できる。(1)	14	内分泌器の種類と位置関係を理解して、各内分泌器官の構造について説明できる。(2)	15	人体解剖学見学実習① (1)
回数	内容																																		
1	循環器学①：循環器の構成が分かる。心臓の構造について説明できる。																																		
2	頭頸部・脳・上肢に分布する動脈系について説明できる。																																		
3	循環器学②：体幹・下肢に分布する動脈系について説明できる。																																		
4	胎児循環・静脈系・リンパ系について説明できる。																																		
5	内臓学①：呼吸器について理解し、鼻腔・咽頭・喉頭・気管の上気道について説明できる。発声器の構造を理解できる。																																		
6	肺について、胸郭との関係や気管支・肺胞・胸膜について説明できる。縦隔の概念を理解し、胸部器官の位置関係を説明できる。																																		
7	内臓学②：消化器の構成を理解し、口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸・肛門の消化管構造を説明できる。																																		
8	唾液腺・肝臓・膵臓などの消化腺の構造について説明できる。腹膜について理解し、腹部内臓の位置関係が説明できる。																																		
9	内臓学③：泌尿器について腎臓の構造を理解できる。																																		
10	排尿器官の構成が分かり、尿路を理解できる。																																		
11	内臓学④：男性生殖器について構造と精路を説明できる。																																		
12	女性生殖器と性周期との関係を理解できる。																																		
13	内臓学⑤：内分泌器の種類と位置関係を理解して、各内分泌器官の構造について説明できる。(1)																																		
14	内分泌器の種類と位置関係を理解して、各内分泌器官の構造について説明できる。(2)																																		
15	人体解剖学見学実習① (1)																																		

授業計画		
	回数	内容
	16	人体解剖学見学実習① (2)
	17	骨学実習①：上肢骨 (1)
	18	骨学実習①：上肢骨 (2)
	19	人体解剖学見学実習② (1)
	20	人体解剖学見学実習② (2)
	21	骨学実習②：下肢骨 (1)
	22	骨学実習②：下肢骨 (2)
	23	人体解剖学見学実習③ (1)
	24	人体解剖学見学実習③ (2)
	25	筋学・組織学実習：上肢の骨格筋
	26	筋学・組織学実習：下肢の骨格筋
	27	筋学・組織学実習：骨・筋
	28	筋学・組織学実習：神経
	29	神経学実習：脳のスケッチ
	30	神経学実習：脳標本を用いた確認

【専門基礎分野】生理学 I

担当講師	中谷 直史	対象学年	I 部 1 年・II 部 1 年																												
概 要	生理学Ⅰでは人体の構成要素であるアミノ酸、タンパク質の働きから、生命の最小単位である細胞の微小構造と機能を学習し、それをもとに神経系の構成と働き、骨格筋の分類と機能的特徴について学習する。くわえて感覚器（目、耳）の構造と働きを理解する。とくに臨床現場で必要とされる運動器の深い理解を目的とし、運動のための神経系の制御様式についての理解を目標とする。																														
学習到達目標	以下の項目を到達目標とする。 ・各組織、器官の構造と働きを理解し得た知識を説明できる ・ヒトの体がどのようにして動いているか深く理解し説明できる ・神経系をはじめ骨格筋が破綻した場合、生じる疾患が予測できる																														
教 科 書	教科書：「人体の正常構造と機能 全 10 巻縮刷版」日本医事新報社 「講義資料 生理学Ⅰ」一粒書房 参考図書：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学 第 5 版(ISBN-13：978-426003644-3)解剖生理をおもしろく学ぶ (ISBN-13：978-4907176280)																														
評価方法	<評価方法と割合> 毎回レポート課題を提出、講義開始時に小テストを実施、それに加え中間試験と定期試験を実施し、それぞれの評価割合を 10%、10%、40%、40%とし評価する。学習意欲がみられない、講義態度が悪いなど減点対象となるので注意すること <評価基準> 上記評価割合の合計が 60%以上を合格とする。																														
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>DNA、RNA、アミノ酸、タンパク質について理解する</td></tr><tr><td>2</td><td>タンパク質の構造、脂質の種類について理解する</td></tr><tr><td>3</td><td>細胞を構成する細胞内小器官の働きと様々な細胞について理解する</td></tr><tr><td>4</td><td>ミトコンドリアで産生される ATP について理解する</td></tr><tr><td>5</td><td>細胞膜を境にして生じる静止電位の発生について理解する</td></tr><tr><td>6</td><td>活動電位の発生とその仕組みについて理解する</td></tr><tr><td>7</td><td>神経細胞の構造、分類について理解する (1) 神経細胞の構造、細胞体、軸索、髄鞘</td></tr><tr><td>8</td><td>神経細胞の構造、分類について理解する (2) 神経細胞同士の接続、シナプス形成</td></tr><tr><td>9</td><td>神経細胞の構造、分類について理解する (3) 末梢神経の種類と分類方法</td></tr><tr><td>10</td><td>神経細胞の構造、分類について理解する (4) 脳神経、脊髄神経の種類と働き</td></tr><tr><td>11</td><td>脳の構造について理解する (1) 神経系の成り立ち、脳、脊髄の構造</td></tr><tr><td>12</td><td>脳の構造について理解する (2) 脊髄の上行路、下行路</td></tr><tr><td>13</td><td>脳の構造について理解する (3) 脳の構造 (中脳、小脳、脳幹)</td></tr></table>			回数	内容	1	DNA、RNA、アミノ酸、タンパク質について理解する	2	タンパク質の構造、脂質の種類について理解する	3	細胞を構成する細胞内小器官の働きと様々な細胞について理解する	4	ミトコンドリアで産生される ATP について理解する	5	細胞膜を境にして生じる静止電位の発生について理解する	6	活動電位の発生とその仕組みについて理解する	7	神経細胞の構造、分類について理解する (1) 神経細胞の構造、細胞体、軸索、髄鞘	8	神経細胞の構造、分類について理解する (2) 神経細胞同士の接続、シナプス形成	9	神経細胞の構造、分類について理解する (3) 末梢神経の種類と分類方法	10	神経細胞の構造、分類について理解する (4) 脳神経、脊髄神経の種類と働き	11	脳の構造について理解する (1) 神経系の成り立ち、脳、脊髄の構造	12	脳の構造について理解する (2) 脊髄の上行路、下行路	13	脳の構造について理解する (3) 脳の構造 (中脳、小脳、脳幹)
回数	内容																														
1	DNA、RNA、アミノ酸、タンパク質について理解する																														
2	タンパク質の構造、脂質の種類について理解する																														
3	細胞を構成する細胞内小器官の働きと様々な細胞について理解する																														
4	ミトコンドリアで産生される ATP について理解する																														
5	細胞膜を境にして生じる静止電位の発生について理解する																														
6	活動電位の発生とその仕組みについて理解する																														
7	神経細胞の構造、分類について理解する (1) 神経細胞の構造、細胞体、軸索、髄鞘																														
8	神経細胞の構造、分類について理解する (2) 神経細胞同士の接続、シナプス形成																														
9	神経細胞の構造、分類について理解する (3) 末梢神経の種類と分類方法																														
10	神経細胞の構造、分類について理解する (4) 脳神経、脊髄神経の種類と働き																														
11	脳の構造について理解する (1) 神経系の成り立ち、脳、脊髄の構造																														
12	脳の構造について理解する (2) 脊髄の上行路、下行路																														
13	脳の構造について理解する (3) 脳の構造 (中脳、小脳、脳幹)																														

授業計画		
	回数	内容
	14	脳の構造について理解する (4) 脳の構造 (視床下部、間脳)
	15	脳の高次機能について理解する (1) 記憶、学習、脳波
	16	脳の高次機能について理解する (2) 睡眠の分類、脳波の特徴
	17	前半のまとめ DNA、タンパク質、細胞、神経、脳
	18	中間試験
	19	骨の構造とその特徴を理解する 骨、皮質骨、海綿骨、骨髄
	20	筋の種類とその特徴を理解する 骨格筋、平滑筋、心筋
	21	骨格筋の構造と収縮様式について理解する
	22	筋紡錘、運動単位、筋電図について理解する
	23	心筋の構造と、心臓での興奮の発生について理解する
	24	心音、心電図の特徴、測定方法について理解する
	25	平滑筋の構造と収縮メカニズムについて理解する
	26	感覚の分類と感覚器について理解する
	27	目の構造、眼球を支配する筋について理解する
	28	視覚情報の伝達経路について理解する
	29	耳の構造、音の聞こえ方について理解する
	30	後半のまとめ 骨、筋 (心筋、平滑筋、骨格筋)、感覚器

【専門基礎分野】生理学Ⅱ

担当講師	中谷 直史	対象学年	I 部 1 年・Ⅱ部 1 年																														
概 要	生理学Ⅱでは、我々の体がどのようにして制御され、恒常性が維持されているか理解し説明できるようにする。呼吸、血液循環、ホルモンによる制御、消化器の働き、体温調節、生殖に関する組織とその働きについて深く学習し理解する。ある組織に異常をきたすと、どういった疾患を生じるのか各組織を関連付けて考察出来る事を目標とする。																																
学習到達目標	以下の項目を到達目標とする。 ・循環器系や呼吸器系の全身での働き深く理解し考察できる ・どのようにして我々の体は恒常性を維持しているのか説明できる ・全身の恒常性の維持について理解し、ある組織が破綻した場合、生じる疾患が予測できる																																
教 科 書	教科書：「人体の正常構造と機能 全 10 巻縮刷版」日本医事新報社 「講義資料 生理学Ⅰ」一粒書房 参考図書：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学 第 5 版(ISBN-13：978-426003644-3)解剖生理をおもしろく学ぶ (ISBN-13：978-4907176280)																																
評価方法	<評価方法と割合> 毎回レポート課題を提出、講義開始時に小テストを実施、それに加え中間試験と定期試験を実施し、それぞれの評価割合を 10%、10%、40%、40%とし評価する。学習意欲がみられない、講義態度が悪いなど減点対象となるので注意すること <評価基準> 上記評価割合の合計が 60%以上を合格とする。																																
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>血球細胞の種類と働きについて (1) 赤血球の産生とその働き、血液型</td></tr><tr><td>2</td><td>血球細胞の種類と働きについて (2) 赤血球による酸素運搬</td></tr><tr><td>3</td><td>血球細胞の種類と働きについて (3) 白血球の種類と働き</td></tr><tr><td>4</td><td>血球細胞の種類と働きについて (4) 免疫の働きについて、自然免疫、獲得免疫、アレルギー</td></tr><tr><td>5</td><td>血球細胞の種類と働きについて (5) 血小板の働き (一時止血、二次止血)</td></tr><tr><td>6</td><td>血球細胞の種類と働きについて (6) 血管の構造と損傷時の変化</td></tr><tr><td>7</td><td>体の中の血液循環 (1) 血圧のしくみ</td></tr><tr><td>8</td><td>体の中の血液循環 (2) 血圧を決める要素、血圧測定法</td></tr><tr><td>9</td><td>体の中の血液循環 (3) 心機能、循環血液量、</td></tr><tr><td>10</td><td>体の中の血液循環 (4) 末梢血管抵抗、心臓ポンプ機能</td></tr><tr><td>11</td><td>体の中の血液循環 (5) 前負荷、後負荷</td></tr><tr><td>12</td><td>体の中の血液循環 (6) 冠循環、脳への血流</td></tr><tr><td>13</td><td>体の中の循環 (1) 呼吸、肺の構造と換気機能</td></tr><tr><td>14</td><td>体の中の循環 (2) 肺のガス交換、肺胞の構造、スパイロメータ</td></tr></table>			回数	内容	1	血球細胞の種類と働きについて (1) 赤血球の産生とその働き、血液型	2	血球細胞の種類と働きについて (2) 赤血球による酸素運搬	3	血球細胞の種類と働きについて (3) 白血球の種類と働き	4	血球細胞の種類と働きについて (4) 免疫の働きについて、自然免疫、獲得免疫、アレルギー	5	血球細胞の種類と働きについて (5) 血小板の働き (一時止血、二次止血)	6	血球細胞の種類と働きについて (6) 血管の構造と損傷時の変化	7	体の中の血液循環 (1) 血圧のしくみ	8	体の中の血液循環 (2) 血圧を決める要素、血圧測定法	9	体の中の血液循環 (3) 心機能、循環血液量、	10	体の中の血液循環 (4) 末梢血管抵抗、心臓ポンプ機能	11	体の中の血液循環 (5) 前負荷、後負荷	12	体の中の血液循環 (6) 冠循環、脳への血流	13	体の中の循環 (1) 呼吸、肺の構造と換気機能	14	体の中の循環 (2) 肺のガス交換、肺胞の構造、スパイロメータ
回数	内容																																
1	血球細胞の種類と働きについて (1) 赤血球の産生とその働き、血液型																																
2	血球細胞の種類と働きについて (2) 赤血球による酸素運搬																																
3	血球細胞の種類と働きについて (3) 白血球の種類と働き																																
4	血球細胞の種類と働きについて (4) 免疫の働きについて、自然免疫、獲得免疫、アレルギー																																
5	血球細胞の種類と働きについて (5) 血小板の働き (一時止血、二次止血)																																
6	血球細胞の種類と働きについて (6) 血管の構造と損傷時の変化																																
7	体の中の血液循環 (1) 血圧のしくみ																																
8	体の中の血液循環 (2) 血圧を決める要素、血圧測定法																																
9	体の中の血液循環 (3) 心機能、循環血液量、																																
10	体の中の血液循環 (4) 末梢血管抵抗、心臓ポンプ機能																																
11	体の中の血液循環 (5) 前負荷、後負荷																																
12	体の中の血液循環 (6) 冠循環、脳への血流																																
13	体の中の循環 (1) 呼吸、肺の構造と換気機能																																
14	体の中の循環 (2) 肺のガス交換、肺胞の構造、スパイロメータ																																

授業計画		
	回数	内容
	15	体の中の循環 (3) 血中二酸化炭素の運搬、呼吸による二酸化炭素濃度の調節
	16	体の中の循環 (4) 呼吸による酸塩基平衡の調節、呼吸の異常
	17	前半のまとめ 血液細胞、血液循環、呼吸、酸塩基平衡
	18	中間テスト
	19	腎臓の構造と機能
	20	尿の生成、再吸収と分泌、クリアランス
	21	3 大栄養素の種類と働き
	22	栄養素の代謝によるエネルギーの産生、体温の調節
	23	3 大栄養素の消化、吸収 (1) 糖質、タンパク質の分解と吸収
	24	3 大栄養素の消化、吸収 (2) 脂質の分解と吸収、肝臓の働き
	25	内分泌 (1) ホルモンの構造による分類と働き
	26	内分泌 (2) ホルモンの調節機構、ネガティブフィードバック、ポジティブフィードバック
	27	生殖 (1) 精子、卵子の構造と形成、
	28	生殖 (2) 性ホルモンの制御。受精と個体発生
	29	発生 胎児の発生、胎児の血液循環
	30	運動生理学、後半のまとめ

【専門基礎分野】運動学Ⅰ

担当講師	沼倉 功	対象学年	I 部 1 年・II 部 1 年																																
概 要	人間は様々な活動（運動）を営むことができる生物ということを理解できるようになるため、人間の活動（運動）を細分化し、その基本的なメカニズムを関節運動の側面から学ぶ。																																		
学習到達目標	① 関節の種類について説明できる ② 関節の構成要素について説明できる ③ 関節運動に必要なメカニズムの諸原理について説明できる																																		
教 科 書	基礎運動学 第 6 版																																		
評価方法	<評価方法と割合> 講義最終試験（定期試験）100 点 <評価基準> 上記の試験で、60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>運動、運動学における定義について理解を深める。</td></tr><tr><td>2</td><td>運動学における目的を理解する</td></tr><tr><td>3</td><td>基本となる身体運動の面と軸における理解を深める。</td></tr><tr><td>4</td><td>骨運動における面と軸における学修と理解を深める。</td></tr><tr><td>5</td><td>上肢の関節の種類とその構成要素、自由度について理解を深める①。</td></tr><tr><td>6</td><td>上肢の関節の種類とその構成要素、自由度について理解を深める②。</td></tr><tr><td>7</td><td>下肢の関節の種類とその構成要素、自由度について理解を深める①。</td></tr><tr><td>8</td><td>下肢の関節の種類とその構成要素、自由度について理解を深める②。</td></tr><tr><td>9</td><td>体幹の関節の種類とその構成要素、自由度について理解を深める。</td></tr><tr><td>10</td><td>力学の基礎①運動力学の定義の理解、および内力、外力、重力という力における分類の理解を深める。</td></tr><tr><td>11</td><td>力学の基礎②ベクトル、モーメント、トルクにおける理解を深める。</td></tr><tr><td>12</td><td>力学の基礎③ニュートンの法則における種類の理解を深める。</td></tr><tr><td>13</td><td>力学の基礎④身体とてこにおける種類の理解を深める。</td></tr><tr><td>14</td><td>運動器の構造と機能①筋、腱の基本構造の理解を深める。</td></tr><tr><td>15</td><td>運動器の構造と機能②関節、靱帯の基本構造の理解を深める。</td></tr></table>			回数	内容	1	運動、運動学における定義について理解を深める。	2	運動学における目的を理解する	3	基本となる身体運動の面と軸における理解を深める。	4	骨運動における面と軸における学修と理解を深める。	5	上肢の関節の種類とその構成要素、自由度について理解を深める①。	6	上肢の関節の種類とその構成要素、自由度について理解を深める②。	7	下肢の関節の種類とその構成要素、自由度について理解を深める①。	8	下肢の関節の種類とその構成要素、自由度について理解を深める②。	9	体幹の関節の種類とその構成要素、自由度について理解を深める。	10	力学の基礎①運動力学の定義の理解、および内力、外力、重力という力における分類の理解を深める。	11	力学の基礎②ベクトル、モーメント、トルクにおける理解を深める。	12	力学の基礎③ニュートンの法則における種類の理解を深める。	13	力学の基礎④身体とてこにおける種類の理解を深める。	14	運動器の構造と機能①筋、腱の基本構造の理解を深める。	15	運動器の構造と機能②関節、靱帯の基本構造の理解を深める。
回数	内容																																		
1	運動、運動学における定義について理解を深める。																																		
2	運動学における目的を理解する																																		
3	基本となる身体運動の面と軸における理解を深める。																																		
4	骨運動における面と軸における学修と理解を深める。																																		
5	上肢の関節の種類とその構成要素、自由度について理解を深める①。																																		
6	上肢の関節の種類とその構成要素、自由度について理解を深める②。																																		
7	下肢の関節の種類とその構成要素、自由度について理解を深める①。																																		
8	下肢の関節の種類とその構成要素、自由度について理解を深める②。																																		
9	体幹の関節の種類とその構成要素、自由度について理解を深める。																																		
10	力学の基礎①運動力学の定義の理解、および内力、外力、重力という力における分類の理解を深める。																																		
11	力学の基礎②ベクトル、モーメント、トルクにおける理解を深める。																																		
12	力学の基礎③ニュートンの法則における種類の理解を深める。																																		
13	力学の基礎④身体とてこにおける種類の理解を深める。																																		
14	運動器の構造と機能①筋、腱の基本構造の理解を深める。																																		
15	運動器の構造と機能②関節、靱帯の基本構造の理解を深める。																																		

【専門基礎分野】運動学Ⅱ

担当講師	宮田 かおり	対象学年	I 部 1 年・Ⅱ部 1 年																																
概 要	運動学（kinesiology）とは生体の運動を研究する重要な学問領域で、理学療法で行われる評価や治療のために必要不可欠な基礎的知識となる。 上肢帯の骨・関節や筋、靱帯、腱を中心とする運動器の構造と機能、物理学に基づく生体力学などを理解して、心身の運動の発現を構成する基本的な因子と臨床応用についての知識を学習し、病変による運動関連障害を分析、治療するための基礎を身につけることを目的とする。																																		
学習到達目標	上肢帯における関節運動のメカニズムとその障害を機能解剖学的・生体力学的に理解し、分析するための基本的知識を習得する。さらに運動が生体に及ぼす影響について臨床応用できる知識を習得する。																																		
教 科 書	基礎運動学（医歯薬出版株式会社） 筋骨格系のキネシオロジー（医歯薬出版株式会社） 関節内運動学（南江堂） 配布資料																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 講義確認テスト（小テスト）10％ 講義最終試験（定期試験）90％ ＜評価基準＞ 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>胸鎖関節，肩鎖関節の構造と機能（肩甲骨の動き）①</td></tr><tr><td>2</td><td>胸鎖関節，肩鎖関節の構造と機能（肩甲骨の動き）②</td></tr><tr><td>3</td><td>肩甲上腕関節の構造と機能①</td></tr><tr><td>4</td><td>肩甲上腕関節の構造と機能②</td></tr><tr><td>5</td><td>肩複合体の運動①</td></tr><tr><td>6</td><td>肩複合体の運動②</td></tr><tr><td>7</td><td>肘部の関節の構造と機能①</td></tr><tr><td>8</td><td>肘部の関節の構造と機能②</td></tr><tr><td>9</td><td>前腕の関節の構造と機能①</td></tr><tr><td>10</td><td>前腕の関節の構造と機能②</td></tr><tr><td>11</td><td>手関節の構造と機能①</td></tr><tr><td>12</td><td>手関節の構造と機能②</td></tr><tr><td>13</td><td>手指関節の構造と機能①</td></tr><tr><td>14</td><td>手指関節の構造と機能②</td></tr><tr><td>15</td><td>手指関節の構造と機能③</td></tr></table> ・各単元終了後に講義確認テストを実施します。 ・スライドまたは骨格模型を用いて講義を行います。開始までに準備あるいは基礎医学実習室への移動をお願いします。			回数	内容	1	胸鎖関節，肩鎖関節の構造と機能（肩甲骨の動き）①	2	胸鎖関節，肩鎖関節の構造と機能（肩甲骨の動き）②	3	肩甲上腕関節の構造と機能①	4	肩甲上腕関節の構造と機能②	5	肩複合体の運動①	6	肩複合体の運動②	7	肘部の関節の構造と機能①	8	肘部の関節の構造と機能②	9	前腕の関節の構造と機能①	10	前腕の関節の構造と機能②	11	手関節の構造と機能①	12	手関節の構造と機能②	13	手指関節の構造と機能①	14	手指関節の構造と機能②	15	手指関節の構造と機能③
回数	内容																																		
1	胸鎖関節，肩鎖関節の構造と機能（肩甲骨の動き）①																																		
2	胸鎖関節，肩鎖関節の構造と機能（肩甲骨の動き）②																																		
3	肩甲上腕関節の構造と機能①																																		
4	肩甲上腕関節の構造と機能②																																		
5	肩複合体の運動①																																		
6	肩複合体の運動②																																		
7	肘部の関節の構造と機能①																																		
8	肘部の関節の構造と機能②																																		
9	前腕の関節の構造と機能①																																		
10	前腕の関節の構造と機能②																																		
11	手関節の構造と機能①																																		
12	手関節の構造と機能②																																		
13	手指関節の構造と機能①																																		
14	手指関節の構造と機能②																																		
15	手指関節の構造と機能③																																		

【専門基礎分野】運動学Ⅲ

担当講師	水上 志帆・岡田 恭兵	対象学年	I 部 1 年・II 部 1 年																																
概 要	人間はさまざまな活動（運動）を営むことができる生物ということを理解し、解剖学で学んだ人体の構造と機能に関して、静的なイメージを 3 次元的・動的にイメージできるようにする。また、人間の活動（運動）を細分化し、体幹の関節構造と機能についてその基本的なメカニズムを学ぶ。																																		
学習到達目標	①頭部・顔面・体幹に関する関節の種類とその構成要素について説明できる。 ②頭部・体幹の関節運動のメカニズムについて説明できる。																																		
教 科 書	基礎運動学 第 6 版 医歯薬出版株式会社 筋骨格系のキネシオロジー 原著第 3 版 エルゼビア・ジャパン 関節内運動学 南江堂																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 定期試験 100％ ＜評価基準＞ 以上の評価割合の総合点で評価し,60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>脊柱総論 体幹に関わる骨・関節に関して理解する。</td></tr><tr><td>2</td><td>脊柱の構造・働き、脊椎の骨学的特徴について理解する。</td></tr><tr><td>3</td><td>椎間円板の構造・働きについて理解する。</td></tr><tr><td>4</td><td>脊柱の靱帯の構造・働きについて理解する。</td></tr><tr><td>5</td><td>頚椎の関節運動に関する構成要素について理解する。</td></tr><tr><td>6</td><td>頚椎の関節運動のメカニズムについて理解する。</td></tr><tr><td>7</td><td>胸椎・腰椎の関節運動に関する構成要素について理解する。</td></tr><tr><td>8</td><td>胸椎・腰椎の関節運動のメカニズムについて理解する。</td></tr><tr><td>9</td><td>腰仙関節に関する構成要素、関節運動のメカニズムについて理解する。</td></tr><tr><td>10</td><td>脊椎全体の運動、脊椎に関わる疾患について理解する。</td></tr><tr><td>11</td><td>胸部の呼吸運動に関する構成要素について理解する。</td></tr><tr><td>12</td><td>胸部の呼吸運動のメカニズムについて理解する。</td></tr><tr><td>13</td><td>顔面の構成要素と顎関節の運動メカニズムに関して理解する。</td></tr><tr><td>14</td><td>表情と咀嚼に関与する構成要素を理解する。</td></tr><tr><td>15</td><td>姿勢について理解する。</td></tr></table> ・スライドを用いた講義を中心に行い、講義の後半に講義内容に即した課題に対するグループワークを行う。 ・各回開始時に前回の講義の確認小テストを実施する。			回数	内容	1	脊柱総論 体幹に関わる骨・関節に関して理解する。	2	脊柱の構造・働き、脊椎の骨学的特徴について理解する。	3	椎間円板の構造・働きについて理解する。	4	脊柱の靱帯の構造・働きについて理解する。	5	頚椎の関節運動に関する構成要素について理解する。	6	頚椎の関節運動のメカニズムについて理解する。	7	胸椎・腰椎の関節運動に関する構成要素について理解する。	8	胸椎・腰椎の関節運動のメカニズムについて理解する。	9	腰仙関節に関する構成要素、関節運動のメカニズムについて理解する。	10	脊椎全体の運動、脊椎に関わる疾患について理解する。	11	胸部の呼吸運動に関する構成要素について理解する。	12	胸部の呼吸運動のメカニズムについて理解する。	13	顔面の構成要素と顎関節の運動メカニズムに関して理解する。	14	表情と咀嚼に関与する構成要素を理解する。	15	姿勢について理解する。
回数	内容																																		
1	脊柱総論 体幹に関わる骨・関節に関して理解する。																																		
2	脊柱の構造・働き、脊椎の骨学的特徴について理解する。																																		
3	椎間円板の構造・働きについて理解する。																																		
4	脊柱の靱帯の構造・働きについて理解する。																																		
5	頚椎の関節運動に関する構成要素について理解する。																																		
6	頚椎の関節運動のメカニズムについて理解する。																																		
7	胸椎・腰椎の関節運動に関する構成要素について理解する。																																		
8	胸椎・腰椎の関節運動のメカニズムについて理解する。																																		
9	腰仙関節に関する構成要素、関節運動のメカニズムについて理解する。																																		
10	脊椎全体の運動、脊椎に関わる疾患について理解する。																																		
11	胸部の呼吸運動に関する構成要素について理解する。																																		
12	胸部の呼吸運動のメカニズムについて理解する。																																		
13	顔面の構成要素と顎関節の運動メカニズムに関して理解する。																																		
14	表情と咀嚼に関与する構成要素を理解する。																																		
15	姿勢について理解する。																																		

【専門基礎分野】運動学Ⅳ

担当講師	沼倉 功	対象学年	I 部 1 年・II 部 1 年																																
概 要	人間はさまざまな活動（運動）を営むことができる生物ということを理解できるようになるため、人間の活動（運動）を細分化し、その基本的なメカニズムを学ぶ。																																		
学習到達目標	I 下肢・下肢帯の関節運動のメカニズムについて理解する。 ① 関節の種類とその構成要素について説明できる。 ② 下肢・下肢帯の関節運動のメカニズムについて説明できる。 II 基本動作のメカニズムについて理解する。 ① 基本的動作の種類（寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行）について説明できる。 ③ 基本的動作のメカニズムについて説明できる。																																		
教 科 書	・基礎運動学（医歯薬出版株式会社） ・配布資料																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 講義最終試験（定期試験）100 点 ＜評価基準＞ 上記の試験で、60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>恥骨結合と仙腸関節の関節の構造と機能について理解する。</td></tr><tr><td>2</td><td>恥骨結合と仙腸関節の関節の構造と機能について理解する。</td></tr><tr><td>3</td><td>股関節の構造と機能について理解する。</td></tr><tr><td>4</td><td>股関節の構造と機能について理解する。</td></tr><tr><td>5</td><td>膝部・下腿の関節の構造と機能について理解する。</td></tr><tr><td>6</td><td>膝部・下腿の関節の構造と機能について理解する。</td></tr><tr><td>7</td><td>膝部・下腿の関節の構造と機能について理解する。</td></tr><tr><td>8</td><td>足部と足指の関節と構造と機能について理解する。</td></tr><tr><td>9</td><td>足部と足指の関節と構造と機能について理解する。</td></tr><tr><td>10</td><td>足部と足指の関節と構造と機能について理解する。</td></tr><tr><td>11</td><td>基本的動作（寝返り、起き上がり）のメカニズムについて理解する。</td></tr><tr><td>12</td><td>基本的動作（寝返り、起き上がり）のメカニズムについて理解する。</td></tr><tr><td>13</td><td>基本的動作（立ち上がり）メカニズムについて理解する。</td></tr><tr><td>14</td><td>基本的動作（歩行）メカニズムについて理解する。</td></tr><tr><td>15</td><td>基本的動作（歩行）メカニズムについて理解する。</td></tr></table> ・骨標本・ベッドを使用しますので、講義前に準備しておいてください。 ・講義中に実技（デモンストレーション含む）を行いますので、動きやすい服装を準備しておいてください。			回数	内容	1	恥骨結合と仙腸関節の関節の構造と機能について理解する。	2	恥骨結合と仙腸関節の関節の構造と機能について理解する。	3	股関節の構造と機能について理解する。	4	股関節の構造と機能について理解する。	5	膝部・下腿の関節の構造と機能について理解する。	6	膝部・下腿の関節の構造と機能について理解する。	7	膝部・下腿の関節の構造と機能について理解する。	8	足部と足指の関節と構造と機能について理解する。	9	足部と足指の関節と構造と機能について理解する。	10	足部と足指の関節と構造と機能について理解する。	11	基本的動作（寝返り、起き上がり）のメカニズムについて理解する。	12	基本的動作（寝返り、起き上がり）のメカニズムについて理解する。	13	基本的動作（立ち上がり）メカニズムについて理解する。	14	基本的動作（歩行）メカニズムについて理解する。	15	基本的動作（歩行）メカニズムについて理解する。
回数	内容																																		
1	恥骨結合と仙腸関節の関節の構造と機能について理解する。																																		
2	恥骨結合と仙腸関節の関節の構造と機能について理解する。																																		
3	股関節の構造と機能について理解する。																																		
4	股関節の構造と機能について理解する。																																		
5	膝部・下腿の関節の構造と機能について理解する。																																		
6	膝部・下腿の関節の構造と機能について理解する。																																		
7	膝部・下腿の関節の構造と機能について理解する。																																		
8	足部と足指の関節と構造と機能について理解する。																																		
9	足部と足指の関節と構造と機能について理解する。																																		
10	足部と足指の関節と構造と機能について理解する。																																		
11	基本的動作（寝返り、起き上がり）のメカニズムについて理解する。																																		
12	基本的動作（寝返り、起き上がり）のメカニズムについて理解する。																																		
13	基本的動作（立ち上がり）メカニズムについて理解する。																																		
14	基本的動作（歩行）メカニズムについて理解する。																																		
15	基本的動作（歩行）メカニズムについて理解する。																																		

【専門基礎分野】 人間発達学

担当講師	三宅　わか子	対象学年	I 部 1 年・Ⅱ部 1 年																																
概　　要	人間を生涯にわたり発達する存在ととらえ、胎児期、生命の誕生から乳幼児期、小児期、青年期、成人期（老年期）を経て死に至るまでのライフステージを通じた変化を理解する。また人間発達の知識が機能障害を持つ対象者の理解につながることを目的とする。人間社会に必要なコミュニケーションスキルについて理解する。																																		
学習到達目標	人間の特性を生涯発達の視点からとらえ、各発達過程について機能・形態変化や発現する行動を広く深く理解し、生じやすい発達上あるいは健康上の問題を理解する。 発達の特徴を身体・運動・認知・心理（情緒）・社会性の領域に分けて理解し、各発達期に即した支援を念頭に置くことができるよう学習する。 人間のコミュニケーション能力と社会性の発達を理解し、自己成長に役立てられ社会人基礎力を身につける。																																		
教　科　書	リハビリテーションテキスト　人間発達学　（MEDICAL VIEW） 配布資料																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 講義確認テスト 5％ 講義定期試験 80％ 課題提出 10％ 講義出席率 5％ ＜評価基準＞ 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>総論：発達の定義と一般原理，発達理論、発達・段階とその課題</td></tr><tr><td>2</td><td>胎児期、生命の誕生から乳幼児期、小児期、青年期、成人期、老年期、死に至るまでのライフステージ、性差</td></tr><tr><td>3</td><td>発達評価：日本版デンバー式・遠城寺式・ミラーニチャート・ジョンソン等各種運動年テスト、ビネー・ウエクスラー式知能検査</td></tr><tr><td>4</td><td>各論：姿勢と運動機能の発達（原始姿勢反射,姿勢反応）</td></tr><tr><td>5</td><td>姿勢と運動機能の発達（実技）</td></tr><tr><td>6</td><td>脳・神経系の発達と障害、内部機能の発達と障害身体構造・機能の発達と障害</td></tr><tr><td>7</td><td>知覚認知機能の発達と障害</td></tr><tr><td>8</td><td>情緒・社会性の発達と障害、道徳性・遊び・生活能力・家族関係の発達</td></tr><tr><td>9</td><td>言語機能の発達と障害、摂食嚥下の発達（実習）</td></tr><tr><td>10</td><td>GW:各発達の要点のまとめと発表①</td></tr><tr><td>11</td><td>GW:各発達の要点のまとめと発表②</td></tr><tr><td>12</td><td>GW:各発達の要点のまとめと発表③</td></tr><tr><td>13</td><td>コミュニケーション力の発達と社会性、コミュニケーションスキル、スキルアップ演習</td></tr><tr><td>14</td><td>コミュニケーションのタイプと場面 （養成校・臨床実習　デモンストレーション）</td></tr><tr><td>15</td><td>メンタルヘルスとコミュニケーション、ストレスチェック</td></tr></table>			回数	内容	1	総論：発達の定義と一般原理，発達理論、発達・段階とその課題	2	胎児期、生命の誕生から乳幼児期、小児期、青年期、成人期、老年期、死に至るまでのライフステージ、性差	3	発達評価：日本版デンバー式・遠城寺式・ミラーニチャート・ジョンソン等各種運動年テスト、ビネー・ウエクスラー式知能検査	4	各論：姿勢と運動機能の発達（原始姿勢反射,姿勢反応）	5	姿勢と運動機能の発達（実技）	6	脳・神経系の発達と障害、内部機能の発達と障害身体構造・機能の発達と障害	7	知覚認知機能の発達と障害	8	情緒・社会性の発達と障害、道徳性・遊び・生活能力・家族関係の発達	9	言語機能の発達と障害、摂食嚥下の発達（実習）	10	GW:各発達の要点のまとめと発表①	11	GW:各発達の要点のまとめと発表②	12	GW:各発達の要点のまとめと発表③	13	コミュニケーション力の発達と社会性、コミュニケーションスキル、スキルアップ演習	14	コミュニケーションのタイプと場面 （養成校・臨床実習　デモンストレーション）	15	メンタルヘルスとコミュニケーション、ストレスチェック
回数	内容																																		
1	総論：発達の定義と一般原理，発達理論、発達・段階とその課題																																		
2	胎児期、生命の誕生から乳幼児期、小児期、青年期、成人期、老年期、死に至るまでのライフステージ、性差																																		
3	発達評価：日本版デンバー式・遠城寺式・ミラーニチャート・ジョンソン等各種運動年テスト、ビネー・ウエクスラー式知能検査																																		
4	各論：姿勢と運動機能の発達（原始姿勢反射,姿勢反応）																																		
5	姿勢と運動機能の発達（実技）																																		
6	脳・神経系の発達と障害、内部機能の発達と障害身体構造・機能の発達と障害																																		
7	知覚認知機能の発達と障害																																		
8	情緒・社会性の発達と障害、道徳性・遊び・生活能力・家族関係の発達																																		
9	言語機能の発達と障害、摂食嚥下の発達（実習）																																		
10	GW:各発達の要点のまとめと発表①																																		
11	GW:各発達の要点のまとめと発表②																																		
12	GW:各発達の要点のまとめと発表③																																		
13	コミュニケーション力の発達と社会性、コミュニケーションスキル、スキルアップ演習																																		
14	コミュニケーションのタイプと場面 （養成校・臨床実習　デモンストレーション）																																		
15	メンタルヘルスとコミュニケーション、ストレスチェック																																		

【専門基礎分野】医学概論

担当講師	坂口 勇人	対象学年	I 部 1 年・II 部 1 年
概 要	医学・医療を志すにあたり、初期に理解しておかなければならない基本的あるいは総論的事項を伝える。健康と病気、生と死などの視点から医療における倫理について考える。また、NOSS*を理解・習得する。		
学習到達目標	・医学と医療、健康と病気の違いを理解する。 ・様々な視点から生と死に関わる問題を理解する。 ・社会保障制度や医療制度を理解する。		
教 科 書	配布資料		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 定期試験 100% ＜評価基準＞ 上記の試験で、60 点以上を合格とする。		
授業計画	回数	内容	
	1	医学とは何か？どのように捉えるか？	
	2	医療とは何か？どのように捉えるか？	
	3	医学史（古代～近世）を解説する。	
	4	医学史（日本における）を解説する。	
	5	健康と病気、正常と異常について理解する。	
	6	生命の誕生について理解する。	
	7	死と生命保持について理解する。	
	8	リプロダクションについて考える。	
	9	死生学とターミナルケアについて解説する。	
	10	患者の権利と義務について解説する。	
	11	社会保障制度について理解する。	
	12	わが国の医療システムについて理解する。	
	13	NOSS*について理解・習得する。①	
	14	NOSS*について理解・習得する。②	
	15	NOSS*について理解・習得する。③	
*NOSS（にほん・おどり・スポーツ・サイエンス）とは、日本舞踊界の大家である西川流三世家元・西川右近により創案、中京大学・湯浅景元名誉教授との合同研究で現代人に必要な3大運動（有酸素運動・筋力トレーニング・ストレッチ）がバランスよく配されていることを確認。また、厚生労働省「未来志向研究プロジェクト」にも採択され、様々な科学的分析、検証を経て、運動効果、継続する楽しみ、うつ傾向改善といった効果が認められている。2019年には日本医学会総会において、「生涯運動」と位置付けられた。			

【専門基礎分野】病理学概論

担当講師	加藤 裕美	対象学年	I 部 1 年																																
概 要	病理学は、病気の原因、成り立ち、経過を追究して、病気の本態を明らかにする学問である。このことによって、病気に対する予防の基礎、診断、治療などに関する方法が考え出され、臨床医学に繋がる基礎となる。そのため、対象理解のために必要な病因・病態や生体反応について学ぶとともに、主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。																																		
学習到達目標	・細胞損傷と組織損傷、傷害組織の修復過程ならびに再生過程について説明できる ・炎症反応のメカニズムについて説明できる ・感染症の分類と感染経路、感染の予防について説明できる ・血行障害の違いとそれぞれの病因・病態について説明できる ・腫瘍の病因、分類、グレード、ステージなどについて説明できる ・病理学的変化（退行性病変、奇形・免疫・アレルギー、新生物）について説明できる																																		
教 科 書	「病理学概論」 永末書店、京都																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 定期試験 100% ＜評価基準＞ 60 点以上を合格とする																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>病理学とは、病因論</td></tr><tr><td>2</td><td>細胞の基本病変</td></tr><tr><td>3</td><td>先天異常と奇形</td></tr><tr><td>4</td><td>代謝障害</td></tr><tr><td>5</td><td>増殖と修復</td></tr><tr><td>6</td><td>呼吸・循環障害（1）</td></tr><tr><td>7</td><td>呼吸・循環障害（2）</td></tr><tr><td>8</td><td>炎症（1）</td></tr><tr><td>9</td><td>炎症（2）</td></tr><tr><td>10</td><td>免疫とアレルギー（1）</td></tr><tr><td>11</td><td>免疫とアレルギー（2）</td></tr><tr><td>12</td><td>感染症と予防の基礎</td></tr><tr><td>13</td><td>腫瘍（1）</td></tr><tr><td>14</td><td>腫瘍（2）</td></tr><tr><td>15</td><td>老化、まとめ</td></tr></table>			回数	内容	1	病理学とは、病因論	2	細胞の基本病変	3	先天異常と奇形	4	代謝障害	5	増殖と修復	6	呼吸・循環障害（1）	7	呼吸・循環障害（2）	8	炎症（1）	9	炎症（2）	10	免疫とアレルギー（1）	11	免疫とアレルギー（2）	12	感染症と予防の基礎	13	腫瘍（1）	14	腫瘍（2）	15	老化、まとめ
回数	内容																																		
1	病理学とは、病因論																																		
2	細胞の基本病変																																		
3	先天異常と奇形																																		
4	代謝障害																																		
5	増殖と修復																																		
6	呼吸・循環障害（1）																																		
7	呼吸・循環障害（2）																																		
8	炎症（1）																																		
9	炎症（2）																																		
10	免疫とアレルギー（1）																																		
11	免疫とアレルギー（2）																																		
12	感染症と予防の基礎																																		
13	腫瘍（1）																																		
14	腫瘍（2）																																		
15	老化、まとめ																																		

【専門基礎分野】病理学概論

担当講師	秋山 芳夫	対象学年	Ⅱ部1年																																
概 要	病気の基礎的な概念の理解を目的とする病理学は、病気の原因、発生機序の解明や病気の診断を確定するのを目的とする、医学の一分野である。したがって、対象理解のために主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学び、予防の基礎も踏まえて、病理的な考え方を身につけて、臨床医学講義への準備としたい。																																		
学習到達目標	①病理学的変化について説明できる。 ②細胞・組織損傷（修復・再生も含む）について説明できる。 ③炎症の定義・意義、炎症反応のメカニズムについて説明できる。 ④感染症の分類、感染経路、感染の予防の基礎について説明できる。 ⑤血行障害の病因・病態について説明できる。 ⑥腫瘍の病因、分類，グレード，ステージなどについて説明できる。 ⑦がん関連障害の一般的疾患について説明できる。																																		
教 科 書	「わかりやすい病理学」南江堂																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 中間試験 10%、期末試験 80%、平常点（出席点等）10% ＜評価基準＞ 以上の割合で総合判断し、60 点以上を合格とする																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>病理学の概要と病因論について</td></tr><tr><td>2</td><td>細胞損傷と組織損傷および壊死とアポトーシスについて</td></tr><tr><td>3</td><td>急性および慢性炎症の概要と炎症反応のメカニズムについて</td></tr><tr><td>4</td><td>傷害組織の修復過程ならびに再生過程について</td></tr><tr><td>5</td><td>血行障害（虚血，充血，うっ血，出血）の違いとそれぞれの病因・病態について</td></tr><tr><td>6</td><td>血栓症・塞栓症・梗塞の病因・病態について</td></tr><tr><td>7</td><td>病理学的観点から見た小児疾患の概要について</td></tr><tr><td>8</td><td>上記 7 講義までのまとめと確認</td></tr><tr><td>9</td><td>奇形・遺伝性疾患の概要について</td></tr><tr><td>10</td><td>腫瘍の病因、分類、グレード、ステージについて</td></tr><tr><td>11</td><td>腫瘍の浸潤・転移・自立性増殖について</td></tr><tr><td>12</td><td>がん関連障害（肺がん・消化器がん・乳がん・血液がん・骨軟部腫瘍・脳腫瘍・頭頸部がん・その他腫瘍）の概要について</td></tr><tr><td>13</td><td>感染症の分類、感染経路について</td></tr><tr><td>14</td><td>感染の予防の基礎について</td></tr><tr><td>15</td><td>生体反応(ホメオスターシス、ストレス)について</td></tr></table>			回数	内容	1	病理学の概要と病因論について	2	細胞損傷と組織損傷および壊死とアポトーシスについて	3	急性および慢性炎症の概要と炎症反応のメカニズムについて	4	傷害組織の修復過程ならびに再生過程について	5	血行障害（虚血，充血，うっ血，出血）の違いとそれぞれの病因・病態について	6	血栓症・塞栓症・梗塞の病因・病態について	7	病理学的観点から見た小児疾患の概要について	8	上記 7 講義までのまとめと確認	9	奇形・遺伝性疾患の概要について	10	腫瘍の病因、分類、グレード、ステージについて	11	腫瘍の浸潤・転移・自立性増殖について	12	がん関連障害（肺がん・消化器がん・乳がん・血液がん・骨軟部腫瘍・脳腫瘍・頭頸部がん・その他腫瘍）の概要について	13	感染症の分類、感染経路について	14	感染の予防の基礎について	15	生体反応(ホメオスターシス、ストレス)について
回数	内容																																		
1	病理学の概要と病因論について																																		
2	細胞損傷と組織損傷および壊死とアポトーシスについて																																		
3	急性および慢性炎症の概要と炎症反応のメカニズムについて																																		
4	傷害組織の修復過程ならびに再生過程について																																		
5	血行障害（虚血，充血，うっ血，出血）の違いとそれぞれの病因・病態について																																		
6	血栓症・塞栓症・梗塞の病因・病態について																																		
7	病理学的観点から見た小児疾患の概要について																																		
8	上記 7 講義までのまとめと確認																																		
9	奇形・遺伝性疾患の概要について																																		
10	腫瘍の病因、分類、グレード、ステージについて																																		
11	腫瘍の浸潤・転移・自立性増殖について																																		
12	がん関連障害（肺がん・消化器がん・乳がん・血液がん・骨軟部腫瘍・脳腫瘍・頭頸部がん・その他腫瘍）の概要について																																		
13	感染症の分類、感染経路について																																		
14	感染の予防の基礎について																																		
15	生体反応(ホメオスターシス、ストレス)について																																		

【専門基礎分野】薬理学

担当講師	野々垣 常正	対象学年	I 部 2 年・Ⅱ部 2 年																																
概 要	クスリ（薬）はほとんどが生体にとって異物であるため服用の仕方ですリスクを伴う。QOLを目指すリハビリでは、脳疾患や関節リウマチや外傷など広範囲の疾患を扱う（理学生）ために、患者が服用する薬についての知識が必要であるため、薬に関する良い面と悪い面を幅広く理解し、必要ならアドバイスする必要がある。																																		
学習到達目標	薬についての基礎知識として、概要や作用機序のしくみ、効果そして副作用等について理解できるようにする。後半では、疾病の各論についておおその薬物について解説を加え、実際の臨床現場に役立つように理解する必要がある。																																		
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復【3】薬理学																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 期末試験の結果で判定する ＜評価基準＞ 期末試験の総合点で評価する																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>「なぜ薬理学を学ぶのか」について解説する（C-5-1）</td></tr><tr><td>2</td><td>人体を構成する細胞や組織とこれらをまとめる細胞機能の制御について、薬物の作用を天然由来の薬も含めて（薬物療法）解説する（C-5-1、C-5-2、D-2-3）</td></tr><tr><td>3</td><td>法律・制度による定義とは何か、医薬品等についての規制について解説する（C-5-1）</td></tr><tr><td>4</td><td>ほとんどの薬が作用するには「標的」が存在する。この薬力学における薬物受容体について解説する（C-5-1）</td></tr><tr><td>5</td><td>受容体と薬物の相互作用について解説する（C-5-1,5-3） 標的となる</td></tr><tr><td>6</td><td>薬物の副作用と有害反応について解説する（C-5-1）</td></tr><tr><td>7</td><td>薬物の血中濃度および薬物の代謝（薬物動態学：ADME）について解説する（C-5-1）</td></tr><tr><td>8</td><td>薬物相互作用（多剤併用）について解説する</td></tr><tr><td>9</td><td>薬の作用に影響する因子（投与方法など）について解説する（C-5-1）</td></tr><tr><td>10</td><td>感染と炎症の病態および薬物療法について解説する（C-5-1）</td></tr><tr><td>11</td><td>神経疾患の薬物療法について解説する（C-5-2、D-2-3）</td></tr><tr><td>12</td><td>精神疾患の薬物療法について解説する（C-5-2、D-2-3）</td></tr><tr><td>13</td><td>内臓器官に作用する薬：心臓・血管系作用薬などについて解説する（C-5-2、D-2-3）</td></tr><tr><td>14</td><td>内臓器官に作用する薬：呼吸器系作用薬などについて解説する（C-5-2、D-2-3）</td></tr><tr><td>15</td><td>整形外科領域に作用する薬：OA,RA などについて解説する（C-5-2、D-2-3）</td></tr></table>			回数	内容	1	「なぜ薬理学を学ぶのか」について解説する（C-5-1）	2	人体を構成する細胞や組織とこれらをまとめる細胞機能の制御について、薬物の作用を天然由来の薬も含めて（薬物療法）解説する（C-5-1、C-5-2、D-2-3）	3	法律・制度による定義とは何か、医薬品等についての規制について解説する（C-5-1）	4	ほとんどの薬が作用するには「標的」が存在する。この薬力学における薬物受容体について解説する（C-5-1）	5	受容体と薬物の相互作用について解説する（C-5-1,5-3） 標的となる	6	薬物の副作用と有害反応について解説する（C-5-1）	7	薬物の血中濃度および薬物の代謝（薬物動態学：ADME）について解説する（C-5-1）	8	薬物相互作用（多剤併用）について解説する	9	薬の作用に影響する因子（投与方法など）について解説する（C-5-1）	10	感染と炎症の病態および薬物療法について解説する（C-5-1）	11	神経疾患の薬物療法について解説する（C-5-2、D-2-3）	12	精神疾患の薬物療法について解説する（C-5-2、D-2-3）	13	内臓器官に作用する薬：心臓・血管系作用薬などについて解説する（C-5-2、D-2-3）	14	内臓器官に作用する薬：呼吸器系作用薬などについて解説する（C-5-2、D-2-3）	15	整形外科領域に作用する薬：OA,RA などについて解説する（C-5-2、D-2-3）
回数	内容																																		
1	「なぜ薬理学を学ぶのか」について解説する（C-5-1）																																		
2	人体を構成する細胞や組織とこれらをまとめる細胞機能の制御について、薬物の作用を天然由来の薬も含めて（薬物療法）解説する（C-5-1、C-5-2、D-2-3）																																		
3	法律・制度による定義とは何か、医薬品等についての規制について解説する（C-5-1）																																		
4	ほとんどの薬が作用するには「標的」が存在する。この薬力学における薬物受容体について解説する（C-5-1）																																		
5	受容体と薬物の相互作用について解説する（C-5-1,5-3） 標的となる																																		
6	薬物の副作用と有害反応について解説する（C-5-1）																																		
7	薬物の血中濃度および薬物の代謝（薬物動態学：ADME）について解説する（C-5-1）																																		
8	薬物相互作用（多剤併用）について解説する																																		
9	薬の作用に影響する因子（投与方法など）について解説する（C-5-1）																																		
10	感染と炎症の病態および薬物療法について解説する（C-5-1）																																		
11	神経疾患の薬物療法について解説する（C-5-2、D-2-3）																																		
12	精神疾患の薬物療法について解説する（C-5-2、D-2-3）																																		
13	内臓器官に作用する薬：心臓・血管系作用薬などについて解説する（C-5-2、D-2-3）																																		
14	内臓器官に作用する薬：呼吸器系作用薬などについて解説する（C-5-2、D-2-3）																																		
15	整形外科領域に作用する薬：OA,RA などについて解説する（C-5-2、D-2-3）																																		

【専門基礎分野】内科学 I

担当講師	波多野 敬	対象学年	I 部 2 年																																
概 要	理学療法を受ける対象理解に必要な病因・病態や生体反応について学ぶ。内部障害を引き起こす主要な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。																																		
学習到達目標	栄養・代謝障害から、呼吸器系、循環器系、内分泌代謝系、消化器系、泌尿生殖器系、血液系、免疫系の疾患に関し、疫学、予後、病院、症候、検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療、リハビリテーションが説明できる。																																		
教 科 書	標準理学療法学・作業療法学 内科学 第 4 版（医学書院）																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 定期試験 60%、出席状況 20%、課題提出状況 20% ＜評価基準＞ 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>内科診断学について</td></tr><tr><td>2</td><td>内科症候学について</td></tr><tr><td>3</td><td>循環器疾患（1）解剖、生理、検査について</td></tr><tr><td>4</td><td>循環器疾患（2）各論について</td></tr><tr><td>5</td><td>呼吸器疾患（1）解剖、生理、検査について</td></tr><tr><td>6</td><td>呼吸器疾患（2）各論について</td></tr><tr><td>7</td><td>消化器疾患（1）管腔臓器について</td></tr><tr><td>8</td><td>消化器疾患（2）肝臓、胆嚢、膵臓について</td></tr><tr><td>9</td><td>栄養、代謝疾患（糖尿病を中心として）の概要・評価・治療について</td></tr><tr><td>10</td><td>内分泌疾患の概要・評価・治療について</td></tr><tr><td>11</td><td>血液疾患の概要・評価・治療について（1）</td></tr><tr><td>12</td><td>血液疾患の概要・評価・治療について（2）</td></tr><tr><td>13</td><td>腎臓・泌尿器疾患の概要・評価・治療について</td></tr><tr><td>14</td><td>感染症の概要・評価・治療について</td></tr><tr><td>15</td><td>アレルギー、自己免疫疾患の概要・評価・治療について</td></tr></table>			回数	内容	1	内科診断学について	2	内科症候学について	3	循環器疾患（1）解剖、生理、検査について	4	循環器疾患（2）各論について	5	呼吸器疾患（1）解剖、生理、検査について	6	呼吸器疾患（2）各論について	7	消化器疾患（1）管腔臓器について	8	消化器疾患（2）肝臓、胆嚢、膵臓について	9	栄養、代謝疾患（糖尿病を中心として）の概要・評価・治療について	10	内分泌疾患の概要・評価・治療について	11	血液疾患の概要・評価・治療について（1）	12	血液疾患の概要・評価・治療について（2）	13	腎臓・泌尿器疾患の概要・評価・治療について	14	感染症の概要・評価・治療について	15	アレルギー、自己免疫疾患の概要・評価・治療について
回数	内容																																		
1	内科診断学について																																		
2	内科症候学について																																		
3	循環器疾患（1）解剖、生理、検査について																																		
4	循環器疾患（2）各論について																																		
5	呼吸器疾患（1）解剖、生理、検査について																																		
6	呼吸器疾患（2）各論について																																		
7	消化器疾患（1）管腔臓器について																																		
8	消化器疾患（2）肝臓、胆嚢、膵臓について																																		
9	栄養、代謝疾患（糖尿病を中心として）の概要・評価・治療について																																		
10	内分泌疾患の概要・評価・治療について																																		
11	血液疾患の概要・評価・治療について（1）																																		
12	血液疾患の概要・評価・治療について（2）																																		
13	腎臓・泌尿器疾患の概要・評価・治療について																																		
14	感染症の概要・評価・治療について																																		
15	アレルギー、自己免疫疾患の概要・評価・治療について																																		

【専門基礎分野】内科学 I

担当講師	古山 明夫	対象学年	Ⅱ部2年																																
概 要	リハビリテーションの対象者や高齢者は原疾患にかぎらず内科的疾患や合併症を持っていることが多い。その特徴をとらえ、理学療法士の治療につなげる知識を身につける。																																		
学習到達目標	理学療法士国家試験問題をクリアーできるレベルを目指す。																																		
教 科 書	標準理学療法学・作業療法学 内科学 第4版（医学書院）																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 定期試験・出席状況・課題提出状況を総合的に判定する ＜評価基準＞ 点数化し、6割以上を良とする																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>内科学的思考と診断法：問診、診察、検査、治療の進め方</td></tr><tr><td>2</td><td>症候学：発熱、悪心・嘔吐、意識障害、めまい、むくみ、ショックなどの病態を学び、理学療法時の対応を身につける</td></tr><tr><td>3</td><td>呼吸器疾患：閉塞性肺疾患（慢性気管支炎・肺気腫・気管支喘息）、拘束性肺疾患（間質性肺炎などの病態を学び、理学療法時の呼吸機能への対応を身につける</td></tr><tr><td>4</td><td>循環器疾患：虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）、動脈硬化疾患（大動脈瘤・大動脈解離・閉塞性動脈硬化症）、高血圧、不整脈などの病態を学び、理学療法時の心機能への対応を身につける</td></tr><tr><td>5</td><td>消化管疾患：上部・下部消化器出血（食道がん・胃癌・胃潰瘍・十二指腸潰瘍）、潰瘍性大腸炎、腸閉塞、ウィルス性肝炎、肝硬変などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける</td></tr><tr><td>6</td><td>肝・胆・膵疾患：ウィルス性肝炎、肝硬変、胆石症、膵炎などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける</td></tr><tr><td>7</td><td>腎疾患：腎不全（急性・慢性）、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける</td></tr><tr><td>8</td><td>泌尿器疾患：排尿障害（過活動膀胱）、尿路結石、尿路感染などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける</td></tr><tr><td>9</td><td>生殖器疾患：男性生殖器疾患（前立腺肥大症・前立腺癌）などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける</td></tr><tr><td>10</td><td>血液疾患：貧血（鉄欠乏性貧血・悪性貧血・溶血性貧血・再生不良性貧血）、血友病、白血病血液疾患・自己免疫疾患などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける</td></tr><tr><td>11</td><td>代謝疾患：糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドローム、高尿酸血症などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける</td></tr><tr><td>12</td><td>内分泌疾患：内分泌腺とホルモンの関係を学び亢進や低下などの異常を呈する病態を学び、理学療法時の対応を身につける</td></tr><tr><td>13</td><td>自己免疫疾患：全身エリテマトーデス、多発性筋炎・皮膚筋炎、その他（進行性全身性硬化症・強皮症・結節性動脈周囲炎・リウマチ熱・シェーグレン症候群、ベーチェット病・サルコイドーシスなどの病態を学び、理学療法時の対応を身につける</td></tr><tr><td>14</td><td>感染症：結核、尿路感染症、日和見感染、耐性菌などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける</td></tr><tr><td>15</td><td>アレルギー疾患：花粉症、アトピー性皮膚炎、アナフィラキシーショックなどの病態を学び、理学療法時の対応を身につける</td></tr></table>			回数	内容	1	内科学的思考と診断法：問診、診察、検査、治療の進め方	2	症候学：発熱、悪心・嘔吐、意識障害、めまい、むくみ、ショックなどの病態を学び、理学療法時の対応を身につける	3	呼吸器疾患：閉塞性肺疾患（慢性気管支炎・肺気腫・気管支喘息）、拘束性肺疾患（間質性肺炎などの病態を学び、理学療法時の呼吸機能への対応を身につける	4	循環器疾患：虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）、動脈硬化疾患（大動脈瘤・大動脈解離・閉塞性動脈硬化症）、高血圧、不整脈などの病態を学び、理学療法時の心機能への対応を身につける	5	消化管疾患：上部・下部消化器出血（食道がん・胃癌・胃潰瘍・十二指腸潰瘍）、潰瘍性大腸炎、腸閉塞、ウィルス性肝炎、肝硬変などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける	6	肝・胆・膵疾患：ウィルス性肝炎、肝硬変、胆石症、膵炎などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける	7	腎疾患：腎不全（急性・慢性）、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける	8	泌尿器疾患：排尿障害（過活動膀胱）、尿路結石、尿路感染などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける	9	生殖器疾患：男性生殖器疾患（前立腺肥大症・前立腺癌）などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける	10	血液疾患：貧血（鉄欠乏性貧血・悪性貧血・溶血性貧血・再生不良性貧血）、血友病、白血病血液疾患・自己免疫疾患などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける	11	代謝疾患：糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドローム、高尿酸血症などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける	12	内分泌疾患：内分泌腺とホルモンの関係を学び亢進や低下などの異常を呈する病態を学び、理学療法時の対応を身につける	13	自己免疫疾患：全身エリテマトーデス、多発性筋炎・皮膚筋炎、その他（進行性全身性硬化症・強皮症・結節性動脈周囲炎・リウマチ熱・シェーグレン症候群、ベーチェット病・サルコイドーシスなどの病態を学び、理学療法時の対応を身につける	14	感染症：結核、尿路感染症、日和見感染、耐性菌などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける	15	アレルギー疾患：花粉症、アトピー性皮膚炎、アナフィラキシーショックなどの病態を学び、理学療法時の対応を身につける
回数	内容																																		
1	内科学的思考と診断法：問診、診察、検査、治療の進め方																																		
2	症候学：発熱、悪心・嘔吐、意識障害、めまい、むくみ、ショックなどの病態を学び、理学療法時の対応を身につける																																		
3	呼吸器疾患：閉塞性肺疾患（慢性気管支炎・肺気腫・気管支喘息）、拘束性肺疾患（間質性肺炎などの病態を学び、理学療法時の呼吸機能への対応を身につける																																		
4	循環器疾患：虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）、動脈硬化疾患（大動脈瘤・大動脈解離・閉塞性動脈硬化症）、高血圧、不整脈などの病態を学び、理学療法時の心機能への対応を身につける																																		
5	消化管疾患：上部・下部消化器出血（食道がん・胃癌・胃潰瘍・十二指腸潰瘍）、潰瘍性大腸炎、腸閉塞、ウィルス性肝炎、肝硬変などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける																																		
6	肝・胆・膵疾患：ウィルス性肝炎、肝硬変、胆石症、膵炎などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける																																		
7	腎疾患：腎不全（急性・慢性）、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける																																		
8	泌尿器疾患：排尿障害（過活動膀胱）、尿路結石、尿路感染などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける																																		
9	生殖器疾患：男性生殖器疾患（前立腺肥大症・前立腺癌）などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける																																		
10	血液疾患：貧血（鉄欠乏性貧血・悪性貧血・溶血性貧血・再生不良性貧血）、血友病、白血病血液疾患・自己免疫疾患などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける																																		
11	代謝疾患：糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドローム、高尿酸血症などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける																																		
12	内分泌疾患：内分泌腺とホルモンの関係を学び亢進や低下などの異常を呈する病態を学び、理学療法時の対応を身につける																																		
13	自己免疫疾患：全身エリテマトーデス、多発性筋炎・皮膚筋炎、その他（進行性全身性硬化症・強皮症・結節性動脈周囲炎・リウマチ熱・シェーグレン症候群、ベーチェット病・サルコイドーシスなどの病態を学び、理学療法時の対応を身につける																																		
14	感染症：結核、尿路感染症、日和見感染、耐性菌などの病態を学び、理学療法時の対応を身につける																																		
15	アレルギー疾患：花粉症、アトピー性皮膚炎、アナフィラキシーショックなどの病態を学び、理学療法時の対応を身につける																																		

【専門基礎分野】内科学Ⅱ

担当講師	波多野 敬	対象学年	I 部 2 年																																
概 要	リハビリテーションの対象となることの多い高齢者の特徴やかかえる疾患を理解する。そのために必要な病因、病態、生体反応を学ぶ。皮膚障害、老年期障害を引き起こす疾患の病因、病態生理、症候、診断、治療を学ぶ。																																		
学習到達目標	廃用性症候群、老年症候群、皮膚障害（熱傷、褥瘡、創傷）、老年期障害に関する病因、病態、症候、検査、治療、リハビリテーションなどが説明できる。																																		
教 科 書	標準理学療法学・作業療法学 老年学 第 5 版 （医学書院）																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 定期試験 60%、出席状況 20%、課題提出状況 20% ＜評価基準＞ 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>総論</td></tr><tr><td>2</td><td>加齢に伴う生理機能、運動能力の変化について</td></tr><tr><td>3</td><td>加齢に伴う精神心理の変化について</td></tr><tr><td>4</td><td>性差医療、高齢者人口動態、機能評価について</td></tr><tr><td>5</td><td>老年症候群の概要・評価・治療について（1）</td></tr><tr><td>6</td><td>老年症候群の概要・評価・治療について（2）</td></tr><tr><td>7</td><td>栄養の観点を含んだ皮膚障害の概要・評価・治療について</td></tr><tr><td>8</td><td>認知症を中心にした精神神経疾患の概要・評価・治療について</td></tr><tr><td>9</td><td>認知症以外の精神神経疾患の概要・評価・治療について</td></tr><tr><td>10</td><td>循環器疾患の概要・評価・治療について</td></tr><tr><td>11</td><td>呼吸器疾患の概要・評価・治療について</td></tr><tr><td>12</td><td>消化器疾患の概要・評価・治療について</td></tr><tr><td>13</td><td>内分泌・代謝疾患、骨運動疾患の概要・評価・治療について</td></tr><tr><td>14</td><td>腎臓・泌尿器系疾患の概要・評価・治療について</td></tr><tr><td>15</td><td>血液疾患、免疫系疾患の概要・評価・治療について</td></tr></table>			回数	内容	1	総論	2	加齢に伴う生理機能、運動能力の変化について	3	加齢に伴う精神心理の変化について	4	性差医療、高齢者人口動態、機能評価について	5	老年症候群の概要・評価・治療について（1）	6	老年症候群の概要・評価・治療について（2）	7	栄養の観点を含んだ皮膚障害の概要・評価・治療について	8	認知症を中心にした精神神経疾患の概要・評価・治療について	9	認知症以外の精神神経疾患の概要・評価・治療について	10	循環器疾患の概要・評価・治療について	11	呼吸器疾患の概要・評価・治療について	12	消化器疾患の概要・評価・治療について	13	内分泌・代謝疾患、骨運動疾患の概要・評価・治療について	14	腎臓・泌尿器系疾患の概要・評価・治療について	15	血液疾患、免疫系疾患の概要・評価・治療について
回数	内容																																		
1	総論																																		
2	加齢に伴う生理機能、運動能力の変化について																																		
3	加齢に伴う精神心理の変化について																																		
4	性差医療、高齢者人口動態、機能評価について																																		
5	老年症候群の概要・評価・治療について（1）																																		
6	老年症候群の概要・評価・治療について（2）																																		
7	栄養の観点を含んだ皮膚障害の概要・評価・治療について																																		
8	認知症を中心にした精神神経疾患の概要・評価・治療について																																		
9	認知症以外の精神神経疾患の概要・評価・治療について																																		
10	循環器疾患の概要・評価・治療について																																		
11	呼吸器疾患の概要・評価・治療について																																		
12	消化器疾患の概要・評価・治療について																																		
13	内分泌・代謝疾患、骨運動疾患の概要・評価・治療について																																		
14	腎臓・泌尿器系疾患の概要・評価・治療について																																		
15	血液疾患、免疫系疾患の概要・評価・治療について																																		

【専門基礎分野】内科学Ⅱ

担当講師	古山 明夫	対象学年	Ⅱ部2年																																
概 要	リハビリテーションの対象となることの多い高齢者を理解するために必要な病因・病態や生体反応について学ぶとともに、老年期障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶことで、理学療法士の治療につなげる知識を身につける。																																		
学習到達目標	・廃用症候群の病因・分類について説明できる ・代表的な老年期障害（認知症、フレイル、サルコペニアなど）の病態を栄養との関連で説明できる ・熱傷・褥瘡・創傷について説明できる																																		
教 科 書	標準理学療法学・作業療法学 老年学 第5版 （医学書院）																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 定期試験 100％に講義出席状況と課題提出状況を総合的に判定する。 ＜評価基準＞ 60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>老年学総論</td></tr><tr><td>2</td><td>代表的な老年症候群（フレイル、サルコペニアなど）の病態について</td></tr><tr><td>3</td><td>廃用症候群の病因、分類、栄養について</td></tr><tr><td>4</td><td>代表的な廃用症候群（褥瘡、関節拘縮、筋萎縮など）の病態について</td></tr><tr><td>5</td><td>褥瘡・創傷と栄養の関連性について</td></tr><tr><td>6</td><td>熱傷の疫学、病理、病態、症候について</td></tr><tr><td>7</td><td>老年期障害と末梢循環障害について</td></tr><tr><td>8</td><td>栄養の観点から老年期障害の疫学、予後について</td></tr><tr><td>9</td><td>老年期障害（認知症、うつ状態）の病態について</td></tr><tr><td>10</td><td>老年期障害と誤嚥性肺炎、摂食嚥下障害について</td></tr><tr><td>11</td><td>老年期障害と骨粗鬆症、骨折について</td></tr><tr><td>12</td><td>老年期と睡眠障害について</td></tr><tr><td>13</td><td>老年期障害とリハビリテーションについて</td></tr><tr><td>14</td><td>老年期障害と臨床医学について（画像・生理検査を含む）</td></tr><tr><td>15</td><td>老年期障害とターミナルケアについて</td></tr></table>			回数	内容	1	老年学総論	2	代表的な老年症候群（フレイル、サルコペニアなど）の病態について	3	廃用症候群の病因、分類、栄養について	4	代表的な廃用症候群（褥瘡、関節拘縮、筋萎縮など）の病態について	5	褥瘡・創傷と栄養の関連性について	6	熱傷の疫学、病理、病態、症候について	7	老年期障害と末梢循環障害について	8	栄養の観点から老年期障害の疫学、予後について	9	老年期障害（認知症、うつ状態）の病態について	10	老年期障害と誤嚥性肺炎、摂食嚥下障害について	11	老年期障害と骨粗鬆症、骨折について	12	老年期と睡眠障害について	13	老年期障害とリハビリテーションについて	14	老年期障害と臨床医学について（画像・生理検査を含む）	15	老年期障害とターミナルケアについて
回数	内容																																		
1	老年学総論																																		
2	代表的な老年症候群（フレイル、サルコペニアなど）の病態について																																		
3	廃用症候群の病因、分類、栄養について																																		
4	代表的な廃用症候群（褥瘡、関節拘縮、筋萎縮など）の病態について																																		
5	褥瘡・創傷と栄養の関連性について																																		
6	熱傷の疫学、病理、病態、症候について																																		
7	老年期障害と末梢循環障害について																																		
8	栄養の観点から老年期障害の疫学、予後について																																		
9	老年期障害（認知症、うつ状態）の病態について																																		
10	老年期障害と誤嚥性肺炎、摂食嚥下障害について																																		
11	老年期障害と骨粗鬆症、骨折について																																		
12	老年期と睡眠障害について																																		
13	老年期障害とリハビリテーションについて																																		
14	老年期障害と臨床医学について（画像・生理検査を含む）																																		
15	老年期障害とターミナルケアについて																																		

【専門基礎分野】 整形外科学Ⅰ

担当講師	森川 圭造	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年
概 要	筋骨格系および脊椎・脊髄を中心とした運動器疾患を学び、それぞれの病態生理、診断および治療に関して理解を深める。		
学習到達目標	運動器疾患に対する整形外科的診療が理解出来る。 整形外科診療における一般的な概念を理解し、運動器リハビリテーションに関する知識への還元へする。		
教 科 書	標準整形外科学 第 15 版 （医学書院）		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 定期試験 100％ ＜評価基準＞ 60 点以上を合格とする。		
授業計画	回数	内容	
	1	運動器の解剖の系統的小および局所的な構造と機能を復習する。	
	2	運動器疾患の病態生理を理解する。	
	3	運動器疾患に対する整形外科的診断手技および補助検査法を学ぶ。	
	4	運動器疾患に対する保存療法(1)を学ぶ。	
	5	運動器疾患に対する保存療法(2)を学ぶ。	
	6	運動器疾患に対する手術療法を学ぶ。	
	7	運動器疾患別各論：脊椎疾患(1)について学ぶ。	
	8	運動器疾患別各論：脊椎疾患(2)について学ぶ。	
	9	運動器疾患別各論：関節疾患(1)について学ぶ。	
	10	運動器疾患別各論：関節疾患(2)について学ぶ。	
	11	運動器疾患別各論：小児先天性疾患について学ぶ。	
	12	運動器疾患別各論：骨感染症について学ぶ。	
	13	運動器疾患別各論：骨軟部腫瘍について学ぶ。	
	14	運動器疾患別各論：骨代謝性疾患について学ぶ。	
	15	運動器疾患別各論：運動器における外傷について学ぶ。	

【専門基礎分野】整形外科学Ⅱ

担当講師	森川 圭造	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年																																
概 要	筋骨格系および脊椎・脊髄を中心とした運動器疾患を学び、それぞれの病態生理、診断および治療に関して理解を深める。																																		
学習到達目標	運動器疾患に対する整形外科的診療の実際が理解出来る。 整形外科学領域の科学的知識を学び、また整形外科診療に関する応用を学び運動器リハビリテーションに関する知識へ還元する。																																		
教 科 書	標準整形外科学 第 15 版 （医学書院）																																		
評価方法	<評価方法と割合> 定期試験 100% <評価基準> 60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>運動器疾患によるバイオメカニクス(1)について学ぶ。</td></tr><tr><td>2</td><td>運動器疾患によるバイオメカニクス(2)について学ぶ。</td></tr><tr><td>3</td><td>関節変性疾患における up to date を学ぶ。</td></tr><tr><td>4</td><td>骨折治療における up to date(1)を学ぶ。</td></tr><tr><td>5</td><td>骨折治療における up to date(2)を学ぶ。</td></tr><tr><td>6</td><td>骨脆弱性骨折(1)について学ぶ。</td></tr><tr><td>7</td><td>骨脆弱性骨折(2)について学ぶ。</td></tr><tr><td>8</td><td>運動器外傷における救急診療を学ぶ。</td></tr><tr><td>9</td><td>骨折治療における合併症について学ぶ。</td></tr><tr><td>10</td><td>ロコモ・フレイルについて学ぶ。</td></tr><tr><td>11</td><td>がん患者に対するアプローチを学ぶ。</td></tr><tr><td>12</td><td>整形外科外来診療の実際(健保・労災・介護)</td></tr><tr><td>13</td><td>整形外科外来診療の実際(交通事故診療)</td></tr><tr><td>14</td><td>整形外科外来診療の実際(在宅診療、その他)</td></tr><tr><td>15</td><td>おさらい(各自の学習習得を確認する)</td></tr></table>			回数	内容	1	運動器疾患によるバイオメカニクス(1)について学ぶ。	2	運動器疾患によるバイオメカニクス(2)について学ぶ。	3	関節変性疾患における up to date を学ぶ。	4	骨折治療における up to date(1)を学ぶ。	5	骨折治療における up to date(2)を学ぶ。	6	骨脆弱性骨折(1)について学ぶ。	7	骨脆弱性骨折(2)について学ぶ。	8	運動器外傷における救急診療を学ぶ。	9	骨折治療における合併症について学ぶ。	10	ロコモ・フレイルについて学ぶ。	11	がん患者に対するアプローチを学ぶ。	12	整形外科外来診療の実際(健保・労災・介護)	13	整形外科外来診療の実際(交通事故診療)	14	整形外科外来診療の実際(在宅診療、その他)	15	おさらい(各自の学習習得を確認する)
回数	内容																																		
1	運動器疾患によるバイオメカニクス(1)について学ぶ。																																		
2	運動器疾患によるバイオメカニクス(2)について学ぶ。																																		
3	関節変性疾患における up to date を学ぶ。																																		
4	骨折治療における up to date(1)を学ぶ。																																		
5	骨折治療における up to date(2)を学ぶ。																																		
6	骨脆弱性骨折(1)について学ぶ。																																		
7	骨脆弱性骨折(2)について学ぶ。																																		
8	運動器外傷における救急診療を学ぶ。																																		
9	骨折治療における合併症について学ぶ。																																		
10	ロコモ・フレイルについて学ぶ。																																		
11	がん患者に対するアプローチを学ぶ。																																		
12	整形外科外来診療の実際(健保・労災・介護)																																		
13	整形外科外来診療の実際(交通事故診療)																																		
14	整形外科外来診療の実際(在宅診療、その他)																																		
15	おさらい(各自の学習習得を確認する)																																		

【専門基礎分野】神経学

担当講師	道勇 学	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年																																
概 要	臨床神経学の総論および各論の講義を通して、脳・神経の機能系統および由来する症候、ならびに代表的神経・筋疾患の病態を理解し、理学療法への応用力を涵養する																																		
学習到達目標	下に示す代表的な神経・筋疾患について、以下の項目①～③を説明できる。 ① 疫学、予後 ② 病因、症候 ③ 検査（診断補助）、診断、治療 脳血管疾患（脳梗塞・出血を含む）、感染・炎症性疾患（脳炎、髄膜炎、ヒト免疫不全ウイルス<HIV>）、神経変性疾患（Parkinson 病とその関連疾患、脊髄小脳変性症<SCD>、運動ニューロン病、認知症）、神経免疫疾患（多発性硬化症<MS>、Guillain-Barré 症候群<GBS>、重症筋無力症<MG>）、筋疾患・神経筋接合部疾患（多発性ニューロパチー、筋ジストロフィーなど）、てんかん 得られた知識を応用してリハビリテーション医療について説明できる。																																		
教 科 書	標準理学療法学・作業療法学 専門分野 神経内科 第 5 版（医学書院）																																		
評価方法	<評価方法と割合> 1 講義最終試験（定期試験）（80%） 2 国家試験対策アクティブラーニングにおける課題成果率（10%） 3 講義出席率（10%） <評価基準> 上記 1,2,3 を総合評価して、60 点以上（100 点満点）を以て合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>神経学総論 I（教科書 p5・31） 障害とリハビリテーション、中枢神経系の解剖と機能</td></tr><tr><td>2</td><td>神経学総論 II（教科書 p35・50） 神経学的診察、評価</td></tr><tr><td>3</td><td>神経学総論 III（教科書 p51・66） 神経学的検査（臨床画像を含む）、評価</td></tr><tr><td>4</td><td>神経学総論 IV（教科書 p69－85） 神経症候学（意識障害、頭痛・めまい・失神、運動症候）</td></tr><tr><td>5</td><td>神経学総論 V（教科書 p91－102） 神経症候学（錐体外路症候、運動失調、感覚障害）</td></tr><tr><td>6</td><td>神経学総論 VI（教科書 p103－131） 神経症候学（失語、失認、失行）</td></tr><tr><td>7</td><td>神経学総論 VII（教科書 p132－158） 神経症候学（高次脳機能障害、構音障害、嚥下障害）</td></tr><tr><td>8</td><td>神経学各論 I-1 脳卒中（スライド講義）</td></tr><tr><td>9</td><td>神経学各論 II-1 神経変性疾患（スライド講義）</td></tr><tr><td>10</td><td>神経学各論 I-2（教科書 p167－196） 脳卒中</td></tr><tr><td>11</td><td>神経学各論 II-2（教科書 p241－246, 249・261） 神経変性疾患</td></tr><tr><td>12</td><td>神経学各論 III（教科書 p197－213, 246－248, 262・273） 認知症、中枢性脱髄疾患、末梢神経障害、てんかん</td></tr><tr><td>13</td><td>神経学各論 IV（教科書 p274－300, 323－343） 筋疾患、感染性疾患、中毒・栄養欠乏性神経障害、神経合併症など</td></tr><tr><td>14</td><td>国家試験対策 アクティブラーニング 課題取り組みグループ合同学習</td></tr><tr><td>15</td><td>定期試験対策 教科書復習</td></tr></table>			回数	内容	1	神経学総論 I（教科書 p5・31） 障害とリハビリテーション、中枢神経系の解剖と機能	2	神経学総論 II（教科書 p35・50） 神経学的診察、評価	3	神経学総論 III（教科書 p51・66） 神経学的検査（臨床画像を含む）、評価	4	神経学総論 IV（教科書 p69－85） 神経症候学（意識障害、頭痛・めまい・失神、運動症候）	5	神経学総論 V（教科書 p91－102） 神経症候学（錐体外路症候、運動失調、感覚障害）	6	神経学総論 VI（教科書 p103－131） 神経症候学（失語、失認、失行）	7	神経学総論 VII（教科書 p132－158） 神経症候学（高次脳機能障害、構音障害、嚥下障害）	8	神経学各論 I-1 脳卒中（スライド講義）	9	神経学各論 II-1 神経変性疾患（スライド講義）	10	神経学各論 I-2（教科書 p167－196） 脳卒中	11	神経学各論 II-2（教科書 p241－246, 249・261） 神経変性疾患	12	神経学各論 III（教科書 p197－213, 246－248, 262・273） 認知症、中枢性脱髄疾患、末梢神経障害、てんかん	13	神経学各論 IV（教科書 p274－300, 323－343） 筋疾患、感染性疾患、中毒・栄養欠乏性神経障害、神経合併症など	14	国家試験対策 アクティブラーニング 課題取り組みグループ合同学習	15	定期試験対策 教科書復習
回数	内容																																		
1	神経学総論 I（教科書 p5・31） 障害とリハビリテーション、中枢神経系の解剖と機能																																		
2	神経学総論 II（教科書 p35・50） 神経学的診察、評価																																		
3	神経学総論 III（教科書 p51・66） 神経学的検査（臨床画像を含む）、評価																																		
4	神経学総論 IV（教科書 p69－85） 神経症候学（意識障害、頭痛・めまい・失神、運動症候）																																		
5	神経学総論 V（教科書 p91－102） 神経症候学（錐体外路症候、運動失調、感覚障害）																																		
6	神経学総論 VI（教科書 p103－131） 神経症候学（失語、失認、失行）																																		
7	神経学総論 VII（教科書 p132－158） 神経症候学（高次脳機能障害、構音障害、嚥下障害）																																		
8	神経学各論 I-1 脳卒中（スライド講義）																																		
9	神経学各論 II-1 神経変性疾患（スライド講義）																																		
10	神経学各論 I-2（教科書 p167－196） 脳卒中																																		
11	神経学各論 II-2（教科書 p241－246, 249・261） 神経変性疾患																																		
12	神経学各論 III（教科書 p197－213, 246－248, 262・273） 認知症、中枢性脱髄疾患、末梢神経障害、てんかん																																		
13	神経学各論 IV（教科書 p274－300, 323－343） 筋疾患、感染性疾患、中毒・栄養欠乏性神経障害、神経合併症など																																		
14	国家試験対策 アクティブラーニング 課題取り組みグループ合同学習																																		
15	定期試験対策 教科書復習																																		

【専門基礎分野】臨床科学

担当講師	高橋 立夫	対象学年	I 部 2 年																																
概 要	理学療法の対象となる神経疾患を中心に講義を行う。具体的には平成 18 年度に改訂された国家試験出題基準に準じたもので脳血管疾患、脳損傷、脊髄損傷、末梢神経損傷である。リハビリテーションとの関連性を重視した内容とする。																																		
学習到達目標	理学療法実習と研究の関連性を説明できる。 理学療法の根拠となる研究成果の活用法を列挙できる。 理学療法学における研究の必要性、意義を説明できる。																																		
教 科 書	病気が見える Vol.7 脳・神経 第二版（医療情報科学研究所）																																		
評価方法	<評価方法と割合> 定期試験（100％）の評価に講義出席率を加味した総合点で評価する。 <評価基準> 60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>中枢神経（大脳、脳幹など）の構造と機能</td></tr><tr><td>2</td><td>中枢神経（小脳、脊髄など）の構造と機能</td></tr><tr><td>3</td><td>脳神経と機能と障害</td></tr><tr><td>4</td><td>脳血管障害（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など）</td></tr><tr><td>5</td><td>外傷性中枢神経障害</td></tr><tr><td>6</td><td>外傷性末梢神経障害</td></tr><tr><td>7</td><td>脳腫瘍（グリオーマなど）（Ⅰ）</td></tr><tr><td>8</td><td>脳腫瘍（Ⅱ）</td></tr><tr><td>9</td><td>末梢神経とその障害</td></tr><tr><td>10</td><td>筋疾患（筋ジストロフィー症など）</td></tr><tr><td>11</td><td>神経変性疾患（パーキンソン病など）</td></tr><tr><td>12</td><td>てんかん</td></tr><tr><td>13</td><td>感染性神経系疾患</td></tr><tr><td>14</td><td>症候と検査（MRI など）</td></tr><tr><td>15</td><td>まとめ</td></tr></table>			回数	内容	1	中枢神経（大脳、脳幹など）の構造と機能	2	中枢神経（小脳、脊髄など）の構造と機能	3	脳神経と機能と障害	4	脳血管障害（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など）	5	外傷性中枢神経障害	6	外傷性末梢神経障害	7	脳腫瘍（グリオーマなど）（Ⅰ）	8	脳腫瘍（Ⅱ）	9	末梢神経とその障害	10	筋疾患（筋ジストロフィー症など）	11	神経変性疾患（パーキンソン病など）	12	てんかん	13	感染性神経系疾患	14	症候と検査（MRI など）	15	まとめ
回数	内容																																		
1	中枢神経（大脳、脳幹など）の構造と機能																																		
2	中枢神経（小脳、脊髄など）の構造と機能																																		
3	脳神経と機能と障害																																		
4	脳血管障害（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など）																																		
5	外傷性中枢神経障害																																		
6	外傷性末梢神経障害																																		
7	脳腫瘍（グリオーマなど）（Ⅰ）																																		
8	脳腫瘍（Ⅱ）																																		
9	末梢神経とその障害																																		
10	筋疾患（筋ジストロフィー症など）																																		
11	神経変性疾患（パーキンソン病など）																																		
12	てんかん																																		
13	感染性神経系疾患																																		
14	症候と検査（MRI など）																																		
15	まとめ																																		

【専門基礎分野】臨床科学

担当講師	高須俊太郎・永谷 哲也・石川 隆之 伊藤 元一・安田 宗義・前田 憲幸	対象学年	Ⅱ部2年
概 要	理学療法対象疾患で多くみられる脳血管疾患を中心に、脳・脊髄性疾患の病態を学習する。併せて脳神経外科で行われる外科的手術や治療、それによりおこる問題についても学習する。		
学習到達目標	・中枢神経の障害を引き起こす疾患についての疫学や予後、病因、症候について説明でき、理学療法士国家試験問題をクリアーできるレベルを目指す。 ・検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について説明でき、理学療法治療学へとつながるレベルを獲得する。		
教 科 書	病気が見える Vol. 7 脳・神経（医療情報科学研究所）		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 定期試験 100%。 ＜評価基準＞ 以上の評価割合と課題提出状況の総合点で評価し、60 点以上を合格とする。		
授業計画	回数	内容	
	1	脳挫傷の疫学、予後、病因、症候、検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について	
	2	脳内出血の疫学、予後、病因、症候、検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について	
	3	頭部外傷の疫学、予後、病因、症候、検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について	
	4	頭部外傷とリハビリテーションについて	
	5	脳腫瘍（良性）の疫学、予後、病因、症候、検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について	
	6	脳腫瘍の疫学、予後、病因、症候、検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について	
	7	脳腫瘍と臨床医学、リハビリテーションについて	
	8	水頭症、頭痛の疫学、予後、病因、症候、検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について	
	9	脳血管障害（閉塞性障害）の疫学、予後、病因、症候、検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について	
	10	中枢神経の解剖と臨床医学	
	11	小児・先天奇形の疫学、予後、病因、症候、検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について	
	12	くも膜下出血の疫学、予後、病因、症候、検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について	
	13	脊髄・脊椎疾患の疫学、予後、病因、症候、検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について	
	14	脊髄の解剖と臨床医学、リハビリテーションについて	
	15	パーキンソン病の疫学、予後、病因、症候、検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について	

【専門基礎分野】臨床心理学

担当講師	菅 吉基	対象学年	I 部 1 年・II 部 2 年																																
概 要	理学療法士として必要とされる臨床心理学の基礎理論と実際を教える。 心への理解を深めることで、自己・他者への気持ちの理解を促し、対人支援に活かせるようにする。																																		
学習到達目標	① 児童・青年期心理について説明できる ② 成人・高齢者心理について説明できる ③ 患者・対象者心理について説明できる ④ 臨床心理検査法について説明できる ⑤ 心理療法およびカウンセリングについて説明できる																																		
教 科 書	特になし																																		
評価方法	<評価方法と割合> 講義最終試験（定期試験）100% <評価基準> 60 点以上を合格とする																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>臨床心理学とは何かについて理解する。</td></tr><tr><td>2</td><td>人格の類型論について理解する。</td></tr><tr><td>3</td><td>人格の特性論について理解する。</td></tr><tr><td>4</td><td>Erikson、Piaget の発達段階説について理解する。</td></tr><tr><td>5</td><td>Freud の発達段階説、愛着・情緒及び行動の障害について理解する。</td></tr><tr><td>6</td><td>自我防衛機制、気分の障害について理解する。</td></tr><tr><td>7</td><td>強迫性障害、パニック障害、不安障害について理解する。</td></tr><tr><td>8</td><td>境界性人格障害、自己愛性人格障害、摂食障害について理解する。</td></tr><tr><td>9</td><td>意識の障害、統合失調症について理解する。</td></tr><tr><td>10</td><td>知能検査、認知症検査について理解する。</td></tr><tr><td>11</td><td>発達検査、質問紙法について理解する。</td></tr><tr><td>12</td><td>人格検査、投影法について理解する。</td></tr><tr><td>13</td><td>精神分析、分析心理学、家族療法について理解する。</td></tr><tr><td>14</td><td>行動療法、認知療法、認知行動療法について理解する。</td></tr><tr><td>15</td><td>クライアント中心療法、遊戯療法、集団療法について理解する。</td></tr></table>			回数	内容	1	臨床心理学とは何かについて理解する。	2	人格の類型論について理解する。	3	人格の特性論について理解する。	4	Erikson、Piaget の発達段階説について理解する。	5	Freud の発達段階説、愛着・情緒及び行動の障害について理解する。	6	自我防衛機制、気分の障害について理解する。	7	強迫性障害、パニック障害、不安障害について理解する。	8	境界性人格障害、自己愛性人格障害、摂食障害について理解する。	9	意識の障害、統合失調症について理解する。	10	知能検査、認知症検査について理解する。	11	発達検査、質問紙法について理解する。	12	人格検査、投影法について理解する。	13	精神分析、分析心理学、家族療法について理解する。	14	行動療法、認知療法、認知行動療法について理解する。	15	クライアント中心療法、遊戯療法、集団療法について理解する。
回数	内容																																		
1	臨床心理学とは何かについて理解する。																																		
2	人格の類型論について理解する。																																		
3	人格の特性論について理解する。																																		
4	Erikson、Piaget の発達段階説について理解する。																																		
5	Freud の発達段階説、愛着・情緒及び行動の障害について理解する。																																		
6	自我防衛機制、気分の障害について理解する。																																		
7	強迫性障害、パニック障害、不安障害について理解する。																																		
8	境界性人格障害、自己愛性人格障害、摂食障害について理解する。																																		
9	意識の障害、統合失調症について理解する。																																		
10	知能検査、認知症検査について理解する。																																		
11	発達検査、質問紙法について理解する。																																		
12	人格検査、投影法について理解する。																																		
13	精神分析、分析心理学、家族療法について理解する。																																		
14	行動療法、認知療法、認知行動療法について理解する。																																		
15	クライアント中心療法、遊戯療法、集団療法について理解する。																																		

【専門基礎分野】精神科学

担当講師	波多野 敬	対象学年	I 部 2 年
概 要	人間のさまざまな心身活動を理解できるようになるため、活動の細分化と基本メカニズムを学ぶ。精神障害を引き起こす疾患の病因、病態生理、症候、診断、治療を学ぶ。		
学習到達目標	人間活動における精神・心理機能を理解する。意欲、不安、抑うつなどの精神・心理機能メカニズムを説明できる。活動と身体、認知、感情の関連が説明できる。活動による精神・心理機能の変化を説明できる。		
教 科 書	標準理学療法学・作業療法学 精神医学（医学書院）		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 定期試験 60％、出席状況 20％、課題提出状況 20％ ＜評価基準＞ 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする。		
授業計画	回数	内容	
	1	精神医学とは：精神障害の成因なども含む	
	2	精神機能障害と精神症状について（1）	
	3	精神症状（2）及び神経学的症状について	
	4	精神障害の診断と評価について	
	5	器質性精神障害について	
	6	精神作用物質使用による精神及び行動の障害について	
	7	統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害の概要と評価、治療について	
	8	気分障害（感情障害）（躁うつ病、うつ病を含む）の概要と評価、治療について	
	9	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害の概要と評価、治療について	
	10	行動症候群（摂食障害、非器質性睡眠障害を含む）の概要と評価、治療について	
	11	成人のパーソナリティ障害（人格）及び行動の障害について	
	12	精神遅滞（知的障害）の概要と評価、治療について	
	13	心理的発達障害（広汎性発達障害、特異的発達障害を含む）の概要と評価、治療について	
	14	小児期および青年期に通常発達する行動・情動の障害（注意欠如、他動障害など）の概要と評価、治療について	
	15	てんかんの疫学・予後・病因・症候・評価・検査・診断・リハビリテーションについて	

【専門基礎分野】精神科学

担当講師	奥代 啓太	対象学年	Ⅱ部2年																																
概 要	活動（行動）を営む上での精神・心理機能について理解する（モチベーション、抑うつなど）。 精神障害を引き起こす主な疾患の病因、病態心理、症候、診断を学ぶ。																																		
学習到達目標	①モチベーションや不安・抑うつなどになどに関連する精神・心理機能のメカニズムについて説明できる。 ②活動（行動）と身体、認知、感情（情動）の関連を説明できる。 ③活動（行動）による精神・心理機能の変化について説明できる。 ④疫学、予後について説明できる。 ⑤病因、症候について説明できる。																																		
教 科 書	標準理学療法学・作業療法学 精神医学（医学書院）																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 定期試験 90%、講義出席率 10% ＜評価基準＞ 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>精神障害の成因と分類について理解する。</td></tr><tr><td>2</td><td>精神機能の障害・精神症状について理解する。</td></tr><tr><td>3</td><td>自己理解（自分自身を分析することで、自分を知る）について理解する。</td></tr><tr><td>4</td><td>器質性精神障害（症状性を含む）について理解する。</td></tr><tr><td>5</td><td>精神作用物質使用による精神および行動の障害について理解する。</td></tr><tr><td>6</td><td>統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害の概要と評価、治療について</td></tr><tr><td>7</td><td>気分(感情)障害(躁うつ・うつ病を含む)の概要と評価、治療について理解する。</td></tr><tr><td>8</td><td>神経症性障害（ストレス関連障害および身体表現性障害などを含む)について理解する。</td></tr><tr><td>9</td><td>生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群（摂食障害、非器質性睡眠障害を含む）について理解する。</td></tr><tr><td>10</td><td>成人の人格(パーソナリティ)・行動・性の障害について理解する。</td></tr><tr><td>11</td><td>精神遅滞（知的障害）について理解する。</td></tr><tr><td>12</td><td>心理的発達の障害（広汎性発達障害、特異的発達障害）について理解する。</td></tr><tr><td>13</td><td>小児期および青年期に通常発生する行動および情動の障害（注意欠如・多動性障害など）について理解する。</td></tr><tr><td>14</td><td>てんかんについて理解する。</td></tr><tr><td>15</td><td>薬物療法について理解する。</td></tr></table>			回数	内容	1	精神障害の成因と分類について理解する。	2	精神機能の障害・精神症状について理解する。	3	自己理解（自分自身を分析することで、自分を知る）について理解する。	4	器質性精神障害（症状性を含む）について理解する。	5	精神作用物質使用による精神および行動の障害について理解する。	6	統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害の概要と評価、治療について	7	気分(感情)障害(躁うつ・うつ病を含む)の概要と評価、治療について理解する。	8	神経症性障害（ストレス関連障害および身体表現性障害などを含む)について理解する。	9	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群（摂食障害、非器質性睡眠障害を含む）について理解する。	10	成人の人格(パーソナリティ)・行動・性の障害について理解する。	11	精神遅滞（知的障害）について理解する。	12	心理的発達の障害（広汎性発達障害、特異的発達障害）について理解する。	13	小児期および青年期に通常発生する行動および情動の障害（注意欠如・多動性障害など）について理解する。	14	てんかんについて理解する。	15	薬物療法について理解する。
回数	内容																																		
1	精神障害の成因と分類について理解する。																																		
2	精神機能の障害・精神症状について理解する。																																		
3	自己理解（自分自身を分析することで、自分を知る）について理解する。																																		
4	器質性精神障害（症状性を含む）について理解する。																																		
5	精神作用物質使用による精神および行動の障害について理解する。																																		
6	統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害の概要と評価、治療について																																		
7	気分(感情)障害(躁うつ・うつ病を含む)の概要と評価、治療について理解する。																																		
8	神経症性障害（ストレス関連障害および身体表現性障害などを含む)について理解する。																																		
9	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群（摂食障害、非器質性睡眠障害を含む）について理解する。																																		
10	成人の人格(パーソナリティ)・行動・性の障害について理解する。																																		
11	精神遅滞（知的障害）について理解する。																																		
12	心理的発達の障害（広汎性発達障害、特異的発達障害）について理解する。																																		
13	小児期および青年期に通常発生する行動および情動の障害（注意欠如・多動性障害など）について理解する。																																		
14	てんかんについて理解する。																																		
15	薬物療法について理解する。																																		

【専門基礎分野】小児科学

担当講師	益田 健史	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年																																
概 要	小児の疾患の特性を理解し、その知識を身につける。																																		
学習到達目標	各疾患の疫学・原因・症候・診断・治療について説明できることを目標とする。																																		
教 科 書	標準理学療法学・作業療法学 小児科学第 6 版（医学書院） 講義プリント：標準理学療法学・作業療法学 小児科学第 6 版（医学書院） 内科学（朝倉書院）、シンプル病理学（南江堂）参照																																		
評価方法	＜評価方法＞ 筆記試験（国家試験形式問題、語句説明問題、カッコ問題、○×問題）																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>小児科学概論 ・小児の発達・特徴 ・小児の保健</td></tr><tr><td>2</td><td>・マススクリーニング ・予防接種</td></tr><tr><td>3</td><td>先天異常と遺伝病 ・遺伝子及び染色体等の基本事項</td></tr><tr><td>4</td><td>・内因性先天異常（染色体の異常） ・内因性先天異常（遺伝子の異常）</td></tr><tr><td>5</td><td>・内因性先天異常（先天性心疾患）</td></tr><tr><td>6</td><td>小児の感染症 ・感染症の基礎知識</td></tr><tr><td>7</td><td>・小児の感染症 ・感染症による髄膜炎</td></tr><tr><td>8</td><td>小児の筋疾患 ・筋ジストロフィー ・重症筋無力症</td></tr><tr><td>9</td><td>発達障害 ・発達障害の定義と原因 ・発達障害の基本的症状</td></tr><tr><td>10</td><td>小児の腫瘍 ・腫瘍の病理学的知識 ・小児で特徴的に認められる腫瘍性疾患</td></tr><tr><td>11</td><td>中枢神経発生に伴う先天異常</td></tr><tr><td>12</td><td>運動発達遅滞 ・神経系の一般的事項 ・脳性麻痺の定義</td></tr><tr><td>13</td><td>・脳性麻痺の原因 ・脳性麻痺の分類と症状</td></tr><tr><td>14</td><td>てんかん ・てんかんの定義と分類。 ・てんかんの症状及び 2017 年に改訂された内容</td></tr><tr><td>15</td><td>小児の血液疾患 ・赤血球系の異常 ・白血球系の異常 まとめ</td></tr></table>			回数	内容	1	小児科学概論 ・小児の発達・特徴 ・小児の保健	2	・マススクリーニング ・予防接種	3	先天異常と遺伝病 ・遺伝子及び染色体等の基本事項	4	・内因性先天異常（染色体の異常） ・内因性先天異常（遺伝子の異常）	5	・内因性先天異常（先天性心疾患）	6	小児の感染症 ・感染症の基礎知識	7	・小児の感染症 ・感染症による髄膜炎	8	小児の筋疾患 ・筋ジストロフィー ・重症筋無力症	9	発達障害 ・発達障害の定義と原因 ・発達障害の基本的症状	10	小児の腫瘍 ・腫瘍の病理学的知識 ・小児で特徴的に認められる腫瘍性疾患	11	中枢神経発生に伴う先天異常	12	運動発達遅滞 ・神経系の一般的事項 ・脳性麻痺の定義	13	・脳性麻痺の原因 ・脳性麻痺の分類と症状	14	てんかん ・てんかんの定義と分類。 ・てんかんの症状及び 2017 年に改訂された内容	15	小児の血液疾患 ・赤血球系の異常 ・白血球系の異常 まとめ
回数	内容																																		
1	小児科学概論 ・小児の発達・特徴 ・小児の保健																																		
2	・マススクリーニング ・予防接種																																		
3	先天異常と遺伝病 ・遺伝子及び染色体等の基本事項																																		
4	・内因性先天異常（染色体の異常） ・内因性先天異常（遺伝子の異常）																																		
5	・内因性先天異常（先天性心疾患）																																		
6	小児の感染症 ・感染症の基礎知識																																		
7	・小児の感染症 ・感染症による髄膜炎																																		
8	小児の筋疾患 ・筋ジストロフィー ・重症筋無力症																																		
9	発達障害 ・発達障害の定義と原因 ・発達障害の基本的症状																																		
10	小児の腫瘍 ・腫瘍の病理学的知識 ・小児で特徴的に認められる腫瘍性疾患																																		
11	中枢神経発生に伴う先天異常																																		
12	運動発達遅滞 ・神経系の一般的事項 ・脳性麻痺の定義																																		
13	・脳性麻痺の原因 ・脳性麻痺の分類と症状																																		
14	てんかん ・てんかんの定義と分類。 ・てんかんの症状及び 2017 年に改訂された内容																																		
15	小児の血液疾患 ・赤血球系の異常 ・白血球系の異常 まとめ																																		

【専門基礎分野】リハビリテーション学

担当講師	梶原 敏夫	対象学年	I 部 2 年														
概 要	リハ医学は障害者を対象とし、早期より開始し、他職種によりチーム医療を行い、社会復帰を支援し、生活再建をすることである。医師は、障害者の医学管理を行いながら社会復帰に必要な能力獲得を目指し、そのために PT・OT・ST・Ns・MSW などに指示を行い、それぞれの専門性を活用し、指示に従って目的を達成すべく、治療・援助を行う。各疾患の障害とともに治療法や医療制度におけるリハ医療の流れを学ぶ。																
学習到達目標	リハビリテーション医療の特徴、健康と生活機能の評価、障害の病態と評価・治療について説明できる。 障害者心理と障害受容について説明できる。																
教 科 書	最新リハビリテーション医学（医歯薬出版） 参考書：現代リハビリテーション医学（金原出版）																
評価方法	＜評価方法と割合＞ 論述試験に手定期試験を行う 100% ＜評価基準＞ 60 点以上を合格とする。																
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>リハの理念、リハ医療の定義と歴史、リハ医療の特徴について理解する。</td></tr><tr><td>2</td><td>医療制度におけるリハ医療（急性期・回復期・生活期）について理解する。</td></tr><tr><td>3</td><td>介護保険を理解する。 リハビリ診療（画像診断を含む）、治療法を理解する。</td></tr><tr><td>4</td><td>障害の病態と評価、治療を理解する。 ①廃用症候群②運動障害</td></tr><tr><td>5</td><td>障害の病態と評価、治療を理解する。 ③歩行障害④摂食嚥下障害⑤排尿障害</td></tr><tr><td>6</td><td>障害の病態と評価、治療を理解する。 ⑥高次脳機能障害⑦加齢による障害（フレイル・サルコペニア） ⑧障害者心理と障害受容</td></tr></table>			回数	内容	1	リハの理念、リハ医療の定義と歴史、リハ医療の特徴について理解する。	2	医療制度におけるリハ医療（急性期・回復期・生活期）について理解する。	3	介護保険を理解する。 リハビリ診療（画像診断を含む）、治療法を理解する。	4	障害の病態と評価、治療を理解する。 ①廃用症候群②運動障害	5	障害の病態と評価、治療を理解する。 ③歩行障害④摂食嚥下障害⑤排尿障害	6	障害の病態と評価、治療を理解する。 ⑥高次脳機能障害⑦加齢による障害（フレイル・サルコペニア） ⑧障害者心理と障害受容
回数	内容																
1	リハの理念、リハ医療の定義と歴史、リハ医療の特徴について理解する。																
2	医療制度におけるリハ医療（急性期・回復期・生活期）について理解する。																
3	介護保険を理解する。 リハビリ診療（画像診断を含む）、治療法を理解する。																
4	障害の病態と評価、治療を理解する。 ①廃用症候群②運動障害																
5	障害の病態と評価、治療を理解する。 ③歩行障害④摂食嚥下障害⑤排尿障害																
6	障害の病態と評価、治療を理解する。 ⑥高次脳機能障害⑦加齢による障害（フレイル・サルコペニア） ⑧障害者心理と障害受容																

【専門基礎分野】リハビリテーション学

担当講師	尾川 貴洋	対象学年	I 部 2 年														
概 要	リハビリテーション医学が、「機能を回復する・障害を克服する・活動を育む医学」である事を理解する。リハビリテーション医学・医療の対象とする疾患・病態・障害を理解し、リハビリテーション治療の効果と共に、運動負荷時の生理学的応答、安静臥床の弊害などを学習する。																
学習到達目標	・リハビリテーション医学・医療の定義を理解する ・リハビリテーション医学・医療の対象を理解する ・運動が人体に与える影響について理解する ・運動器障害とリハビリテーション診療について理解する ・内部障害とリハビリテーション診療について理解する ・脊髄損傷とリハビリテーション診療について理解する ・脳血管障害とリハビリテーション診療について理解する																
教 科 書	・授業中のスライド ・総合力がつくりリハビリテーション医学・医療テキスト（日本リハビリテーション医学教育推進機構）																
評価方法	＜評価方法と割合＞ リハビリテーション医学の講義内容から作成した試験により、その理解を評価する（100%）。 ＜評価基準＞ 上記の試験で、60 点以上を合格とする。																
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>リハビリテーション医学・医療の定義と対象について理解する。</td></tr><tr><td>2</td><td>運動が人体に与える影響について理解する。</td></tr><tr><td>3</td><td>運動器障害とリハビリテーション診療について理解する。</td></tr><tr><td>4</td><td>内部障害とリハビリテーション診療について理解する。</td></tr><tr><td>5</td><td>脊髄損傷とリハビリテーション診療について理解する。</td></tr><tr><td>6</td><td>脳血管障害とリハビリテーション診療について理解する。</td></tr></table>			回数	内容	1	リハビリテーション医学・医療の定義と対象について理解する。	2	運動が人体に与える影響について理解する。	3	運動器障害とリハビリテーション診療について理解する。	4	内部障害とリハビリテーション診療について理解する。	5	脊髄損傷とリハビリテーション診療について理解する。	6	脳血管障害とリハビリテーション診療について理解する。
回数	内容																
1	リハビリテーション医学・医療の定義と対象について理解する。																
2	運動が人体に与える影響について理解する。																
3	運動器障害とリハビリテーション診療について理解する。																
4	内部障害とリハビリテーション診療について理解する。																
5	脊髄損傷とリハビリテーション診療について理解する。																
6	脳血管障害とリハビリテーション診療について理解する。																

【専門基礎分野】リハビリテーション学

担当講師	古川 公宣	対象学年	I 部 2 年										
概 要	リハビリテーションに関わる障害の評価のひとつである動作観察によって得られた異常所見をもとに推論を行い、心身機能・身体構造との関連性を考察する。												
学習到達目標	①理学療法に関連する代表的な疾患の異常動作の特徴がわかる。 ②動作観察により異常な箇所を指摘できる。 ③動作観察した異常動作と心身機能・身体構造との関連性を指摘できる。												
教 科 書	使用しない												
評価方法	＜評価方法と割合＞ レポート課題 100% ＜評価基準＞ レポートの取り組み程度と設問との整合性を判断し、60 点以上を合格とする。												
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>動作とは（臨床での位置づけと手順、動作の相比と表記方法）</td></tr><tr><td>2</td><td>オペレーションチャートによる動作観察の整理</td></tr><tr><td>3</td><td>主要な疾患の動作観察・分析（変形性股・膝関節症、脊髄損傷、下肢切断、他）</td></tr><tr><td>4</td><td>主要な疾患の動作観察・分析（片麻痺、パーキンソン病、他）</td></tr></table>			回数	内容	1	動作とは（臨床での位置づけと手順、動作の相比と表記方法）	2	オペレーションチャートによる動作観察の整理	3	主要な疾患の動作観察・分析（変形性股・膝関節症、脊髄損傷、下肢切断、他）	4	主要な疾患の動作観察・分析（片麻痺、パーキンソン病、他）
回数	内容												
1	動作とは（臨床での位置づけと手順、動作の相比と表記方法）												
2	オペレーションチャートによる動作観察の整理												
3	主要な疾患の動作観察・分析（変形性股・膝関節症、脊髄損傷、下肢切断、他）												
4	主要な疾患の動作観察・分析（片麻痺、パーキンソン病、他）												

【専門基礎分野】リハビリテーション学

担当講師	梶原 敏夫	対象学年	Ⅱ部2年																																
概 要	リハ医学は障害者を対象とし、早期より開始し、他職種によりチーム医療を行い、社会復帰を支援し、生活再建をすることである。医師は、障害者の医学管理を行いながら社会復帰に必要な能力獲得を目指し、そのために PT・OT・ST・Ns・MSW などに指示を行い、それぞれの専門性を活用し、指示に従って目的を達成すべく、治療・援助を行う。各疾患の障害とともに治療法や医療制度におけるリハ医療の流れを学ぶ。																																		
学習到達目標	リハビリテーション医療の特徴、健康と生活機能の評価、障害の病態と評価・治療について説明できる。 障害者心理と障害受容について説明できる。																																		
教 科 書	最新リハビリテーション医学（医歯薬出版） 参考書：現代リハビリテーション医学（金原出版）																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 論述試験に手定期試験を行う 100% ＜評価基準＞ 60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>リハの理念、リハ医療の定義と歴史、リハ医療の特徴について理解する。</td></tr><tr><td>2</td><td>医療制度におけるリハ医療（急性期・回復期・生活期）について理解する。</td></tr><tr><td>3</td><td>介護保険を理解する。リハビリ診療（画像診断を含む）、治療法を理解する。</td></tr><tr><td>4</td><td>障害の病態と評価、治療を理解する。 ①廃用症候群②運動障害</td></tr><tr><td>5</td><td>障害の病態と評価、治療を理解する。 ③歩行障害④摂食嚥下障害⑤排尿障害</td></tr><tr><td>6</td><td>障害の病態と評価、治療を理解する。 ⑥高次脳機能障害⑦加齢による障害（フレイル・サルコペニア） ⑧障害者心理と障害受容</td></tr><tr><td>7</td><td>脳血管障害に対するリハを理解する①</td></tr><tr><td>8</td><td>脳血管障害に対するリハを理解する②</td></tr><tr><td>9</td><td>頭部外傷に対するリハを理解する</td></tr><tr><td>10</td><td>脊損に対するリハを理解する</td></tr><tr><td>11</td><td>末梢神経障害、RA、神経難病に対するリハを理解する</td></tr><tr><td>12</td><td>切断に対するリハを理解する</td></tr><tr><td>13</td><td>内部障害に対するリハを理解する</td></tr><tr><td>14</td><td>整形外科疾患に対するリハを理解する</td></tr><tr><td>15</td><td>悪性腫瘍に対するリハを理解する</td></tr></table>			回数	内容	1	リハの理念、リハ医療の定義と歴史、リハ医療の特徴について理解する。	2	医療制度におけるリハ医療（急性期・回復期・生活期）について理解する。	3	介護保険を理解する。リハビリ診療（画像診断を含む）、治療法を理解する。	4	障害の病態と評価、治療を理解する。 ①廃用症候群②運動障害	5	障害の病態と評価、治療を理解する。 ③歩行障害④摂食嚥下障害⑤排尿障害	6	障害の病態と評価、治療を理解する。 ⑥高次脳機能障害⑦加齢による障害（フレイル・サルコペニア） ⑧障害者心理と障害受容	7	脳血管障害に対するリハを理解する①	8	脳血管障害に対するリハを理解する②	9	頭部外傷に対するリハを理解する	10	脊損に対するリハを理解する	11	末梢神経障害、RA、神経難病に対するリハを理解する	12	切断に対するリハを理解する	13	内部障害に対するリハを理解する	14	整形外科疾患に対するリハを理解する	15	悪性腫瘍に対するリハを理解する
回数	内容																																		
1	リハの理念、リハ医療の定義と歴史、リハ医療の特徴について理解する。																																		
2	医療制度におけるリハ医療（急性期・回復期・生活期）について理解する。																																		
3	介護保険を理解する。リハビリ診療（画像診断を含む）、治療法を理解する。																																		
4	障害の病態と評価、治療を理解する。 ①廃用症候群②運動障害																																		
5	障害の病態と評価、治療を理解する。 ③歩行障害④摂食嚥下障害⑤排尿障害																																		
6	障害の病態と評価、治療を理解する。 ⑥高次脳機能障害⑦加齢による障害（フレイル・サルコペニア） ⑧障害者心理と障害受容																																		
7	脳血管障害に対するリハを理解する①																																		
8	脳血管障害に対するリハを理解する②																																		
9	頭部外傷に対するリハを理解する																																		
10	脊損に対するリハを理解する																																		
11	末梢神経障害、RA、神経難病に対するリハを理解する																																		
12	切断に対するリハを理解する																																		
13	内部障害に対するリハを理解する																																		
14	整形外科疾患に対するリハを理解する																																		
15	悪性腫瘍に対するリハを理解する																																		

【専門基礎分野】リハビリテーション障害論

担当講師	中山 直輝	対象学年	I 部 1 年・II 部 1 年																																
概 要	障害を学ぶ上で、理学療法士は健康に関連した諸課題に向き合うことが求められる。その基本をなす健康を理解し社会環境の中で健康がどのように関係しているのかについて学ぶ。																																		
学習到達目標	・健康の定義・概念を理解した上でその多様性を学び、健康に影響をもたらす決定要因と健康寿命について説明できる。 ・生活や健康に関わる専門職・非専門職の種類とその役割を説明できる。 ・人生の各期において抱える健康面の課題とライフスタイルの変化について説明できる。 ・自然災害時、それに伴う避難所生活、そしてその後の復興支援期における健康課題と生活課題について説明できる。																																		
教 科 書	入門 リハビリテーション概論（医歯薬出版株式会社）																																		
評価方法	<評価方法と割合> 講義最終試験（定期試験）90% 講義確認テスト（小テスト）・課題発表・課題レポート 10% <評価基準> 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>リハビリテーションとは</td></tr><tr><td>2</td><td>リハビリテーションとノーマライゼーション</td></tr><tr><td>3</td><td>健康とは（定義・概念） 健康状態の多様性</td></tr><tr><td>4</td><td>健康寿命</td></tr><tr><td>5</td><td>障害とは（定義・概念）</td></tr><tr><td>6</td><td>障害とは（ICF・ICIDH） ※グループワーク・ディスカッション</td></tr><tr><td>7</td><td>リハビリテーションのサービス体系 生活や健康に関わる専門職とその役割</td></tr><tr><td>8</td><td>リハビリテーションのサービス体系 生活や健康に関わる非専門職とその役割</td></tr><tr><td>9</td><td>評価とプログラム</td></tr><tr><td>10</td><td>チームアプローチ</td></tr><tr><td>11</td><td>人生の各期において抱える健康面の課題 人生の各期におけるライフスタイルの変化</td></tr><tr><td>12</td><td>自然災害時に生じる健康課題 自然災害時の避難所における健康課題</td></tr><tr><td>13</td><td>復興支援期における健康課題</td></tr><tr><td>14</td><td>復興支援期における生活課題</td></tr><tr><td>15</td><td>自然災害時やその後の復興支援期に生ずる様々な課題を学んだ上で、理学療法士としての多職種連携やそのかわり。</td></tr></table>			回数	内容	1	リハビリテーションとは	2	リハビリテーションとノーマライゼーション	3	健康とは（定義・概念） 健康状態の多様性	4	健康寿命	5	障害とは（定義・概念）	6	障害とは（ICF・ICIDH） ※グループワーク・ディスカッション	7	リハビリテーションのサービス体系 生活や健康に関わる専門職とその役割	8	リハビリテーションのサービス体系 生活や健康に関わる非専門職とその役割	9	評価とプログラム	10	チームアプローチ	11	人生の各期において抱える健康面の課題 人生の各期におけるライフスタイルの変化	12	自然災害時に生じる健康課題 自然災害時の避難所における健康課題	13	復興支援期における健康課題	14	復興支援期における生活課題	15	自然災害時やその後の復興支援期に生ずる様々な課題を学んだ上で、理学療法士としての多職種連携やそのかわり。
回数	内容																																		
1	リハビリテーションとは																																		
2	リハビリテーションとノーマライゼーション																																		
3	健康とは（定義・概念） 健康状態の多様性																																		
4	健康寿命																																		
5	障害とは（定義・概念）																																		
6	障害とは（ICF・ICIDH） ※グループワーク・ディスカッション																																		
7	リハビリテーションのサービス体系 生活や健康に関わる専門職とその役割																																		
8	リハビリテーションのサービス体系 生活や健康に関わる非専門職とその役割																																		
9	評価とプログラム																																		
10	チームアプローチ																																		
11	人生の各期において抱える健康面の課題 人生の各期におけるライフスタイルの変化																																		
12	自然災害時に生じる健康課題 自然災害時の避難所における健康課題																																		
13	復興支援期における健康課題																																		
14	復興支援期における生活課題																																		
15	自然災害時やその後の復興支援期に生ずる様々な課題を学んだ上で、理学療法士としての多職種連携やそのかわり。																																		

【専門基礎分野】保健医療福祉制度論

担当講師	北川 秀朗・中山 直輝	対象学年	I 部 1 年・II 部 1 年																																
概 要	医療は、関連する各種制度のもとで行われる。制度の適切な適用を図るためにも、まずは、社会保障制度がどのようなになっているのか、その中で、理学療法士が従事する場合にはどのような留意点について学ぶ。理学療法士及び作業療法士法ならびに関連職種に関する資格法との関係について理解し、法規による理学療法士の位置づけを学ぶ。また、理学療法士に関わる各種法規ならびにコンプライアンスについて学ぶ。																																		
学習到達目標	社会保障制度について説明できる。 保健・医療・福祉の施策の動向について説明できる。 医療法ならびに関連職種の資格法について理解する。																																		
教 科 書	入門 リハビリテーション概論（医歯薬出版株式会社） 医療六法（中央法規） 配布資料																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 講義確認テスト（小テスト）10％ 講義最終試験（定期試験）80％ 課題発表・課題レポート 10％ ＜評価基準＞ 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>保健・医療・福祉の動向 健康づくりと健康管理、疾病予防</td></tr><tr><td>2</td><td>人口統計・衛生統計</td></tr><tr><td>3</td><td>保健・医療・福祉の施策 環境保健、地域保健、母子保健、成人保健</td></tr><tr><td>4</td><td>高齢者保健、学校保健、産業保健、精神保健</td></tr><tr><td>5</td><td>社会保障制度 医療保険</td></tr><tr><td>6</td><td>介護保険</td></tr><tr><td>7</td><td>年金保険・労災保険</td></tr><tr><td>8</td><td>関連法規 医療法 理学療法士及び作業療法士法</td></tr><tr><td>9</td><td>関連職種の資格法（他職種連携） 医師法、保健師助産師看護師法</td></tr><tr><td>10</td><td>医療類似行為に属する職種との違い</td></tr><tr><td>11</td><td>他職種連携における意見調整（コンフリクトマネジメント）</td></tr><tr><td>12</td><td>保健衛生法規 地域保健法 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律</td></tr><tr><td>13</td><td>高齢者の医療の確保に関する法律</td></tr><tr><td>14</td><td>福祉関係法規 障害者総合支援法、身体障害者福祉法、就労支援</td></tr><tr><td>15</td><td>児童福祉法、知的障害者福祉法、老人福祉法</td></tr></table> 各単元終了後に講義確認テストを行います。 講義は教科書、配布資料、スライド等を用いて行います。 課題レポートやグループディスカッションにて講義を進行する授業もあります。			回数	内容	1	保健・医療・福祉の動向 健康づくりと健康管理、疾病予防	2	人口統計・衛生統計	3	保健・医療・福祉の施策 環境保健、地域保健、母子保健、成人保健	4	高齢者保健、学校保健、産業保健、精神保健	5	社会保障制度 医療保険	6	介護保険	7	年金保険・労災保険	8	関連法規 医療法 理学療法士及び作業療法士法	9	関連職種の資格法（他職種連携） 医師法、保健師助産師看護師法	10	医療類似行為に属する職種との違い	11	他職種連携における意見調整（コンフリクトマネジメント）	12	保健衛生法規 地域保健法 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	13	高齢者の医療の確保に関する法律	14	福祉関係法規 障害者総合支援法、身体障害者福祉法、就労支援	15	児童福祉法、知的障害者福祉法、老人福祉法
回数	内容																																		
1	保健・医療・福祉の動向 健康づくりと健康管理、疾病予防																																		
2	人口統計・衛生統計																																		
3	保健・医療・福祉の施策 環境保健、地域保健、母子保健、成人保健																																		
4	高齢者保健、学校保健、産業保健、精神保健																																		
5	社会保障制度 医療保険																																		
6	介護保険																																		
7	年金保険・労災保険																																		
8	関連法規 医療法 理学療法士及び作業療法士法																																		
9	関連職種の資格法（他職種連携） 医師法、保健師助産師看護師法																																		
10	医療類似行為に属する職種との違い																																		
11	他職種連携における意見調整（コンフリクトマネジメント）																																		
12	保健衛生法規 地域保健法 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律																																		
13	高齢者の医療の確保に関する法律																																		
14	福祉関係法規 障害者総合支援法、身体障害者福祉法、就労支援																																		
15	児童福祉法、知的障害者福祉法、老人福祉法																																		

【専門基礎分野】 コメディカル論（言語聴覚）

担当講師	村瀬 幸恵	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年						
概 要	言語聴覚士の役割とチーム医療・多職種連携について知り、言語障害と摂食・嚥下障害のリハビリテーション（基礎と臨床）について学ぶ。								
学習到達目標	①言語聴覚士の役割とチーム医療・多職種連携について説明できる。 ②言語障害と摂食・嚥下障害の病態やメカニズム、治療について説明できる。								
教 科 書	配布資料								
評価方法	＜評価方法と割合＞ 講義出席率 20％ 講義内容を踏まえて「コメディカルの一員としての在り方」について考察レポート 80％ ＜評価基準＞ 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする。								
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>言語聴覚士の定義と役割、チーム医療、他職種連携の重要性を理解する。 また、コミュニケーションの定義と技術を理解する。 言語障害(失語症と構音障害)のリハビリテーションとコミュニケーション方法を理解する。</td></tr><tr><td>2</td><td>摂食・嚥下障害のメカニズム（解剖・生理・病態等）について理解し、リハビリテーションの実際について学ぶ。</td></tr></table> ・スライドを用いての講義後、動画を供覧します。 ・2 回目講義終了後にレポートを提出してください。			回数	内容	1	言語聴覚士の定義と役割、チーム医療、他職種連携の重要性を理解する。 また、コミュニケーションの定義と技術を理解する。 言語障害(失語症と構音障害)のリハビリテーションとコミュニケーション方法を理解する。	2	摂食・嚥下障害のメカニズム（解剖・生理・病態等）について理解し、リハビリテーションの実際について学ぶ。
回数	内容								
1	言語聴覚士の定義と役割、チーム医療、他職種連携の重要性を理解する。 また、コミュニケーションの定義と技術を理解する。 言語障害(失語症と構音障害)のリハビリテーションとコミュニケーション方法を理解する。								
2	摂食・嚥下障害のメカニズム（解剖・生理・病態等）について理解し、リハビリテーションの実際について学ぶ。								

【専門基礎分野】 コメディカル論（作業療法）

担当講師	田中 敏彦	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年						
概 要	リハビリテーション専門職として、理学療法と表裏一体としてとらえられている「作業療法」について理解する。同じリハビリテーション専門職として、目的や効果・職域の違いを知ること、チーム医療に役立つ知識を習得する。 なお、講義は臨床経験・教育経験のある作業療法士が担当する。								
学習到達目標	・「occupational therapy」の語源から作業療法の目的、守備範囲を説明できる。 ・「作業」とはどのようなことを指すのか。なぜ人には作業が必要なのか。を理解し、説明することができる。 ・精神科作業療法の目的・効果を説明でき、さらに自分ならどのように対応するか、を考えることができる。								
教 科 書	配布資料								
評価方法	＜評価方法と割合＞ 講義確認レポート 100% ＜評価基準＞ 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする。								
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>「作業療法を知る・オキュペーションの理解」 ・リハビリテーション職種としての作業療法（士）の目的・業務を理解する。</td></tr><tr><td>2</td><td>「作業療法の職域・精神科作業療法のプログラム」 ・理学療法との大きな違いとしての「精神科分野」の作業療法を理解する。</td></tr></table>			回数	内容	1	「作業療法を知る・オキュペーションの理解」 ・リハビリテーション職種としての作業療法（士）の目的・業務を理解する。	2	「作業療法の職域・精神科作業療法のプログラム」 ・理学療法との大きな違いとしての「精神科分野」の作業療法を理解する。
回数	内容								
1	「作業療法を知る・オキュペーションの理解」 ・リハビリテーション職種としての作業療法（士）の目的・業務を理解する。								
2	「作業療法の職域・精神科作業療法のプログラム」 ・理学療法との大きな違いとしての「精神科分野」の作業療法を理解する。								

【専門基礎分野】 コメディカル論（放射線）

担当講師	林 隆彦	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年
概 要	診療放射線技師の業務を理解する。チーム医療の一員である診療放射線技師と理学療法士の患者様への関わり方を説明する。また理学診療に必要な放射線画像の見方を説明する。		
学習到達目標	一般撮影、CT、MR、RI の基礎を学び、医療画像から理学診療に必要な情報取得ができる理学療法士を目指す。また一人で骨塩定量や放射線治療の概要説明ができることを目標とする。		
教 科 書	配布資料		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 最終レポート 100% ＜評価基準＞ 60 点以上を合格とする。		
授業計画			
	回数	内容	
	1	画像診断の概要について学習する。(放射線の発生から使用)	
	2	X 線診療画像から理学療法実施上の留意点について学習する。	
	3	CT、MR、R I 検査や診療画像から理学療法実施上の留意点について学習する。	
	4	放射線治療や骨塩定量について学習する。(放射線被ばくと測定について)	

【基礎分野】 コメディカル論（栄養）

担当講師	北川 絵里奈	対象学年	I 部 2 年、II 部 2 年						
概 要	リハビリテーションでの機能回復を円滑に進めるためには、栄養状態が良好である必要がある。五大栄養素の特徴や働き、消化・吸収・代謝、エネルギー必要量の算出方法など、栄養の基礎的な内容を学習する。また、リハによるエネルギー消費量、エネルギー蓄積量の考え方を理解し、高齢者や運動時に必要な栄養について学習する。講義を通して、リハビリテーションチームにおける多職種連携の重要性について理解を深める。								
学習到達目標	① 栄養の基礎的な内容について説明できる。 ② リハビリテーション栄養の概要について説明できる。 ③ リハビリテーションにおける多職種連携の重要性について説明できる。								
教 科 書	なし （授業資料配布）								
評価方法	＜評価方法と割合＞ レポート課題（100%） ＜評価基準＞ 課題レポートの提出状況およびその内容を評価する。								
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>栄養の基礎（五大栄養素の特徴・働き、消化・吸収・代謝、推定エネルギー必要量の算出、理想的な食事の形など）</td></tr><tr><td>2</td><td>リハビリテーション栄養とは（低栄養、サルコペニア、フレイル、エネルギー消費量、エネルギー蓄積量、高齢者や運動時に必要な栄養など） 多職種連携の重要性について</td></tr></table>			回数	内容	1	栄養の基礎（五大栄養素の特徴・働き、消化・吸収・代謝、推定エネルギー必要量の算出、理想的な食事の形など）	2	リハビリテーション栄養とは（低栄養、サルコペニア、フレイル、エネルギー消費量、エネルギー蓄積量、高齢者や運動時に必要な栄養など） 多職種連携の重要性について
回数	内容								
1	栄養の基礎（五大栄養素の特徴・働き、消化・吸収・代謝、推定エネルギー必要量の算出、理想的な食事の形など）								
2	リハビリテーション栄養とは（低栄養、サルコペニア、フレイル、エネルギー消費量、エネルギー蓄積量、高齢者や運動時に必要な栄養など） 多職種連携の重要性について								

【専門基礎分野】 コメディカル論（看護）

担当講師	瀬川 あかね	対象学年	I 部 2 年、II 部 2 年												
概 要	看護の位置づけを他職種との比較、法律上の定義、健康概念から理解する。また、他職種連携からみた看護と理学療法について具体的に示す。さらに、看護技術としてのスタンダードプリコーションと喀痰吸引を解説、実技指導する。														
学習到達目標	理学療法、他職種と対比して看護の位置づけを説明できる。 「療養上の世話又は診療の補助を行う」という基本要素を具体的に説明できる。 健康状態を左右する要因について説明できる。 ウェルネスを志向した看護の特殊性を説明できる。 看護師の専門性を技術の側面から説明できる。 チーム医療に果たすべき看護師の役割について説明できる。 スタンダードプリコーションを含む吸引の手順を理解し、実施することができる。														
教 科 書	なし														
評価方法	＜評価方法と割合＞ 講義終了後最終レポート 100% ＜評価基準＞ 60 点以上を合格とする。														
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>理学療法、他職種と対比して看護の位置づけを理解する</td></tr><tr><td>2</td><td>看護の基本要素を具体的にとらえたうえで業務内容について理解する。</td></tr><tr><td>3</td><td>ウェルネスを志向した看護の特殊性を理解し、チーム医療に果たすべき看護師の役割について学ぶ。</td></tr><tr><td>4</td><td>スタンダードプリコーション（手洗い、ガウンテクニック、手袋、エプロン）について演習する。</td></tr><tr><td>5</td><td>喀痰吸引を演習する。</td></tr></table>			回数	内容	1	理学療法、他職種と対比して看護の位置づけを理解する	2	看護の基本要素を具体的にとらえたうえで業務内容について理解する。	3	ウェルネスを志向した看護の特殊性を理解し、チーム医療に果たすべき看護師の役割について学ぶ。	4	スタンダードプリコーション（手洗い、ガウンテクニック、手袋、エプロン）について演習する。	5	喀痰吸引を演習する。
回数	内容														
1	理学療法、他職種と対比して看護の位置づけを理解する														
2	看護の基本要素を具体的にとらえたうえで業務内容について理解する。														
3	ウェルネスを志向した看護の特殊性を理解し、チーム医療に果たすべき看護師の役割について学ぶ。														
4	スタンダードプリコーション（手洗い、ガウンテクニック、手袋、エプロン）について演習する。														
5	喀痰吸引を演習する。														

【専門基礎分野】地域包括ケア論

担当講師	北川 秀朗	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年																																
概 要	住み慣れた地域・家庭で生活することは対象者のニーズである。地域包括ケアシステムについての見識を深め、その中での理学療法士の役割を理解する。また、家庭・地域で生活を維持するために、健康維持・増進、介護予防分野への理学療法士の関りも重要となる。また、在宅で終末期を迎える対象者や家族に対する関りについて理学療法士としてどのような役割があるかを学習する。																																		
学習到達目標	地域包括ケアシステム、その中での理学療法士の役割を説明できる。 健康維持・増進、介護予防について学習し、理学療法士のかかわりを説明できる。 在宅で終末期を迎える対象者や家族に対する関りについて説明できる。																																		
教 科 書	シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーションテキスト 改訂第 3 版 南江堂 配布資料																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 講義確認テスト（小テスト）10％ 講義最終試験（定期試験）80％ 課題発表・課題レポート 10％ ＜評価基準＞ 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>地域包括ケアシステムとは</td></tr><tr><td>2</td><td>地域包括ケアシステムと地域リハビリテーション</td></tr><tr><td>3</td><td>地域リハビリテーションに関連する主な政策の動向</td></tr><tr><td>4</td><td>地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割</td></tr><tr><td>5</td><td>緩和ケアとは</td></tr><tr><td>6</td><td>終末期医療の実際</td></tr><tr><td>7</td><td>終末期医療における理学療法士の役割</td></tr><tr><td>8</td><td>介護予防の概念</td></tr><tr><td>9</td><td>介護予防の効果的な取り組み</td></tr><tr><td>10</td><td>健康増進の概念</td></tr><tr><td>11</td><td>演習① 多職種連携・理解</td></tr><tr><td>12</td><td>演習② 症例の理解</td></tr><tr><td>13</td><td>演習③ 各職種に必要な知識・情報の整理</td></tr><tr><td>14</td><td>演習④ 各職種の介入方法</td></tr><tr><td>15</td><td>演習⑤ カンファレンス</td></tr></table>			回数	内容	1	地域包括ケアシステムとは	2	地域包括ケアシステムと地域リハビリテーション	3	地域リハビリテーションに関連する主な政策の動向	4	地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割	5	緩和ケアとは	6	終末期医療の実際	7	終末期医療における理学療法士の役割	8	介護予防の概念	9	介護予防の効果的な取り組み	10	健康増進の概念	11	演習① 多職種連携・理解	12	演習② 症例の理解	13	演習③ 各職種に必要な知識・情報の整理	14	演習④ 各職種の介入方法	15	演習⑤ カンファレンス
回数	内容																																		
1	地域包括ケアシステムとは																																		
2	地域包括ケアシステムと地域リハビリテーション																																		
3	地域リハビリテーションに関連する主な政策の動向																																		
4	地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割																																		
5	緩和ケアとは																																		
6	終末期医療の実際																																		
7	終末期医療における理学療法士の役割																																		
8	介護予防の概念																																		
9	介護予防の効果的な取り組み																																		
10	健康増進の概念																																		
11	演習① 多職種連携・理解																																		
12	演習② 症例の理解																																		
13	演習③ 各職種に必要な知識・情報の整理																																		
14	演習④ 各職種の介入方法																																		
15	演習⑤ カンファレンス																																		

【専門分野】理学療法概論Ⅰ

担当講師	小島 賢史・本保 真	対象学年	I 部 1 年・Ⅱ部 1 年																																
概 要	理学療法についての基本的理解を、その歴史的、法的位置づけ、実際の方法論などの概要について理解を深め、今後学習していく上での基本的事項を理解する。理学療法士の医療、福祉領域でのリハビリテーションチームとしての役割を理解する。対象者の尊厳を基軸とした理学療法の提供・発展に関わる素地を養う。																																		
学習到達目標	理学療法業務と理学療法士としての専門性を理解する。 医療、福祉分野での理学療法の役割を理解する。 理学療法実施上の安全管理について説明できる。																																		
教 科 書	理学療法学テキストⅠ 理学療法概論第 4 版（九州神陵文庫） 配布資料																																		
評価方法	<評価方法と割合> 講義最終試験（定期試験）100% <評価基準> 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>理学療法（士）とは 理学療法の定義、理学療法とリハビリテーションの違い 理学療法の歴史</td></tr><tr><td>2</td><td>理学療法士及び作業療法士法</td></tr><tr><td>3</td><td>理学療法士としての使命、役割と責務</td></tr><tr><td>4</td><td>理学療法に求められる倫理と哲学</td></tr><tr><td>5</td><td>理学療法関連法規・諸制度 医療保険制度、介護保険制度</td></tr><tr><td>6</td><td>理学療法の過程について説明できる 理学療法モデル</td></tr><tr><td>7</td><td>各病期（急性期、回復期、生活期、介護・終末期）における理学療法</td></tr><tr><td>8</td><td>理学療法の実際 運動療法、物理療法</td></tr><tr><td>9</td><td>日常生活活動動作訓練</td></tr><tr><td>10</td><td>理学療法の基礎 評価から治療・効果判定までの手順</td></tr><tr><td>11</td><td>理学療法の職域、他職種連携</td></tr><tr><td>12</td><td>理学療法の管理・運営とリスクマネジメント 個人情報保護法、カルテの管理</td></tr><tr><td>13</td><td>安全性の管理、医療事故、コンプライアンス（法令遵守）</td></tr><tr><td>14</td><td>感染対策、医療現場の清潔</td></tr><tr><td>15</td><td>理学療法の質の保証 自己研鑽の必要性和方法、生涯学習</td></tr></table> 講義は教科書・配布資料・スライド等を用いて行います。 実技を行う授業もあります。動きやすい服装の準備をお願いします。 実技の際には清潔には十分留意してください。 課題レポートやグループディスカッションにて講義を進行する授業もあります。			回数	内容	1	理学療法（士）とは 理学療法の定義、理学療法とリハビリテーションの違い 理学療法の歴史	2	理学療法士及び作業療法士法	3	理学療法士としての使命、役割と責務	4	理学療法に求められる倫理と哲学	5	理学療法関連法規・諸制度 医療保険制度、介護保険制度	6	理学療法の過程について説明できる 理学療法モデル	7	各病期（急性期、回復期、生活期、介護・終末期）における理学療法	8	理学療法の実際 運動療法、物理療法	9	日常生活活動動作訓練	10	理学療法の基礎 評価から治療・効果判定までの手順	11	理学療法の職域、他職種連携	12	理学療法の管理・運営とリスクマネジメント 個人情報保護法、カルテの管理	13	安全性の管理、医療事故、コンプライアンス（法令遵守）	14	感染対策、医療現場の清潔	15	理学療法の質の保証 自己研鑽の必要性和方法、生涯学習
回数	内容																																		
1	理学療法（士）とは 理学療法の定義、理学療法とリハビリテーションの違い 理学療法の歴史																																		
2	理学療法士及び作業療法士法																																		
3	理学療法士としての使命、役割と責務																																		
4	理学療法に求められる倫理と哲学																																		
5	理学療法関連法規・諸制度 医療保険制度、介護保険制度																																		
6	理学療法の過程について説明できる 理学療法モデル																																		
7	各病期（急性期、回復期、生活期、介護・終末期）における理学療法																																		
8	理学療法の実際 運動療法、物理療法																																		
9	日常生活活動動作訓練																																		
10	理学療法の基礎 評価から治療・効果判定までの手順																																		
11	理学療法の職域、他職種連携																																		
12	理学療法の管理・運営とリスクマネジメント 個人情報保護法、カルテの管理																																		
13	安全性の管理、医療事故、コンプライアンス（法令遵守）																																		
14	感染対策、医療現場の清潔																																		
15	理学療法の質の保証 自己研鑽の必要性和方法、生涯学習																																		

【専門分野】理学療法概論Ⅱ

担当講師	長岡 正和・中川 仁	対象学年	I 部 2 年、II 部 2 年																																
概 要	理学療法評価のもとに、対象者に必要な情報を客観的・批判的に統合整理し、根拠ある理学療法の実践に結び付けて考える思考過程能力を養う。 エビデンス（根拠）に基づく理学療法実践の展開力を身に付けるため、倫理的側面を含めて課題解決力の素地を養う。																																		
学習到達目標	得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して理学療法評価過程の考え方を理解し書面としてまとめレジュメ等を作成する。 理学療法評価過程における課題に対するため EBM を基に解決手段を考え学ぶ。 研究活動等に参加し根拠ある理学療法を実践できる思考を身につける。																																		
教 科 書	PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学（羊土社）																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 課題レポート 定期試験 ＜評価基準＞ 課題レポート合格の後、定期試験 60%以上の正答にて合格																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>概論 理学療法過程について EBM 概論、 診療ガイドラインについて</td></tr><tr><td>2</td><td>研究とエビデンスに基づく理学療法 EBM に基づく研究活動を評価・治療・目標設定につなげる</td></tr><tr><td>3</td><td>基礎情報収集 評価の時期、 情報収集の内容と項目、 情報収集の定型</td></tr><tr><td>4</td><td>理学療法評価 検査測定 of 留意事項</td></tr><tr><td>5</td><td>統合と解釈 1 概要、 記録方法ならびに記録上の注意</td></tr><tr><td>6</td><td>統合と解釈 2（グループ課題） 評価演習、問題点の抽出（模擬症例：整形疾患）、治療方針の決定</td></tr><tr><td>7</td><td>統合と解釈 3（グループ課題） 評価演習、問題点の抽出（模擬症例：中枢疾患）、治療方針の決定</td></tr><tr><td>8</td><td>統合と解釈 4（グループ課題） 評価演習、問題点の抽出（模擬症例：内部疾患）、治療方針の決定</td></tr><tr><td>9</td><td>統合と解釈 5（グループ課題） 統合と解釈 1～4 についてプレゼンテーション及びディスカッション</td></tr><tr><td>10</td><td>臨床動作・姿勢分析 1（グループ課題） 基本動作における評価演習、問題点の抽出及び解決方法の考察</td></tr><tr><td>11</td><td>臨床動作・姿勢分析 2（グループ課題） 起居動作における評価演習、問題点の抽出及び解決方法の考察</td></tr><tr><td>12</td><td>臨床動作・姿勢分析 3（グループ課題） 異常歩行における評価演習、問題点の抽出及び解決方法の考察</td></tr><tr><td>13</td><td>臨床動作・姿勢分析 4（グループ課題） 異常歩行における評価演習、問題点の抽出及び解決方法の考察</td></tr><tr><td>14</td><td>臨床動作・姿勢分析 5（グループ課題） 臨床動作・姿勢分析 1～4 についてプレゼンテーション及びディスカッション</td></tr><tr><td>15</td><td>統合と解釈 6（グループ課題） 統合と解釈 5、臨床動作・姿勢分析 5 を統合し疾患別レジュメ作成 プレゼンテーション及びディスカッション</td></tr></table>			回数	内容	1	概論 理学療法過程について EBM 概論、 診療ガイドラインについて	2	研究とエビデンスに基づく理学療法 EBM に基づく研究活動を評価・治療・目標設定につなげる	3	基礎情報収集 評価の時期、 情報収集の内容と項目、 情報収集の定型	4	理学療法評価 検査測定 of 留意事項	5	統合と解釈 1 概要、 記録方法ならびに記録上の注意	6	統合と解釈 2（グループ課題） 評価演習、問題点の抽出（模擬症例：整形疾患）、治療方針の決定	7	統合と解釈 3（グループ課題） 評価演習、問題点の抽出（模擬症例：中枢疾患）、治療方針の決定	8	統合と解釈 4（グループ課題） 評価演習、問題点の抽出（模擬症例：内部疾患）、治療方針の決定	9	統合と解釈 5（グループ課題） 統合と解釈 1～4 についてプレゼンテーション及びディスカッション	10	臨床動作・姿勢分析 1（グループ課題） 基本動作における評価演習、問題点の抽出及び解決方法の考察	11	臨床動作・姿勢分析 2（グループ課題） 起居動作における評価演習、問題点の抽出及び解決方法の考察	12	臨床動作・姿勢分析 3（グループ課題） 異常歩行における評価演習、問題点の抽出及び解決方法の考察	13	臨床動作・姿勢分析 4（グループ課題） 異常歩行における評価演習、問題点の抽出及び解決方法の考察	14	臨床動作・姿勢分析 5（グループ課題） 臨床動作・姿勢分析 1～4 についてプレゼンテーション及びディスカッション	15	統合と解釈 6（グループ課題） 統合と解釈 5、臨床動作・姿勢分析 5 を統合し疾患別レジュメ作成 プレゼンテーション及びディスカッション
回数	内容																																		
1	概論 理学療法過程について EBM 概論、 診療ガイドラインについて																																		
2	研究とエビデンスに基づく理学療法 EBM に基づく研究活動を評価・治療・目標設定につなげる																																		
3	基礎情報収集 評価の時期、 情報収集の内容と項目、 情報収集の定型																																		
4	理学療法評価 検査測定 of 留意事項																																		
5	統合と解釈 1 概要、 記録方法ならびに記録上の注意																																		
6	統合と解釈 2（グループ課題） 評価演習、問題点の抽出（模擬症例：整形疾患）、治療方針の決定																																		
7	統合と解釈 3（グループ課題） 評価演習、問題点の抽出（模擬症例：中枢疾患）、治療方針の決定																																		
8	統合と解釈 4（グループ課題） 評価演習、問題点の抽出（模擬症例：内部疾患）、治療方針の決定																																		
9	統合と解釈 5（グループ課題） 統合と解釈 1～4 についてプレゼンテーション及びディスカッション																																		
10	臨床動作・姿勢分析 1（グループ課題） 基本動作における評価演習、問題点の抽出及び解決方法の考察																																		
11	臨床動作・姿勢分析 2（グループ課題） 起居動作における評価演習、問題点の抽出及び解決方法の考察																																		
12	臨床動作・姿勢分析 3（グループ課題） 異常歩行における評価演習、問題点の抽出及び解決方法の考察																																		
13	臨床動作・姿勢分析 4（グループ課題） 異常歩行における評価演習、問題点の抽出及び解決方法の考察																																		
14	臨床動作・姿勢分析 5（グループ課題） 臨床動作・姿勢分析 1～4 についてプレゼンテーション及びディスカッション																																		
15	統合と解釈 6（グループ課題） 統合と解釈 5、臨床動作・姿勢分析 5 を統合し疾患別レジュメ作成 プレゼンテーション及びディスカッション																																		

【専門分野】理学療法研究論

担当講師	中川 仁	対象学年	I 部 2 年、II 部 2 年																																
概 要	理学療法における研究の必要性・意義を、疫学統計の実践を通してエビデンス（根拠）について講義する。また、文献抄読と模擬研究計画書の作成を通して、研究方法と、研究に伴う研究倫理、研究成果について講義する。																																		
学習到達目標	①理学療法実践と理学療法研究の必要性について説明できる。 ②ヘルシンキ宣言の内容を学習し、医療者における研究の倫理概念について説明できる。 ③文献を読み、研究の方法や研究のエビデンスについて説明できる。 ④具体的な疫学統計をもとに基礎統計学の用語や仕組みを説明できる。																																		
教 科 書	はじめての研究法 コ・メディカルの研究法 第 2 版 神陵文庫																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 模擬研究計画書 15%、小テスト 15%、定期試験 70%、授業姿勢 ＜評価基準＞ 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>理学療法実践における研究を学ぶ必要性と研究の流れを理解する。</td></tr><tr><td>2</td><td>研究計画の構成内容を理解するとともに研究のデザインについて理解する。</td></tr><tr><td>3</td><td>研究の社会的意義と研究のバックグラウンドの関係について理解する。</td></tr><tr><td>4</td><td>研究の仮説の立て方を学習し、仮説と研究の方法との関係を理解する。</td></tr><tr><td>5</td><td>文献抄読を通して研究の対象の決め方と研究に要する期間、データの読み方について理解する。</td></tr><tr><td>6</td><td>統計学的用語とその意味するところを理解するとともに、統計学の基礎知識について理解する。</td></tr><tr><td>7</td><td>研究目的に応じた統計手法の選択と尺度の扱い方について理解する。</td></tr><tr><td>8</td><td>代表的な統計手法（クロス表の検定）について理解する。</td></tr><tr><td>9</td><td>母集団と標本について学習し、パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の違いについて理解する。</td></tr><tr><td>10</td><td>代表的な統計手法（平均値の差の検定）について理解する。</td></tr><tr><td>11</td><td>代表的な統計手法（Pearson の積率相関と Spearman の順位相関）について理解する。</td></tr><tr><td>12</td><td>その他代表的な統計手法（分散分析、回帰など）について理解する。</td></tr><tr><td>13</td><td>研究者倫理（オーサーシップ、研究不正などを含む）と研究対象者に対する倫理的配慮について理解する。</td></tr><tr><td>14</td><td>エビデンスレベルおよび診療ガイドラインについて理解する。</td></tr><tr><td>15</td><td>抄録およびスライドの作り方および口頭発表の仕方とポスター発表の作り方について理解する。</td></tr></table> ・講義前半はスライドを用いての講義、後半は講義内容に即した模擬研究計画書作成のためのグループワークをします。 ・統計学の講義内容の際は PC を持参してください。			回数	内容	1	理学療法実践における研究を学ぶ必要性と研究の流れを理解する。	2	研究計画の構成内容を理解するとともに研究のデザインについて理解する。	3	研究の社会的意義と研究のバックグラウンドの関係について理解する。	4	研究の仮説の立て方を学習し、仮説と研究の方法との関係を理解する。	5	文献抄読を通して研究の対象の決め方と研究に要する期間、データの読み方について理解する。	6	統計学的用語とその意味するところを理解するとともに、統計学の基礎知識について理解する。	7	研究目的に応じた統計手法の選択と尺度の扱い方について理解する。	8	代表的な統計手法（クロス表の検定）について理解する。	9	母集団と標本について学習し、パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の違いについて理解する。	10	代表的な統計手法（平均値の差の検定）について理解する。	11	代表的な統計手法（Pearson の積率相関と Spearman の順位相関）について理解する。	12	その他代表的な統計手法（分散分析、回帰など）について理解する。	13	研究者倫理（オーサーシップ、研究不正などを含む）と研究対象者に対する倫理的配慮について理解する。	14	エビデンスレベルおよび診療ガイドラインについて理解する。	15	抄録およびスライドの作り方および口頭発表の仕方とポスター発表の作り方について理解する。
回数	内容																																		
1	理学療法実践における研究を学ぶ必要性と研究の流れを理解する。																																		
2	研究計画の構成内容を理解するとともに研究のデザインについて理解する。																																		
3	研究の社会的意義と研究のバックグラウンドの関係について理解する。																																		
4	研究の仮説の立て方を学習し、仮説と研究の方法との関係を理解する。																																		
5	文献抄読を通して研究の対象の決め方と研究に要する期間、データの読み方について理解する。																																		
6	統計学的用語とその意味するところを理解するとともに、統計学の基礎知識について理解する。																																		
7	研究目的に応じた統計手法の選択と尺度の扱い方について理解する。																																		
8	代表的な統計手法（クロス表の検定）について理解する。																																		
9	母集団と標本について学習し、パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の違いについて理解する。																																		
10	代表的な統計手法（平均値の差の検定）について理解する。																																		
11	代表的な統計手法（Pearson の積率相関と Spearman の順位相関）について理解する。																																		
12	その他代表的な統計手法（分散分析、回帰など）について理解する。																																		
13	研究者倫理（オーサーシップ、研究不正などを含む）と研究対象者に対する倫理的配慮について理解する。																																		
14	エビデンスレベルおよび診療ガイドラインについて理解する。																																		
15	抄録およびスライドの作り方および口頭発表の仕方とポスター発表の作り方について理解する。																																		

【専門分野】機能解剖学

担当講師	宮田 かおり・小島 賢史	対象学年	I 部 1 年・Ⅱ部 1 年																																
概 要	身体を構成する組織・器官を筋・骨格系（運動器）、神経系、内臓諸器官系に大別し、理学療法士の治療の基礎となる骨・筋・靱帯・動脈の部位・名称を教科書や模型を用いて確認する。また、その確認した骨・筋・靱帯・動脈について体表より触知できることを学ぶ。																																		
学習到達目標	身体を構成する組織と器官の構造と機能について理解する ①骨・関節の構造と機能について説明できる。また体表から触知することができる。 ②骨格筋の構造と機能について説明できる。また体表から触知することができる。 ③神経（末梢・中枢神経系）の構造と機能について説明できる。 ④循環器（心臓・血管など）の構造と機能について説明できる。また体表から動脈を触知することができる。																																		
教 科 書	Thiel 法だから動きがわかりやすい!筋骨格系の解剖アトラス 上肢編—Web 動画付 Thiel 法だから動きがわかりやすい!筋骨格系の解剖アトラス 下肢編—Web 動画付 配布資料																																		
評価方法	<評価方法と割合> 講義確認テスト（実技テスト）20% 講義最終試験（定期試験）80% <評価基準> 以上の評価割合の総合点で評価し,60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>上肢の骨の構造と機能について理解する。</td></tr><tr><td>2</td><td>上肢の関節の構造と機能について理解する。</td></tr><tr><td>3</td><td>上肢の骨（ランドマーク）・関節・靱帯において体表から触知する。</td></tr><tr><td>4</td><td>下肢の骨の構造と機能について理解する。</td></tr><tr><td>5</td><td>下肢の関節の構造と機能について理解する。</td></tr><tr><td>6</td><td>下肢の骨（ランドマーク）・関節・靱帯において体表から触知する。</td></tr><tr><td>7</td><td>体幹の骨・関節の構造と機能について理解する。</td></tr><tr><td>8</td><td>体幹の骨（ランドマーク）・関節・靱帯において体表から触知する。</td></tr><tr><td>9</td><td>上肢の骨格筋・神経の構造と機能について理解する。</td></tr><tr><td>10</td><td>上肢の骨格筋において体表から触知する。</td></tr><tr><td>11</td><td>下肢の骨格筋・神経の構造と機能について理解する。</td></tr><tr><td>12</td><td>下肢の骨格筋において体表から触知する。</td></tr><tr><td>13</td><td>体幹の骨格筋・神経の構造と機能について理解する。</td></tr><tr><td>14</td><td>体幹の骨格筋において体表から触知する。</td></tr><tr><td>15</td><td>循環器の構造と機能について理解し、体表から動脈を触知する。</td></tr></table> ・模型を用いて骨の部位、関節、筋の走向を確認後、触診の実技をペアにて実施する。 ・骨（ランドマーク）、筋、動脈の触診においては実技テストも実施する。			回数	内容	1	上肢の骨の構造と機能について理解する。	2	上肢の関節の構造と機能について理解する。	3	上肢の骨（ランドマーク）・関節・靱帯において体表から触知する。	4	下肢の骨の構造と機能について理解する。	5	下肢の関節の構造と機能について理解する。	6	下肢の骨（ランドマーク）・関節・靱帯において体表から触知する。	7	体幹の骨・関節の構造と機能について理解する。	8	体幹の骨（ランドマーク）・関節・靱帯において体表から触知する。	9	上肢の骨格筋・神経の構造と機能について理解する。	10	上肢の骨格筋において体表から触知する。	11	下肢の骨格筋・神経の構造と機能について理解する。	12	下肢の骨格筋において体表から触知する。	13	体幹の骨格筋・神経の構造と機能について理解する。	14	体幹の骨格筋において体表から触知する。	15	循環器の構造と機能について理解し、体表から動脈を触知する。
回数	内容																																		
1	上肢の骨の構造と機能について理解する。																																		
2	上肢の関節の構造と機能について理解する。																																		
3	上肢の骨（ランドマーク）・関節・靱帯において体表から触知する。																																		
4	下肢の骨の構造と機能について理解する。																																		
5	下肢の関節の構造と機能について理解する。																																		
6	下肢の骨（ランドマーク）・関節・靱帯において体表から触知する。																																		
7	体幹の骨・関節の構造と機能について理解する。																																		
8	体幹の骨（ランドマーク）・関節・靱帯において体表から触知する。																																		
9	上肢の骨格筋・神経の構造と機能について理解する。																																		
10	上肢の骨格筋において体表から触知する。																																		
11	下肢の骨格筋・神経の構造と機能について理解する。																																		
12	下肢の骨格筋において体表から触知する。																																		
13	体幹の骨格筋・神経の構造と機能について理解する。																																		
14	体幹の骨格筋において体表から触知する。																																		
15	循環器の構造と機能について理解し、体表から動脈を触知する。																																		

【専門分野】運動生理学

担当講師	本保 真	対象学年	I 部 1 年・II 部 1 年																																
概 要	人間はさまざまな活動（運動）を営むことができる生物ということを理解できるようになるため、人間の活動（運動）時の呼吸、循環、代謝の変化とその基本的なメカニズムを学ぶ。また NOSS を理解・体験する。																																		
学習到達目標	① 活動（運動）を継続する上で必要となる運動耐容能について説明できる。 ② 運動による呼吸の変化について説明できる。 ③ 運動による循環の変化について説明できる。 ④ 運動による代謝の変化について説明できる。																																		
教 科 書	配布資料 参考書：「運動生理学の基礎と発展」春日規克他 フリースペース 「入門運動生理学第 3 版」 勝田茂他 杏林書院 「トートラ人体の構造と機能第 3 版」 大野忠雄他 丸善株式会社																																		
評価方法	<評価方法と割合> 定期試験 100% <評価基準> 以上の評価割合の総合点で評価し 60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>オリエンテーション 導入編</td></tr><tr><td>2</td><td>総論：運動とは</td></tr><tr><td>3</td><td>運動と神経①：随意運動の経路について</td></tr><tr><td>4</td><td>運動と神経②：神経筋接合部と筋の張りについて</td></tr><tr><td>5</td><td>運動と神経③：感覚について</td></tr><tr><td>6</td><td>運動と筋①：筋の構造について</td></tr><tr><td>7</td><td>運動と筋②：筋の収縮メカニズムについて</td></tr><tr><td>8</td><td>運動と関節①：関節の構造について</td></tr><tr><td>9</td><td>運動と関節②：関節運動について</td></tr><tr><td>10</td><td>運動と代謝①：運動時のエネルギー供給について</td></tr><tr><td>11</td><td>運動と呼吸：呼吸に関わる器官の構造ならびに運動の呼吸変化について</td></tr><tr><td>12</td><td>運動と循環：循環器系に関する解剖・機能ならびに運動時の変化について</td></tr><tr><td>13</td><td>NOSS の理解と体験①</td></tr><tr><td>14</td><td>NOSS の理解と体験②</td></tr><tr><td>15</td><td>NOSS の理解と体験③</td></tr></table> ・毎回、小テストを実施する予定です。 ・NOSS は医学概論を参照すること。			回数	内容	1	オリエンテーション 導入編	2	総論：運動とは	3	運動と神経①：随意運動の経路について	4	運動と神経②：神経筋接合部と筋の張りについて	5	運動と神経③：感覚について	6	運動と筋①：筋の構造について	7	運動と筋②：筋の収縮メカニズムについて	8	運動と関節①：関節の構造について	9	運動と関節②：関節運動について	10	運動と代謝①：運動時のエネルギー供給について	11	運動と呼吸：呼吸に関わる器官の構造ならびに運動の呼吸変化について	12	運動と循環：循環器系に関する解剖・機能ならびに運動時の変化について	13	NOSS の理解と体験①	14	NOSS の理解と体験②	15	NOSS の理解と体験③
回数	内容																																		
1	オリエンテーション 導入編																																		
2	総論：運動とは																																		
3	運動と神経①：随意運動の経路について																																		
4	運動と神経②：神経筋接合部と筋の張りについて																																		
5	運動と神経③：感覚について																																		
6	運動と筋①：筋の構造について																																		
7	運動と筋②：筋の収縮メカニズムについて																																		
8	運動と関節①：関節の構造について																																		
9	運動と関節②：関節運動について																																		
10	運動と代謝①：運動時のエネルギー供給について																																		
11	運動と呼吸：呼吸に関わる器官の構造ならびに運動の呼吸変化について																																		
12	運動と循環：循環器系に関する解剖・機能ならびに運動時の変化について																																		
13	NOSS の理解と体験①																																		
14	NOSS の理解と体験②																																		
15	NOSS の理解と体験③																																		

【専門分野】運動療法論

担当講師	長岡 正和	対象学年	I部1年・II部1年																																
概 要	人間はさまざまな活動（運動）を営むことができる生物ということを理解できるようになるため、人間の活動（運動）を細分化し、その基本的なメカニズムを学ぶ。 各種運動療法の特徴、運動療法の適応、発達障害に対する理学療法評価と治療について、 実践例を交えながら講義を展開する。講義では視覚教材（写真、映像など）を補助的に使用しながら運動療法の領域の特性の理解を深め、症例を提示しながら、ワークシート学習形式でケーススタディを実施し、検討結果についてフィードバックする。安全かつ効果的な理学療法が提供できるように、疾患・障害に関係なく適用される基本的な技術について、知識を修得すると共に、実技能力としての修得を確認する。																																		
学習到達目標	1. 人間の活動（運動）について基礎知識の整理ができる 2. 運動療法の概念を理解し、中枢神経障害、整形外科疾患の基本的な運動療法の特徴および障害に対する運動療法の適応を理解する 3. 発達障害を生じる代表的な疾患の病態・症状、理学療法評価と治療について理解する 4. ケーススタディを通じて治療を立案することができ、報告書の作成ができる																																		
教 科 書	運動療法学テキスト 第3版 南江堂 イラストでわかる小児理学療法 医歯薬出版社 配布資料																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 講義最終試験（定期試験）80％ 実技演習 5％ 課題提出 10％ 講義出席率 5％ ＜評価基準＞ 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>総論・基礎運動療法、運動療法の歴史、各種運動療法</td></tr><tr><td>2</td><td>運動療法の意義と目的</td></tr><tr><td>3</td><td>栄養・安全管理・環境整備</td></tr><tr><td>4</td><td>関節可動域運動、感覚の異常</td></tr><tr><td>5</td><td>筋力増強・持久力運動</td></tr><tr><td>6</td><td>リラクゼーション・全身調整運動</td></tr><tr><td>7</td><td>協調性運動</td></tr><tr><td>8</td><td>運動学習</td></tr><tr><td>9</td><td>脳性麻痺の概要・評価・問題点・治療方針・治療プログラム</td></tr><tr><td>10</td><td>重症心身障害児の概要・評価・問題点・治療方針・治療プログラム</td></tr><tr><td>11</td><td>低出生体重児の概要・評価・問題点・治療方針・治療プログラム</td></tr><tr><td>12</td><td>広汎性発達障害の概要・評価・問題点・治療方針・治療プログラム</td></tr><tr><td>13</td><td>ジストロフィー症・二分脊椎・骨関節疾患の概要・評価・問題点・治療方針・治療プログラム</td></tr><tr><td>14</td><td>Case Study1 脳血管疾患の運動療法の実践</td></tr><tr><td>15</td><td>Case Study2 骨関節疾患の運動療法の実践</td></tr></table>			回数	内容	1	総論・基礎運動療法、運動療法の歴史、各種運動療法	2	運動療法の意義と目的	3	栄養・安全管理・環境整備	4	関節可動域運動、感覚の異常	5	筋力増強・持久力運動	6	リラクゼーション・全身調整運動	7	協調性運動	8	運動学習	9	脳性麻痺の概要・評価・問題点・治療方針・治療プログラム	10	重症心身障害児の概要・評価・問題点・治療方針・治療プログラム	11	低出生体重児の概要・評価・問題点・治療方針・治療プログラム	12	広汎性発達障害の概要・評価・問題点・治療方針・治療プログラム	13	ジストロフィー症・二分脊椎・骨関節疾患の概要・評価・問題点・治療方針・治療プログラム	14	Case Study1 脳血管疾患の運動療法の実践	15	Case Study2 骨関節疾患の運動療法の実践
回数	内容																																		
1	総論・基礎運動療法、運動療法の歴史、各種運動療法																																		
2	運動療法の意義と目的																																		
3	栄養・安全管理・環境整備																																		
4	関節可動域運動、感覚の異常																																		
5	筋力増強・持久力運動																																		
6	リラクゼーション・全身調整運動																																		
7	協調性運動																																		
8	運動学習																																		
9	脳性麻痺の概要・評価・問題点・治療方針・治療プログラム																																		
10	重症心身障害児の概要・評価・問題点・治療方針・治療プログラム																																		
11	低出生体重児の概要・評価・問題点・治療方針・治療プログラム																																		
12	広汎性発達障害の概要・評価・問題点・治療方針・治療プログラム																																		
13	ジストロフィー症・二分脊椎・骨関節疾患の概要・評価・問題点・治療方針・治療プログラム																																		
14	Case Study1 脳血管疾患の運動療法の実践																																		
15	Case Study2 骨関節疾患の運動療法の実践																																		

【専門分野】理学療法管理学Ⅰ

担当講師	中山 直輝	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年																																
概 要	社会保障制度を理解し、所属組織における業務とその管理を学ぶ。 対象者中心の視点と職業倫理を学ぶ ストレスと健康管理について学ぶ																																		
学習到達目標	社会保障制度および理学療法業務について説明できる 職業倫理を説明できる ストレスとその対処法について説明できる																																		
教 科 書	随時資料を配布																																		
評価方法	<評価方法と割合> 小テスト 2 0 % 定期試験 8 0 % <評価基準> 2/3 以上の出席を前提に、試験結果の 6 0 % 以上を合格とする																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>社会保障制度①制度の概要</td></tr><tr><td>2</td><td>社会保障制度②医療保険制度</td></tr><tr><td>3</td><td>社会保障制度③診療報酬</td></tr><tr><td>4</td><td>社会保障制度④介護保険制度</td></tr><tr><td>5</td><td>対象者中心の視点①患者の権利</td></tr><tr><td>6</td><td>対象者中心の視点②I.C、自己決定</td></tr><tr><td>7</td><td>職業倫理①医の倫理</td></tr><tr><td>8</td><td>職業倫理②身分法と倫理綱領</td></tr><tr><td>9</td><td>職業倫理③ハラスメント</td></tr><tr><td>10</td><td>職業倫理④利害衝突の管理</td></tr><tr><td>11</td><td>ストレスと健康管理①環境とストレス</td></tr><tr><td>12</td><td>ストレスと健康管理②ストレスへの対応</td></tr><tr><td>13</td><td>業務管理①診療記録</td></tr><tr><td>14</td><td>業務管理②多職種連携、カンファレンス</td></tr><tr><td>15</td><td>業務管理③人事考課、労務管理</td></tr></table>			回数	内容	1	社会保障制度①制度の概要	2	社会保障制度②医療保険制度	3	社会保障制度③診療報酬	4	社会保障制度④介護保険制度	5	対象者中心の視点①患者の権利	6	対象者中心の視点②I.C、自己決定	7	職業倫理①医の倫理	8	職業倫理②身分法と倫理綱領	9	職業倫理③ハラスメント	10	職業倫理④利害衝突の管理	11	ストレスと健康管理①環境とストレス	12	ストレスと健康管理②ストレスへの対応	13	業務管理①診療記録	14	業務管理②多職種連携、カンファレンス	15	業務管理③人事考課、労務管理
回数	内容																																		
1	社会保障制度①制度の概要																																		
2	社会保障制度②医療保険制度																																		
3	社会保障制度③診療報酬																																		
4	社会保障制度④介護保険制度																																		
5	対象者中心の視点①患者の権利																																		
6	対象者中心の視点②I.C、自己決定																																		
7	職業倫理①医の倫理																																		
8	職業倫理②身分法と倫理綱領																																		
9	職業倫理③ハラスメント																																		
10	職業倫理④利害衝突の管理																																		
11	ストレスと健康管理①環境とストレス																																		
12	ストレスと健康管理②ストレスへの対応																																		
13	業務管理①診療記録																																		
14	業務管理②多職種連携、カンファレンス																																		
15	業務管理③人事考課、労務管理																																		

【専門分野】理学療法管理学Ⅱ

担当講師	坂口 勇人	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年
概 要	名古屋石田学園の建学の精神および本学の教育理念を学ぶ 理学療法教育を学ぶ 臨床における医療事故の現状とリスク管理・回避の方法を学ぶ		
学習到達目標	名古屋石田学園の建学の精神および本学の教育理念を理解する 医学教育および理学療法教育を理解する 臨床場面でのリスク管理を理解する NOSS*を理解・体験する		
教 科 書	配布資料		
評価方法	<評価方法と割合> 定期試験 90% 確認テスト 20% 講義出席率および受講態度 10% <評価基準> 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする		
授業計画	回数	内容	
	1	建学の精神および教育理念	
	2	医学教育	
	3	理学療法士教育の歴史	
	4	理学療法士教育の内容	
	5	理学療法士国家試験の出題基準，診療参加型臨床実習	
	6	臨床教育の評価・方法・生涯学習制度	
	7	医療事故	
	8	臨床場面におけるリスク管理	
	9	理学療法安全点検と整備①	
	10	理学療法安全点検と整備②	
	11	一時救命処置①	
	12	一時救命処置②	
	13	NOSS の理解と体験①	
	14	NOSS の理解と体験②	
	15	NOSS の理解と体験③	
	* 医学概論のシラバスを参照すること。		

【専門分野】理学療法評価論

担当講師	宮田 かおり	対象学年	I 部 1 年・II 部 1 年
概 要	EBPT につながる基本として、理学療法士が行う検査測定結果から目標設定、理学療法プログラムの立案につながる臨床推論の基本的な流れが展開できる素地を養う。疾病に関係なく理学療法士が実施する種々の機能低下を把握するための検査測定技法を修得し、その結果の解釈について学ぶ。情報収集から治療計画立案、効果判定、最終目標の到達判断に至るまでの過程について具体例を通して学ぶ。		
学習到達目標	理学療法評価・臨床推論の流れを説明できる。 理学療法の基本的評価技術を修得する。		
教 科 書	リハビリテーション基礎評価学 第 2 版（羊土社） 配布資料		
評価方法	<評価方法と割合> 講義最終試験（定期試験）80% 課題発表、課題レポート 20% <評価基準> 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする。		
授業計画	回数	内容	
	1	理学療法評価とは 意義と目的	
	2	信頼性と妥当性	
	3	理学療法評価の目的と評価方法 理学療法評価を実施する時期 理学療法評価実施前のスクリーニング検査	
	4	実施（観察・検査・測定・動作観察） 情報収集（検査・画像所見）	
	5	理学療法評価に基づく治療計画立案までのプロセス	
	6	理学療法実施に関わる情報の整理	
	7	理学療法の目標設定 理学療法プログラムの立案	
	8	カルテの記載、理学療法の実施記録	
	9	患者・対象者への教育、インフォームド・コンセント	
	10	疾患および機能不全に応じたリスクや注意事項 患者・対象者の動機づけを引き出す為に必要なポイント	
	11	医療面接	
	12	医療面接（演習）	
	13	全身状態の観察 意識（GOS・JCS） バイタルサイン（血圧・心拍・呼吸数計測）	
	14	全身状態の観察 栄養状態、皮膚（褥瘡）、排尿・排便、摂食・嚥下	
	15	全身状態の観察（演習）	
	各単元終了後に講義確認テストを行います。 講義は教科書・配布資料・スライド等を用いて行います。 実技を行う授業もあります。動きやすい服装の準備をお願いします。 実技の際には清潔には十分留意してください。 課題レポートやグループディスカッションにて講義を進行する授業もあります。		

【専門分野】理学療法評価学Ⅰ

担当講師	北川 秀朗	対象学年	I 部 1 年・Ⅱ部 1 年																																
概 要	各検査の意義・目的を理解し、実施できるようにする。また、疾患を見据えて、関節ごとに関節可動域、整形外科的検査法を結びつけながら学ぶ。関節可動域検査では、基本軸、移動軸、参考可動域を理解し、整形外科的検査では、各疾患に対する検査法、検査手順、陽性の機序、その結果の解釈について学ぶ。																																		
学習到達目標	・各検査の意義、目的を理解する。 ・各検査が実際に行えるようにする。 ・患者の症状に応じた検査方法を身につける。																																		
教 科 書	シンプル理学療法学シリーズ 理学療法評価学テキスト																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 実技試験 定期試験 ＜評価基準＞ 実技試験合格の後、定期試験 60%以上の正答にて合格																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>関節可動域測定についての概論 関節可動域測定の概要・方法・目的について、検査の注意事項 関節可動域制限の程度と関連要因の把握について</td></tr><tr><td>2</td><td>実技 1 肩甲帯, 肩関節</td></tr><tr><td>3</td><td>実技 2 肘関節, 前腕, 手関節</td></tr><tr><td>4</td><td>実技 3 股関節, 膝関節</td></tr><tr><td>5</td><td>実技 4 足関節, 手指, 足趾</td></tr><tr><td>6</td><td>実技 5 体幹</td></tr><tr><td>7</td><td>実技 6 頸部</td></tr><tr><td>8</td><td>実技 7 実技 1～6 総復習</td></tr><tr><td>9</td><td>実技試験 実技 1～6 について実技試験実施</td></tr><tr><td>10</td><td>整形外科的検査法 1（グループ課題） 検査方法, 意義, 陽性の機序について調べる： 頸部疾患検査、胸郭出口症候群および胸椎部疾患検査、腰部疾患検査、仙腸関節疾患検査、肩関節疾患検査、肘関節疾患検査、手関節疾患検査、指関節疾患検査、股関節疾患検査、膝関節疾患検査、足関節疾患検査、その他</td></tr><tr><td>11</td><td>整形外科的検査法 2（グループ課題） 検査方法, 意義, 陽性の機序について調べる</td></tr><tr><td>12</td><td>整形外科的検査法 1～2 についてプレゼンテーション</td></tr><tr><td>13</td><td>整形外科的検査法 1～2 についてプレゼンテーション</td></tr><tr><td>14</td><td>整形外科的検査法 1～2 についてプレゼンテーション</td></tr><tr><td>15</td><td>まとめ 関節可動域測定および整形外科的検査法</td></tr></table>			回数	内容	1	関節可動域測定についての概論 関節可動域測定の概要・方法・目的について、検査の注意事項 関節可動域制限の程度と関連要因の把握について	2	実技 1 肩甲帯, 肩関節	3	実技 2 肘関節, 前腕, 手関節	4	実技 3 股関節, 膝関節	5	実技 4 足関節, 手指, 足趾	6	実技 5 体幹	7	実技 6 頸部	8	実技 7 実技 1～6 総復習	9	実技試験 実技 1～6 について実技試験実施	10	整形外科的検査法 1（グループ課題） 検査方法, 意義, 陽性の機序について調べる： 頸部疾患検査、胸郭出口症候群および胸椎部疾患検査、腰部疾患検査、仙腸関節疾患検査、肩関節疾患検査、肘関節疾患検査、手関節疾患検査、指関節疾患検査、股関節疾患検査、膝関節疾患検査、足関節疾患検査、その他	11	整形外科的検査法 2（グループ課題） 検査方法, 意義, 陽性の機序について調べる	12	整形外科的検査法 1～2 についてプレゼンテーション	13	整形外科的検査法 1～2 についてプレゼンテーション	14	整形外科的検査法 1～2 についてプレゼンテーション	15	まとめ 関節可動域測定および整形外科的検査法
回数	内容																																		
1	関節可動域測定についての概論 関節可動域測定の概要・方法・目的について、検査の注意事項 関節可動域制限の程度と関連要因の把握について																																		
2	実技 1 肩甲帯, 肩関節																																		
3	実技 2 肘関節, 前腕, 手関節																																		
4	実技 3 股関節, 膝関節																																		
5	実技 4 足関節, 手指, 足趾																																		
6	実技 5 体幹																																		
7	実技 6 頸部																																		
8	実技 7 実技 1～6 総復習																																		
9	実技試験 実技 1～6 について実技試験実施																																		
10	整形外科的検査法 1（グループ課題） 検査方法, 意義, 陽性の機序について調べる： 頸部疾患検査、胸郭出口症候群および胸椎部疾患検査、腰部疾患検査、仙腸関節疾患検査、肩関節疾患検査、肘関節疾患検査、手関節疾患検査、指関節疾患検査、股関節疾患検査、膝関節疾患検査、足関節疾患検査、その他																																		
11	整形外科的検査法 2（グループ課題） 検査方法, 意義, 陽性の機序について調べる																																		
12	整形外科的検査法 1～2 についてプレゼンテーション																																		
13	整形外科的検査法 1～2 についてプレゼンテーション																																		
14	整形外科的検査法 1～2 についてプレゼンテーション																																		
15	まとめ 関節可動域測定および整形外科的検査法																																		

【専門分野】理学療法評価学Ⅱ

担当講師	水上 志帆・舛内 真二	対象学年	I 部 1 年・Ⅱ部 1 年																																
概 要	疾病に関係なく理学療法士が実施する種々の機能低下を把握するための検査測定技法を修得し、その結果の解釈について学ぶ。																																		
学習到達目標	理学療法の基本的評価技術を修得する（形態計測、徒手筋力検査、筋持久力検査）。 ① 機能形態計測（四肢長，周径など）が実施できる。 ② 筋力低下の程度と関連要因を把握する評価が実施できる。 ③ 持久性低下の程度と関連要因を把握する評価が実施できる。																																		
教 科 書	・シンプル理学療法学シリーズ 理学療法評価学テキスト ・新・徒手筋力検査法																																		
評価方法	<評価方法と割合> 講義最終試験（定期試験）70% 実技試験（形態計測、徒手筋力検査、筋持久力検査）30% <評価基準> 以上の評価割合の総合点で評価し,60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>四肢長・周径測定について理解する。</td></tr><tr><td>2</td><td>四肢長・周径測定を実施する。</td></tr><tr><td>3</td><td>徒手筋力検査（daniels らの徒手筋力検査）について理解する。</td></tr><tr><td>4</td><td>徒手筋力検査を実施する（下肢）。</td></tr><tr><td>5</td><td>徒手筋力検査を実施する（下肢）。</td></tr><tr><td>6</td><td>徒手筋力検査を実施する（下肢）。</td></tr><tr><td>7</td><td>徒手筋力検査を実施する（下肢）。</td></tr><tr><td>8</td><td>徒手筋力検査を実施する（上肢）。</td></tr><tr><td>9</td><td>徒手筋力検査を実施する（上肢）。</td></tr><tr><td>10</td><td>徒手筋力検査を実施する（上肢）。</td></tr><tr><td>11</td><td>徒手筋力検査を実施する（上肢）。</td></tr><tr><td>12</td><td>徒手筋力検査を実施する（頸部・体幹）。</td></tr><tr><td>13</td><td>徒手筋力検査を実施する（頸部・体幹）。</td></tr><tr><td>14</td><td>筋持久力検査を理解する。</td></tr><tr><td>15</td><td>筋持久力検査を実施する。</td></tr></table> ・実技を主体とした講義となりますので、動きやすい服装を準備しておいてください。 ・教科書および検査器具は忘れないようにしてください。			回数	内容	1	四肢長・周径測定について理解する。	2	四肢長・周径測定を実施する。	3	徒手筋力検査（daniels らの徒手筋力検査）について理解する。	4	徒手筋力検査を実施する（下肢）。	5	徒手筋力検査を実施する（下肢）。	6	徒手筋力検査を実施する（下肢）。	7	徒手筋力検査を実施する（下肢）。	8	徒手筋力検査を実施する（上肢）。	9	徒手筋力検査を実施する（上肢）。	10	徒手筋力検査を実施する（上肢）。	11	徒手筋力検査を実施する（上肢）。	12	徒手筋力検査を実施する（頸部・体幹）。	13	徒手筋力検査を実施する（頸部・体幹）。	14	筋持久力検査を理解する。	15	筋持久力検査を実施する。
回数	内容																																		
1	四肢長・周径測定について理解する。																																		
2	四肢長・周径測定を実施する。																																		
3	徒手筋力検査（daniels らの徒手筋力検査）について理解する。																																		
4	徒手筋力検査を実施する（下肢）。																																		
5	徒手筋力検査を実施する（下肢）。																																		
6	徒手筋力検査を実施する（下肢）。																																		
7	徒手筋力検査を実施する（下肢）。																																		
8	徒手筋力検査を実施する（上肢）。																																		
9	徒手筋力検査を実施する（上肢）。																																		
10	徒手筋力検査を実施する（上肢）。																																		
11	徒手筋力検査を実施する（上肢）。																																		
12	徒手筋力検査を実施する（頸部・体幹）。																																		
13	徒手筋力検査を実施する（頸部・体幹）。																																		
14	筋持久力検査を理解する。																																		
15	筋持久力検査を実施する。																																		

【専門分野】理学療法評価学Ⅲ

担当講師	小島 賢史・本保 真	対象学年	I 部 1 年・Ⅱ部 1 年																																
概 要	基礎的知識をもとに、疾病に関係なく理学療法士が実施する種々の機能低下を把握するための検査測定技法を修得し、その結果の解釈について学ぶ。																																		
学習到達目標	理学療法の基本的評価技術を修得する（反射、筋緊張検査、感覚検査） ①反射の構造を理解し、関連要因を把握する評価が実施できる。 ②バランス・平衡機能低下の程度と関連要因を把握する評価が実施できる。 ③筋緊張異常の程度と関連要因を把握する評価が実施できる。 ④感覚異常の程度と関連要因を把握する評価が実施できる。 ⑤疼痛（急性痛、慢性疼痛）の程度と関連要因を把握する評価が実施できる。																																		
教 科 書	シンプル理学療法学シリーズ 理学療法評価学テキスト ベッドサイドの神経の診かた 南江堂																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 講義確認テスト（小テスト）5% 実技試験 20% 課題提出 10% 講義最終試験（定期試験）60% 講義出席率 5%. ＜評価基準＞ 以上の評価割合の総合点で評価し,60 点以上を合格とする.																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>腱反射のメカニズムを学び、関連要因を理解する。</td></tr><tr><td>2</td><td>表在反射・病的反射のメカニズムを学び、関連要因を理解する。</td></tr><tr><td>3</td><td>バランス・平衡機能のメカニズムを学び、関連要因を理解する。</td></tr><tr><td>4</td><td>筋緊張のメカニズムを学び、関連要因を理解する。</td></tr><tr><td>5</td><td>感覚に関する経路を学び、関連要因を理解する。</td></tr><tr><td>6</td><td>疼痛のメカニズムを学び、関連要因を理解する。</td></tr><tr><td>7</td><td>反射検査・バランス検査・平衡機能検査の意義と方法を理解する。</td></tr><tr><td>8</td><td>筋緊張検査・疼痛検査の意義と方法を理解する。</td></tr><tr><td>9</td><td>感覚検査の意義と方法を理解する。</td></tr><tr><td>10</td><td>腱反射検査を実施する。</td></tr><tr><td>11</td><td>表在反射・病的反射の検査を実施する。</td></tr><tr><td>12</td><td>バランス・平衡機能の検査を実施する。</td></tr><tr><td>13</td><td>筋緊張検査を実施する。</td></tr><tr><td>14</td><td>感覚検査を実施する。</td></tr><tr><td>15</td><td>疼痛検査を実施する。</td></tr></table> ・1～6 回はスライドを用いての講義、7～9 回はグループワークにて各検査に関する意義・方法をまとめ、10～15 回目に各検査の実技を実施します。 ・単元ごとに小テストを行い、後半には実技テストも実施します。			回数	内容	1	腱反射のメカニズムを学び、関連要因を理解する。	2	表在反射・病的反射のメカニズムを学び、関連要因を理解する。	3	バランス・平衡機能のメカニズムを学び、関連要因を理解する。	4	筋緊張のメカニズムを学び、関連要因を理解する。	5	感覚に関する経路を学び、関連要因を理解する。	6	疼痛のメカニズムを学び、関連要因を理解する。	7	反射検査・バランス検査・平衡機能検査の意義と方法を理解する。	8	筋緊張検査・疼痛検査の意義と方法を理解する。	9	感覚検査の意義と方法を理解する。	10	腱反射検査を実施する。	11	表在反射・病的反射の検査を実施する。	12	バランス・平衡機能の検査を実施する。	13	筋緊張検査を実施する。	14	感覚検査を実施する。	15	疼痛検査を実施する。
回数	内容																																		
1	腱反射のメカニズムを学び、関連要因を理解する。																																		
2	表在反射・病的反射のメカニズムを学び、関連要因を理解する。																																		
3	バランス・平衡機能のメカニズムを学び、関連要因を理解する。																																		
4	筋緊張のメカニズムを学び、関連要因を理解する。																																		
5	感覚に関する経路を学び、関連要因を理解する。																																		
6	疼痛のメカニズムを学び、関連要因を理解する。																																		
7	反射検査・バランス検査・平衡機能検査の意義と方法を理解する。																																		
8	筋緊張検査・疼痛検査の意義と方法を理解する。																																		
9	感覚検査の意義と方法を理解する。																																		
10	腱反射検査を実施する。																																		
11	表在反射・病的反射の検査を実施する。																																		
12	バランス・平衡機能の検査を実施する。																																		
13	筋緊張検査を実施する。																																		
14	感覚検査を実施する。																																		
15	疼痛検査を実施する。																																		

【専門分野】理学療法評価学Ⅳ

担当講師	長岡 正和・本保 真	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年																								
概 要	中枢神経の機能とそのメカニズムを理解するとともに、障害を受けた際に生ずる病態を把握し、総合評価に結び付けるための検査・測定方法、技術を修得するとともに、その結果の解釈について学ぶ。																										
学習到達目標	中枢性運動麻痺の病態を正しく理解した上で、適切な検査・測定を選択し実施することができる。 認知・高次脳機能障害を正しく理解した上で、適切な検査・測定を選択し実施することができる。																										
教 科 書	シンプル理学療法学シリーズ 理学療法評価学テキスト 高次脳機能障害学 第 2 版																										
評価方法	＜評価方法と割合＞ 定期試験 100% ＜評価基準＞ 60 点以上を合格とする。																										
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>運動麻痺 ・ 中枢性運動麻痺と末梢性運動麻痺の病態と症候</td></tr><tr><td>2</td><td>運動麻痺 ・ 中枢性運動麻痺と末梢性運動麻痺の相違事項</td></tr><tr><td>3</td><td>運動麻痺の検査・測定 ・ 中枢性運動麻痺と末梢性運動麻痺それぞれの方法論</td></tr><tr><td>4</td><td>量的側面と質的側面 ・ Motoricity Index、Brunnstrom Recovery Stage、Modified Ashworth Scale の理解と実践</td></tr><tr><td>5</td><td>総合評価 ・ SIAS、Fugl-Meyer Assessment、mNIHSS、JSSM の理解と主として SIAS の実践</td></tr><tr><td>6</td><td>活動制限の評価 ・ mRankin Scale、Barthel Index、FIM の理解と主として Rankin Scale の実践</td></tr><tr><td>7</td><td>精神機能の障害 ・ 脳損傷に伴う広義の精神機能障害の病態と症候 ・ 意識障害、注意障害、記憶障害・言語機能の障害(失語)、行為の遂行障害(失行)、認識機能の障害(失認) ＜高次脳機能障害＞ 、知能障害、学習障害</td></tr><tr><td>8</td><td>意識と注意の障害 ・ JCS、GCS、数字の順唱/逆唱、文字抹消検査、仮名拾い検査、ストループテストの理解と実践</td></tr><tr><td>9</td><td>記憶の障害 ・ 脳血管障害、脳炎、低酸素脳症などによる場合と認知症による場合 ・ 視覚性記憶（5 物品の記憶検査、レイオステライト図形記憶検査）、聴覚性記憶（数字の順唱/逆唱、三宅式記銘力検査）</td></tr><tr><td>10</td><td>言語機能の障害（失語） ・ 失語症のタイプ別特性の理解とスクリーニング検査の実践 ・ 標準失語症検査 SLTA の理解</td></tr><tr><td>11</td><td>行為の遂行障害（失行） ・ 失行症のタイプ別特性の理解と検査の実践 ・ 模倣検査、物品使用検査、紐結び/ページめくり検査</td></tr></table>			回数	内容	1	運動麻痺 ・ 中枢性運動麻痺と末梢性運動麻痺の病態と症候	2	運動麻痺 ・ 中枢性運動麻痺と末梢性運動麻痺の相違事項	3	運動麻痺の検査・測定 ・ 中枢性運動麻痺と末梢性運動麻痺それぞれの方法論	4	量的側面と質的側面 ・ Motoricity Index、Brunnstrom Recovery Stage、Modified Ashworth Scale の理解と実践	5	総合評価 ・ SIAS、Fugl-Meyer Assessment、mNIHSS、JSSM の理解と主として SIAS の実践	6	活動制限の評価 ・ mRankin Scale、Barthel Index、FIM の理解と主として Rankin Scale の実践	7	精神機能の障害 ・ 脳損傷に伴う広義の精神機能障害の病態と症候 ・ 意識障害、注意障害、記憶障害・言語機能の障害(失語)、行為の遂行障害(失行)、認識機能の障害(失認) ＜高次脳機能障害＞ 、知能障害、学習障害	8	意識と注意の障害 ・ JCS、GCS、数字の順唱/逆唱、文字抹消検査、仮名拾い検査、ストループテストの理解と実践	9	記憶の障害 ・ 脳血管障害、脳炎、低酸素脳症などによる場合と認知症による場合 ・ 視覚性記憶（5 物品の記憶検査、レイオステライト図形記憶検査）、聴覚性記憶（数字の順唱/逆唱、三宅式記銘力検査）	10	言語機能の障害（失語） ・ 失語症のタイプ別特性の理解とスクリーニング検査の実践 ・ 標準失語症検査 SLTA の理解	11	行為の遂行障害（失行） ・ 失行症のタイプ別特性の理解と検査の実践 ・ 模倣検査、物品使用検査、紐結び/ページめくり検査
回数	内容																										
1	運動麻痺 ・ 中枢性運動麻痺と末梢性運動麻痺の病態と症候																										
2	運動麻痺 ・ 中枢性運動麻痺と末梢性運動麻痺の相違事項																										
3	運動麻痺の検査・測定 ・ 中枢性運動麻痺と末梢性運動麻痺それぞれの方法論																										
4	量的側面と質的側面 ・ Motoricity Index、Brunnstrom Recovery Stage、Modified Ashworth Scale の理解と実践																										
5	総合評価 ・ SIAS、Fugl-Meyer Assessment、mNIHSS、JSSM の理解と主として SIAS の実践																										
6	活動制限の評価 ・ mRankin Scale、Barthel Index、FIM の理解と主として Rankin Scale の実践																										
7	精神機能の障害 ・ 脳損傷に伴う広義の精神機能障害の病態と症候 ・ 意識障害、注意障害、記憶障害・言語機能の障害(失語)、行為の遂行障害(失行)、認識機能の障害(失認) ＜高次脳機能障害＞ 、知能障害、学習障害																										
8	意識と注意の障害 ・ JCS、GCS、数字の順唱/逆唱、文字抹消検査、仮名拾い検査、ストループテストの理解と実践																										
9	記憶の障害 ・ 脳血管障害、脳炎、低酸素脳症などによる場合と認知症による場合 ・ 視覚性記憶（5 物品の記憶検査、レイオステライト図形記憶検査）、聴覚性記憶（数字の順唱/逆唱、三宅式記銘力検査）																										
10	言語機能の障害（失語） ・ 失語症のタイプ別特性の理解とスクリーニング検査の実践 ・ 標準失語症検査 SLTA の理解																										
11	行為の遂行障害（失行） ・ 失行症のタイプ別特性の理解と検査の実践 ・ 模倣検査、物品使用検査、紐結び/ページめくり検査																										

授業計画

回数	内容
12	認識機構の障害（失認） ・失認症のタイプ別特性の理解と検査の実践 ・線分二等分検査、文字抹消検査、模写検査、病態失認質問紙検査
13	知能障害 ・長谷川式簡易知能評価スケール、MMSE の理解と検査の実践
14	主として脳血管障害に基づく脳損傷における複数の障害が同時に存在する場合の評価と結果の解釈 ①
15	主として脳血管障害に基づく脳損傷における複数の障害が同時に存在する場合の評価と結果の解釈 ②

【専門分野】理学療法評価学Ⅴ

担当講師	三宅 わか子	対象学年	I 部 2 年・Ⅱ部 2 年														
概 要	基礎的知識をもとに、種々の機能低下を把握する脳神経検査、協調テストを中心に理学療法検査測定技法について学ぶ。各検査の意義・目的・検査方法・判定方法について実技を含めて実施でき、その結果の解釈について学修する。																
学習到達目標	1. 脳神経検査、協調性検査の意義、目的を理解する。 2. バランス。平衡機能の低下の程度と関連要因を把握できる 3. 各検査の実施と結果の記録ができる。 4. 患者の症状に応じた検査方法を身につける。																
教 科 書	シンプル理学療法学シリーズ 理学療法評価学テキスト（南江堂） 参考書：ベッドサイドの神経の診かた 改訂 17 版（南山堂） 配布資料																
評価方法	＜評価方法と割合＞ 〈評価方法と割合〉 講義最終試験（定期試験）70％ 実技試験 15％ 課題提出 10％ 講義出席率 5％ ＜評価基準＞ 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする																
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>脳神経障害の概要</td></tr><tr><td>2</td><td>【脳神経検査 1】 嗅（Ⅰ）神経、視（Ⅱ）神経件さが実施できる ・障害部位の見かた ・各種検査方法と結果の記録</td></tr><tr><td>3</td><td>【脳神経検査 2】 動眼（Ⅲ）神経、滑車（Ⅳ）神経、外転（Ⅵ）神経の各種検査が実施できる・障害部位の見かた ・眼瞼下垂・眼球の異常所見・瞳孔の異常・瞳孔反射の異常 ・瞳孔異常を呈する症候群・眼筋麻痺・共同性眼球運動の麻痺 ・眼振の診断的意義・異常眼球運動と病巣部位 ・各種検査方法と結果の記録</td></tr><tr><td>4</td><td>【脳神経検査 3】 三叉（Ⅴ）神経検査が実施できる ・障害部位の見かた・三叉神経痛・血管腫 ・検査方法と結果の記録 顔面（Ⅶ）神経 ・中枢性障害と末梢性障害の鑑別・末梢神経障害の見かた ・橋障害による顔面麻痺・その他症候群 ・検査方法と結果の記録</td></tr><tr><td>5</td><td>【脳神経検査 4】 聴（Ⅷ）神経検査が実施できる ・障害部位の見かた・神経性難聴・めまい・検査方法と結果の記録 舌咽（Ⅸ）神経、迷走（Ⅹ）神経 ・障害部位の見かた・舌咽神経痛・反回神経麻痺・球麻痺 ・検査方法と結果の記録 副（Ⅺ）神経 舌下（Ⅻ）神経 ・障害部位の見かた ・検査方法と結果の記録</td></tr><tr><td>6</td><td>脳神経検査実技</td></tr></table>			回数	内容	1	脳神経障害の概要	2	【脳神経検査 1】 嗅（Ⅰ）神経、視（Ⅱ）神経件さが実施できる ・障害部位の見かた ・各種検査方法と結果の記録	3	【脳神経検査 2】 動眼（Ⅲ）神経、滑車（Ⅳ）神経、外転（Ⅵ）神経の各種検査が実施できる・障害部位の見かた ・眼瞼下垂・眼球の異常所見・瞳孔の異常・瞳孔反射の異常 ・瞳孔異常を呈する症候群・眼筋麻痺・共同性眼球運動の麻痺 ・眼振の診断的意義・異常眼球運動と病巣部位 ・各種検査方法と結果の記録	4	【脳神経検査 3】 三叉（Ⅴ）神経検査が実施できる ・障害部位の見かた・三叉神経痛・血管腫 ・検査方法と結果の記録 顔面（Ⅶ）神経 ・中枢性障害と末梢性障害の鑑別・末梢神経障害の見かた ・橋障害による顔面麻痺・その他症候群 ・検査方法と結果の記録	5	【脳神経検査 4】 聴（Ⅷ）神経検査が実施できる ・障害部位の見かた・神経性難聴・めまい・検査方法と結果の記録 舌咽（Ⅸ）神経、迷走（Ⅹ）神経 ・障害部位の見かた・舌咽神経痛・反回神経麻痺・球麻痺 ・検査方法と結果の記録 副（Ⅺ）神経 舌下（Ⅻ）神経 ・障害部位の見かた ・検査方法と結果の記録	6	脳神経検査実技
回数	内容																
1	脳神経障害の概要																
2	【脳神経検査 1】 嗅（Ⅰ）神経、視（Ⅱ）神経件さが実施できる ・障害部位の見かた ・各種検査方法と結果の記録																
3	【脳神経検査 2】 動眼（Ⅲ）神経、滑車（Ⅳ）神経、外転（Ⅵ）神経の各種検査が実施できる・障害部位の見かた ・眼瞼下垂・眼球の異常所見・瞳孔の異常・瞳孔反射の異常 ・瞳孔異常を呈する症候群・眼筋麻痺・共同性眼球運動の麻痺 ・眼振の診断的意義・異常眼球運動と病巣部位 ・各種検査方法と結果の記録																
4	【脳神経検査 3】 三叉（Ⅴ）神経検査が実施できる ・障害部位の見かた・三叉神経痛・血管腫 ・検査方法と結果の記録 顔面（Ⅶ）神経 ・中枢性障害と末梢性障害の鑑別・末梢神経障害の見かた ・橋障害による顔面麻痺・その他症候群 ・検査方法と結果の記録																
5	【脳神経検査 4】 聴（Ⅷ）神経検査が実施できる ・障害部位の見かた・神経性難聴・めまい・検査方法と結果の記録 舌咽（Ⅸ）神経、迷走（Ⅹ）神経 ・障害部位の見かた・舌咽神経痛・反回神経麻痺・球麻痺 ・検査方法と結果の記録 副（Ⅺ）神経 舌下（Ⅻ）神経 ・障害部位の見かた ・検査方法と結果の記録																
6	脳神経検査実技																

授業計画		
	回数	内容
	7	【協調性検査】 協調性障害の概論
	8	運動失調の分類 協調性障害を呈する疾患
	9	協調性検査の実際 運動失調検査・その他の検査
	10	バランス・平衡機能の低下の程度と関連要因 各種検査
	11	協調性検査実施上の注意 各検査の実施と結果の記録
	12	協調性・バランス・平衡機能検査実技
	13	Case Study 1 脳神経障害を呈する疾患の評価、問題点の理解、治療方針、治療プログラム、ケースレポートの作成
	14	Case Study 2 協調性障害を呈する疾患の評価、問題点の理解、治療方針、治療プログラム、ケースレポートの作成
	15	理学療法評価・検査実技まとめ

【専門分野】病態運動学Ⅰ

担当講師	豊田 慎一	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年																																
概 要	痛み（急性痛、慢性疼痛）の定義・概念を理解し、神経生理、病態生理、メカニズム、症候、評価、診断と治療を学び、臨床において急性痛、慢性疼痛に対応できるよう知識の習得を計る。																																		
学習到達目標	急性痛、慢性疼痛について理解する。 検査、評価、診断について理解する。 慢性疼痛の分類、リハビリテーション医療を理解する。																																		
教 科 書	ペインリハビリテーション入門（三輪書店） 機能障害科学入門（神陵文庫）																																		
評価方法	<評価方法と割合> レポート課題 期末試験 <評価基準> 課題 10% 期末試験 90%全体で 60%以上の正答が必要																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>痛みの定義・概念 1（定義、多面性、急性痛と慢性痛）</td></tr><tr><td>2</td><td>痛みの定義・概念 2（分類、概念と痛み行動、痛みの悪循環）</td></tr><tr><td>3</td><td>痛みの神経生理学 1（伝導経路の概要、一次侵害刺激ニューロン、脊髄後角）</td></tr><tr><td>4</td><td>痛みの神経生理学 2（中枢伝導経路、痛みの脳領域、痛みの抑制システム）</td></tr><tr><td>5</td><td>痛みの発生メカニズム 1 （侵害受容性疼痛、神経性炎症、疼痛感作、神経障害性疼痛）</td></tr><tr><td>6</td><td>痛みの発生メカニズム 2 （不活動性疼痛、発生メカニズム、末梢組織・神経系の変化）</td></tr><tr><td>7</td><td>痛みのリハビリテーション評価の考え方 （多面的評価の必要性、評価の要点、評価の具体的項目）</td></tr><tr><td>8</td><td>感覚評価（主観的評価、定量的評価）</td></tr><tr><td>9</td><td>身体機能・活動評価 （疼痛関連・特異的・一般的の身体機能・活動、活動量の評価）</td></tr><tr><td>10</td><td>情動・認知評価（疼痛情動に関する評価、疼痛認知に関する評価） 社会的・QOL 評価</td></tr><tr><td>11</td><td>急性痛に対するリハビリテーション 1（問題点、要点）</td></tr><tr><td>12</td><td>急性痛に対するリハビリテーション 2（物理療法、運動療法）</td></tr><tr><td>13</td><td>慢性疼痛に対するリハビリテーション 1 （問題点、治療アルゴリズム、リハビリテーションの潮流）</td></tr><tr><td>14</td><td>慢性疼痛に対するリハビリテーション 2 （運動療法、EIH、運動処方箋、アドヒアランスとペーシング）</td></tr><tr><td>15</td><td>慢性疼痛に対するリハビリテーション 3 （CBT 理論の基礎と発展、リハビリテーションの考え方と実践方法）</td></tr></table>			回数	内容	1	痛みの定義・概念 1（定義、多面性、急性痛と慢性痛）	2	痛みの定義・概念 2（分類、概念と痛み行動、痛みの悪循環）	3	痛みの神経生理学 1（伝導経路の概要、一次侵害刺激ニューロン、脊髄後角）	4	痛みの神経生理学 2（中枢伝導経路、痛みの脳領域、痛みの抑制システム）	5	痛みの発生メカニズム 1 （侵害受容性疼痛、神経性炎症、疼痛感作、神経障害性疼痛）	6	痛みの発生メカニズム 2 （不活動性疼痛、発生メカニズム、末梢組織・神経系の変化）	7	痛みのリハビリテーション評価の考え方 （多面的評価の必要性、評価の要点、評価の具体的項目）	8	感覚評価（主観的評価、定量的評価）	9	身体機能・活動評価 （疼痛関連・特異的・一般的の身体機能・活動、活動量の評価）	10	情動・認知評価（疼痛情動に関する評価、疼痛認知に関する評価） 社会的・QOL 評価	11	急性痛に対するリハビリテーション 1（問題点、要点）	12	急性痛に対するリハビリテーション 2（物理療法、運動療法）	13	慢性疼痛に対するリハビリテーション 1 （問題点、治療アルゴリズム、リハビリテーションの潮流）	14	慢性疼痛に対するリハビリテーション 2 （運動療法、EIH、運動処方箋、アドヒアランスとペーシング）	15	慢性疼痛に対するリハビリテーション 3 （CBT 理論の基礎と発展、リハビリテーションの考え方と実践方法）
回数	内容																																		
1	痛みの定義・概念 1（定義、多面性、急性痛と慢性痛）																																		
2	痛みの定義・概念 2（分類、概念と痛み行動、痛みの悪循環）																																		
3	痛みの神経生理学 1（伝導経路の概要、一次侵害刺激ニューロン、脊髄後角）																																		
4	痛みの神経生理学 2（中枢伝導経路、痛みの脳領域、痛みの抑制システム）																																		
5	痛みの発生メカニズム 1 （侵害受容性疼痛、神経性炎症、疼痛感作、神経障害性疼痛）																																		
6	痛みの発生メカニズム 2 （不活動性疼痛、発生メカニズム、末梢組織・神経系の変化）																																		
7	痛みのリハビリテーション評価の考え方 （多面的評価の必要性、評価の要点、評価の具体的項目）																																		
8	感覚評価（主観的評価、定量的評価）																																		
9	身体機能・活動評価 （疼痛関連・特異的・一般的の身体機能・活動、活動量の評価）																																		
10	情動・認知評価（疼痛情動に関する評価、疼痛認知に関する評価） 社会的・QOL 評価																																		
11	急性痛に対するリハビリテーション 1（問題点、要点）																																		
12	急性痛に対するリハビリテーション 2（物理療法、運動療法）																																		
13	慢性疼痛に対するリハビリテーション 1 （問題点、治療アルゴリズム、リハビリテーションの潮流）																																		
14	慢性疼痛に対するリハビリテーション 2 （運動療法、EIH、運動処方箋、アドヒアランスとペーシング）																																		
15	慢性疼痛に対するリハビリテーション 3 （CBT 理論の基礎と発展、リハビリテーションの考え方と実践方法）																																		

【専門分野】病態運動学Ⅱ

担当講師	豊田 慎一	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年																																
概 要	機能障害を医学的な知見から理解し、臨床において効果的な実践に向けての医学的根拠について学ぶ。疾病に関係なく理学療法士が実施する種々の機能低下を把握するための知識を修得し学ぶ。																																		
学習到達目標	組織損傷、関節可動域制限・障害、筋力低下、末梢神経障害の病態とそのメカニズムについて、医学的根拠に基づいて説明できる。上記損症の治癒過程を生理学的、解剖学的に説明できる。																																		
教 科 書	機能障害科学入門 （九州神陵文庫）																																		
評価方法	<評価方法と割合> レポート課題 10%、定期試験 90% <評価基準> 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>組織損傷の修復、創傷治癒 1</td></tr><tr><td>2</td><td>組織損傷の修復、創傷治癒 2</td></tr><tr><td>3</td><td>骨格筋損症の病態、組織修復、治癒のメカニズム</td></tr><tr><td>4</td><td>腱損症の病態、組織修復、治癒のメカニズム</td></tr><tr><td>5</td><td>靱帯損症の病態、組織修復、治癒のメカニズム</td></tr><tr><td>6</td><td>骨折の病態、組織修復、治癒のメカニズム</td></tr><tr><td>7</td><td>関節可動域制限の病態</td></tr><tr><td>8</td><td>関節可動域制限のメカニズム</td></tr><tr><td>9</td><td>関節可動域制限の修復過程とメカニズム</td></tr><tr><td>10</td><td>筋力低下（筋萎縮）の病態</td></tr><tr><td>11</td><td>筋力低下（筋萎縮）のメカニズム</td></tr><tr><td>12</td><td>筋力低下（筋萎縮）の回復過程とメカニズム</td></tr><tr><td>13</td><td>末梢神経障害の病態</td></tr><tr><td>14</td><td>末梢神経の障害・損傷メカニズム</td></tr><tr><td>15</td><td>末梢神経障害の回復過程とメカニズム</td></tr></table>			回数	内容	1	組織損傷の修復、創傷治癒 1	2	組織損傷の修復、創傷治癒 2	3	骨格筋損症の病態、組織修復、治癒のメカニズム	4	腱損症の病態、組織修復、治癒のメカニズム	5	靱帯損症の病態、組織修復、治癒のメカニズム	6	骨折の病態、組織修復、治癒のメカニズム	7	関節可動域制限の病態	8	関節可動域制限のメカニズム	9	関節可動域制限の修復過程とメカニズム	10	筋力低下（筋萎縮）の病態	11	筋力低下（筋萎縮）のメカニズム	12	筋力低下（筋萎縮）の回復過程とメカニズム	13	末梢神経障害の病態	14	末梢神経の障害・損傷メカニズム	15	末梢神経障害の回復過程とメカニズム
回数	内容																																		
1	組織損傷の修復、創傷治癒 1																																		
2	組織損傷の修復、創傷治癒 2																																		
3	骨格筋損症の病態、組織修復、治癒のメカニズム																																		
4	腱損症の病態、組織修復、治癒のメカニズム																																		
5	靱帯損症の病態、組織修復、治癒のメカニズム																																		
6	骨折の病態、組織修復、治癒のメカニズム																																		
7	関節可動域制限の病態																																		
8	関節可動域制限のメカニズム																																		
9	関節可動域制限の修復過程とメカニズム																																		
10	筋力低下（筋萎縮）の病態																																		
11	筋力低下（筋萎縮）のメカニズム																																		
12	筋力低下（筋萎縮）の回復過程とメカニズム																																		
13	末梢神経障害の病態																																		
14	末梢神経の障害・損傷メカニズム																																		
15	末梢神経障害の回復過程とメカニズム																																		

【専門分野】運動療法学Ⅰ

担当講師	小島 賢史・宮田 かおり	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年																				
概 要	・ 内部障害理解のために必要な病因・病態や生体反応について学ぶ。 ・ 循環器・呼吸器・代謝疾患・腎疾患、障害の病態、評価・治療法についての理解し、リスク管理および運動処方に基づく理学療法を実践できるようにする。																						
学習到達目標	I 呼吸器疾患障害に対する理学療法について理解する。 ① 低酸素血症および高炭酸ガス血症・酸塩基平衡障害の病因・病態について、および、呼吸器障害（拘束性、閉塞性、混合性）の違いとそれぞれの病因・病態について説明できる。 ② 呼吸器疾患の理学的所見、臨床所見（画像評価も含む）について説明できる。 ③ 呼吸器疾患障害に対する理学療法について説明できる。 II 循環器疾患障害に対する理学療法について理解する。 ① 循環器疾患（心筋梗塞・狭心症）の病因・病態について説明できる。 ② 循環器疾患の理学的所見、臨床所見（異常心電図も含む）について説明できる。 ③ 循環器疾患障害に対する理学療法について説明できる。 III 代謝疾患障害（糖尿病・肥満）に対する理学療法について理解する。 ① 代謝疾患（糖尿病・肥満）の病因・病態について説明できる。 ② 代謝疾患の理学的所見、臨床所見について説明できる。 ③ 代謝疾患障害に対する理学療法について説明できる。 IV 腎疾患障害（慢性腎臓病）に対する理学療法について理解する。 ① 腎疾患（慢性腎臓病）の病因・病態について説明できる。 ② 腎疾患の理学的所見、臨床所見について説明できる。 ③ 腎疾患障害に対する理学療法について説明できる。 V I からIVの障害に対し、レントゲン画像、CT、MRI 画像、超音波画像およびビデオなどの動作解析画像から理学療法実施上の留意点について説明できる。																						
教 科 書	シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト（南江堂）																						
評価方法	＜評価方法と割合＞ 講義最終試験（定期試験）100 点 ＜評価基準＞ 以上の方法で評価し、60 点以上を合格とする。																						
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>呼吸器疾患障害について理解する。</td></tr><tr><td>2</td><td>呼吸器疾患の理学的所見、臨床所見について理解する。</td></tr><tr><td>3</td><td>呼吸器疾患障害に対する検査・測定について理解する。</td></tr><tr><td>4</td><td>呼吸器疾患障害に対する運動処方、リスク管理、喀痰吸引について理解する。</td></tr><tr><td>5</td><td>呼吸器疾患障害に対する理学療法（運動療法）について理解する。</td></tr><tr><td>6</td><td>呼吸器疾患障害に対する理学療法（日常生活活動）について理解する。</td></tr><tr><td>7</td><td>循環器疾患障害について理解する。</td></tr><tr><td>8</td><td>異常心電図、およびその波形から理学療法実施上の留意点について理解する。</td></tr><tr><td>9</td><td>循環器疾患の理学的所見、臨床所見について理解する。 循環器疾患障害に対する検査・測定について理解する。</td></tr></table>			回数	内容	1	呼吸器疾患障害について理解する。	2	呼吸器疾患の理学的所見、臨床所見について理解する。	3	呼吸器疾患障害に対する検査・測定について理解する。	4	呼吸器疾患障害に対する運動処方、リスク管理、喀痰吸引について理解する。	5	呼吸器疾患障害に対する理学療法（運動療法）について理解する。	6	呼吸器疾患障害に対する理学療法（日常生活活動）について理解する。	7	循環器疾患障害について理解する。	8	異常心電図、およびその波形から理学療法実施上の留意点について理解する。	9	循環器疾患の理学的所見、臨床所見について理解する。 循環器疾患障害に対する検査・測定について理解する。
回数	内容																						
1	呼吸器疾患障害について理解する。																						
2	呼吸器疾患の理学的所見、臨床所見について理解する。																						
3	呼吸器疾患障害に対する検査・測定について理解する。																						
4	呼吸器疾患障害に対する運動処方、リスク管理、喀痰吸引について理解する。																						
5	呼吸器疾患障害に対する理学療法（運動療法）について理解する。																						
6	呼吸器疾患障害に対する理学療法（日常生活活動）について理解する。																						
7	循環器疾患障害について理解する。																						
8	異常心電図、およびその波形から理学療法実施上の留意点について理解する。																						
9	循環器疾患の理学的所見、臨床所見について理解する。 循環器疾患障害に対する検査・測定について理解する。																						

授業計画		
	回数	内容
	10	循環器疾患障害に対する運動処方、リスク管理について理解する。
	11	循環器疾患障害に対する理学療法（運動療法、日常生活活動）について理解する。
	12	代謝疾患障害（糖尿病・肥満）について理解する。
	13	代謝疾患障害（糖尿病・肥満）に対する運動処方、リスク管理、理学療法について理解する。
	14	腎疾患障害（慢性腎臓病）について理解する。
	15	腎疾患障害（慢性腎臓病）に対する運動処方、リスク管理、理学療法について理解する。

【専門分野】運動療法学Ⅱ

担当講師	中山 直輝	対象学年	I 部 2 年・Ⅱ部 2 年																																
概 要	脊髄損傷その他中枢疾患、熱傷についてその特徴や理学療法での介入方法について学習する ICU における理学療法での介入方法について学習する																																		
学習到達目標	・ 脊髄損傷について、その疾患の特徴や現象を理解し、各レベルでの介入方法や指導方法を理解する ・ 画像評価（レントゲン、CT、MRI、超音波エコー、動作解析）について、理解し説明することが出来る ・ 急性・慢性疼痛について理解し、運動療法を選択できる																																		
教 科 書	脊髄損傷理学療法マニュアル 第 3 版 （文光堂） 配布資料																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 定期試験 ＜評価基準＞ 定期試験 60%以上の正答にて合格																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>概論 画像所見・脊髄解剖・四肢麻痺と対麻痺</td></tr><tr><td>2</td><td>脊髄損傷に対する理学所見 自律神経障害・損傷レベル</td></tr><tr><td>3</td><td>脊髄損傷に対する理学所見 尿路障害・排尿訓練</td></tr><tr><td>4</td><td>合併症 褥瘡、拘縮、異所性骨化、骨萎縮、脊髄空洞症、呼吸器合併症 脊髄損傷に対する理学所見 神経学的分類基準（ASIA・Zancolli）</td></tr><tr><td>5</td><td>脊髄損傷に対する理学所見 神経学的分類基準（ASIA・Zancoll）</td></tr><tr><td>6</td><td>目標設定・予後予測 障害分類ごとの目標設定、予後予測について</td></tr><tr><td>7</td><td>呼吸理学療法 1 呼吸生理・損傷レベル別呼吸状態</td></tr><tr><td>8</td><td>呼吸理学療法 2 人工呼吸管理・呼吸理学療法</td></tr><tr><td>9</td><td>呼吸理学療法 3 実技 呼吸理学療法（排痰法、呼吸介助手技）</td></tr><tr><td>10</td><td>理学療法 1 脊髄損傷の急性期・回復期理学療法</td></tr><tr><td>11</td><td>運動療法 2 障害に合わせた基本動作ならびに ADL 動作について</td></tr><tr><td>12</td><td>運動療法 3 実技 障害に合わせた基本動作ならびに ADL 動作について</td></tr><tr><td>13</td><td>運動療法 4 実技 障害に合わせた基本動作ならびに ADL 動作について</td></tr><tr><td>14</td><td>ICU における理学療法 1 人工呼吸器について、リスク管理</td></tr><tr><td>15</td><td>ICU における理学療法 2 理学療法について</td></tr></table>			回数	内容	1	概論 画像所見・脊髄解剖・四肢麻痺と対麻痺	2	脊髄損傷に対する理学所見 自律神経障害・損傷レベル	3	脊髄損傷に対する理学所見 尿路障害・排尿訓練	4	合併症 褥瘡、拘縮、異所性骨化、骨萎縮、脊髄空洞症、呼吸器合併症 脊髄損傷に対する理学所見 神経学的分類基準（ASIA・Zancolli）	5	脊髄損傷に対する理学所見 神経学的分類基準（ASIA・Zancoll）	6	目標設定・予後予測 障害分類ごとの目標設定、予後予測について	7	呼吸理学療法 1 呼吸生理・損傷レベル別呼吸状態	8	呼吸理学療法 2 人工呼吸管理・呼吸理学療法	9	呼吸理学療法 3 実技 呼吸理学療法（排痰法、呼吸介助手技）	10	理学療法 1 脊髄損傷の急性期・回復期理学療法	11	運動療法 2 障害に合わせた基本動作ならびに ADL 動作について	12	運動療法 3 実技 障害に合わせた基本動作ならびに ADL 動作について	13	運動療法 4 実技 障害に合わせた基本動作ならびに ADL 動作について	14	ICU における理学療法 1 人工呼吸器について、リスク管理	15	ICU における理学療法 2 理学療法について
回数	内容																																		
1	概論 画像所見・脊髄解剖・四肢麻痺と対麻痺																																		
2	脊髄損傷に対する理学所見 自律神経障害・損傷レベル																																		
3	脊髄損傷に対する理学所見 尿路障害・排尿訓練																																		
4	合併症 褥瘡、拘縮、異所性骨化、骨萎縮、脊髄空洞症、呼吸器合併症 脊髄損傷に対する理学所見 神経学的分類基準（ASIA・Zancolli）																																		
5	脊髄損傷に対する理学所見 神経学的分類基準（ASIA・Zancoll）																																		
6	目標設定・予後予測 障害分類ごとの目標設定、予後予測について																																		
7	呼吸理学療法 1 呼吸生理・損傷レベル別呼吸状態																																		
8	呼吸理学療法 2 人工呼吸管理・呼吸理学療法																																		
9	呼吸理学療法 3 実技 呼吸理学療法（排痰法、呼吸介助手技）																																		
10	理学療法 1 脊髄損傷の急性期・回復期理学療法																																		
11	運動療法 2 障害に合わせた基本動作ならびに ADL 動作について																																		
12	運動療法 3 実技 障害に合わせた基本動作ならびに ADL 動作について																																		
13	運動療法 4 実技 障害に合わせた基本動作ならびに ADL 動作について																																		
14	ICU における理学療法 1 人工呼吸器について、リスク管理																																		
15	ICU における理学療法 2 理学療法について																																		

【専門分野】運動療法学Ⅲ

担当講師	沼倉 功	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年																																
概 要	骨関節系障害に対しての運動療法における理論を学習し、実技を交えて行い、病態に沿った運動療法の理解を進める。理学療法士が実施する種々の機能低下（関節可動域制限や筋力低下の病態を含む）を把握するための検査測定技法を修得し、その結果の解釈について学ぶ。代表的な疾患については、その理学療法経過について理解する。																																		
学習到達目標	画像評価を理解し、理学療法実施上の留意点について説明できる。 （レントゲン画像・CT,MRI 画像・超音波エコー画像・ビデオなどの動作解析画像） 骨関節疾患にかかる理学療法について説明ができる。 急性痛・慢性疼痛を呈する方に対する理学療法について説明できる。																																		
教 科 書	理学療法ハンドブック改訂第 4 版第 3 巻疾患別・理学療法基本プログラム 配布資料																																		
評価方法	<評価方法と割合> 骨関節系に関する国家試験問題の解説資料作成 30% 講義最終試験（定期試験）70% <評価基準> 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>総論・疼痛</td></tr><tr><td>2</td><td>上肢疾患 肩関節周囲炎</td></tr><tr><td>3</td><td>腱板損傷</td></tr><tr><td>4</td><td>上腕骨骨折・上腕骨顆上骨折・上腕骨脱臼骨折</td></tr><tr><td>5</td><td>橈骨遠位端骨折</td></tr><tr><td>6</td><td>脊椎疾患 腰痛・ヘルニア</td></tr><tr><td>7</td><td>後縦靱帯骨化症・脊柱管狭窄症</td></tr><tr><td>8</td><td>下肢疾患 変形性股関節症</td></tr><tr><td>9</td><td>大腿骨頸部骨折</td></tr><tr><td>10</td><td>変形性膝関節症</td></tr><tr><td>11</td><td>靱帯損傷</td></tr><tr><td>12</td><td>リウマチ</td></tr><tr><td>13</td><td>リウマチ</td></tr><tr><td>14</td><td>スポーツ障害</td></tr><tr><td>15</td><td>スポーツ障害</td></tr></table> 講義は教科書・配布資料・スライド等を用いて行います。 実技を行う授業もあります。動きやすい服装の準備をお願いします。			回数	内容	1	総論・疼痛	2	上肢疾患 肩関節周囲炎	3	腱板損傷	4	上腕骨骨折・上腕骨顆上骨折・上腕骨脱臼骨折	5	橈骨遠位端骨折	6	脊椎疾患 腰痛・ヘルニア	7	後縦靱帯骨化症・脊柱管狭窄症	8	下肢疾患 変形性股関節症	9	大腿骨頸部骨折	10	変形性膝関節症	11	靱帯損傷	12	リウマチ	13	リウマチ	14	スポーツ障害	15	スポーツ障害
回数	内容																																		
1	総論・疼痛																																		
2	上肢疾患 肩関節周囲炎																																		
3	腱板損傷																																		
4	上腕骨骨折・上腕骨顆上骨折・上腕骨脱臼骨折																																		
5	橈骨遠位端骨折																																		
6	脊椎疾患 腰痛・ヘルニア																																		
7	後縦靱帯骨化症・脊柱管狭窄症																																		
8	下肢疾患 変形性股関節症																																		
9	大腿骨頸部骨折																																		
10	変形性膝関節症																																		
11	靱帯損傷																																		
12	リウマチ																																		
13	リウマチ																																		
14	スポーツ障害																																		
15	スポーツ障害																																		

【専門分野】運動療法学Ⅳ

担当講師	長岡 正和・本保 真	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年																																
概 要	中枢神経障害および末梢神経障害の病態を理解した上で、一次性機能障害である運動機能障害の治療について学ぶ。																																		
学習到達目標	・脳卒中後片麻痺患者に対する理学療法を理解する。 ・パーキンソン病患者に対する理学療法を理解する。 ・運動失調に対する理学療法を理解する。 ・多発性硬化症患者に対する理学療法を理解する。 ・筋萎縮性側索硬化症患者に対する理学療法を理解する。 ・評価する上で必要な画像情報の見方を理解する。																																		
教 科 書	神経障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ第2版 中山書店 理学療法ハンドブック第3巻																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 定期試験 100% ＜評価基準＞ 60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>オリエンテーション 中枢性運動麻痺の回復モデルと回復の背景の理解と治療介入の根拠</td></tr><tr><td>2</td><td>脳卒中片麻痺患者に対する理学療法① 基本的トレーニングと課題特異的トレーニングについて</td></tr><tr><td>3</td><td>脳卒中片麻痺患者に対する理学療法② 装具療法、機能的電気刺激、電気刺激療法など</td></tr><tr><td>4</td><td>脳卒中片麻痺患者に対する理学療法③ 合併症について</td></tr><tr><td>5</td><td>脳卒中片麻痺患者に対する急性期の介入</td></tr><tr><td>6</td><td>脳卒中片麻痺患者に対する回復期の介入</td></tr><tr><td>7</td><td>脳卒中片麻痺患者に対する急性期・回復期における理学療法の実際</td></tr><tr><td>8</td><td>パーキンソン病の病態</td></tr><tr><td>9</td><td>パーキンソン病患者に対する理学療法とその実際</td></tr><tr><td>10</td><td>運動失調に対する理学療法とその実際</td></tr><tr><td>11</td><td>多発性硬化症の病態</td></tr><tr><td>12</td><td>多発性硬化症患者に対する理学療法とその実際</td></tr><tr><td>13</td><td>筋萎縮性側索硬化症の病態</td></tr><tr><td>14</td><td>筋萎縮性側索硬化症に対する理学療法とその実際</td></tr><tr><td>15</td><td>脳損傷患者を評価する上で必要な画像情報の見方</td></tr></table>			回数	内容	1	オリエンテーション 中枢性運動麻痺の回復モデルと回復の背景の理解と治療介入の根拠	2	脳卒中片麻痺患者に対する理学療法① 基本的トレーニングと課題特異的トレーニングについて	3	脳卒中片麻痺患者に対する理学療法② 装具療法、機能的電気刺激、電気刺激療法など	4	脳卒中片麻痺患者に対する理学療法③ 合併症について	5	脳卒中片麻痺患者に対する急性期の介入	6	脳卒中片麻痺患者に対する回復期の介入	7	脳卒中片麻痺患者に対する急性期・回復期における理学療法の実際	8	パーキンソン病の病態	9	パーキンソン病患者に対する理学療法とその実際	10	運動失調に対する理学療法とその実際	11	多発性硬化症の病態	12	多発性硬化症患者に対する理学療法とその実際	13	筋萎縮性側索硬化症の病態	14	筋萎縮性側索硬化症に対する理学療法とその実際	15	脳損傷患者を評価する上で必要な画像情報の見方
回数	内容																																		
1	オリエンテーション 中枢性運動麻痺の回復モデルと回復の背景の理解と治療介入の根拠																																		
2	脳卒中片麻痺患者に対する理学療法① 基本的トレーニングと課題特異的トレーニングについて																																		
3	脳卒中片麻痺患者に対する理学療法② 装具療法、機能的電気刺激、電気刺激療法など																																		
4	脳卒中片麻痺患者に対する理学療法③ 合併症について																																		
5	脳卒中片麻痺患者に対する急性期の介入																																		
6	脳卒中片麻痺患者に対する回復期の介入																																		
7	脳卒中片麻痺患者に対する急性期・回復期における理学療法の実際																																		
8	パーキンソン病の病態																																		
9	パーキンソン病患者に対する理学療法とその実際																																		
10	運動失調に対する理学療法とその実際																																		
11	多発性硬化症の病態																																		
12	多発性硬化症患者に対する理学療法とその実際																																		
13	筋萎縮性側索硬化症の病態																																		
14	筋萎縮性側索硬化症に対する理学療法とその実際																																		
15	脳損傷患者を評価する上で必要な画像情報の見方																																		

【専門分野】運動療法学Ⅴ

担当講師	三宅　わか子	対象学年	I 部 2 年・Ⅱ部 2 年																																
概　　要	小児の発達支援が必要な疾患の原因、全体像、評価について学び、具体的な事例をもとに理学療法及びその他の介入について提示する。また小児期から老人期までのウイメンズ・メンズヘルスにおける理学療法の理解を深める。																																		
学習到達目標	代表的疾患の脳性麻痺、運動発達遅滞、骨関節疾患、染色体異常、先天性神経筋疾患、発達性協調運動障害、広汎性発達障害など発達にかかる理学療法について理解し説明できる。脳の CT、MRI 画像やその他必要なレントゲン画像、超音波エコー、動作解析画像、筋電図などの画像による評価についても代表的な病態像を読み取ることが出来るようにする。ウイメンズ・メンズヘルスにおける理学療法の役割と実際について説明できる。代表的な精神疾患、疾病予防に対する理学療法について説明できる。																																		
教　科　書	理学療法学テキスト　小児理学療法学　（MEDICALVIEW） 配布資料																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 規定回数の 2/3 以上の授業参加と定期試験 100％ ＜評価基準＞ 60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>運動発達の特徴と評価・介入、小児理学療法のパラダイムシフト</td></tr><tr><td>2</td><td>上肢機能・摂食・反射と姿勢反応、社会性の発達</td></tr><tr><td>3</td><td>脳性麻痺の概略 定義、分離、発生率、原因、合併症、整形外科的問題、経過 理学療法、補装具と補助具、ホームプログラム、予後予測</td></tr><tr><td>4</td><td>脳性麻痺の評価と治療 心身機能/身体構造レベル、活動・参加レベルの評価</td></tr><tr><td>5</td><td>脳性麻痺の評価と治療 心身機能/身体構造レベル、活動・参加レベルの評価</td></tr><tr><td>6</td><td>低出生体重児・ハイリスク児の評価と治療</td></tr><tr><td>7</td><td>重症心身障害児の評価と治療 ポジショニング、呼吸障害、摂食嚥下障害、コミュニケーション、 座位保持装置</td></tr><tr><td>8</td><td>染色体異常の代表的な疾患の概要と介入</td></tr><tr><td>9</td><td>小児整形外科疾患の概要と介入</td></tr><tr><td>10</td><td>発達障害の範囲と特徴、介入</td></tr><tr><td>11</td><td>小児の理学療法各種理学療法の実技</td></tr><tr><td>12</td><td>ウィメンズ・メンズヘルスの基礎知識、年代別の特徴と障害（概論） 代表的疾患と理学療法、</td></tr><tr><td>13</td><td>精神科で勤務する理学療法士に必要な精神科病院・病棟に関する知識の習得、 身体合併症のある精神疾患患者への理学療法の提供</td></tr><tr><td>14</td><td>統合失調症、気分障害、ストレス関連障害の理学療法</td></tr><tr><td>15</td><td>予防に関する理学療法</td></tr></table>			回数	内容	1	運動発達の特徴と評価・介入、小児理学療法のパラダイムシフト	2	上肢機能・摂食・反射と姿勢反応、社会性の発達	3	脳性麻痺の概略 定義、分離、発生率、原因、合併症、整形外科的問題、経過 理学療法、補装具と補助具、ホームプログラム、予後予測	4	脳性麻痺の評価と治療 心身機能/身体構造レベル、活動・参加レベルの評価	5	脳性麻痺の評価と治療 心身機能/身体構造レベル、活動・参加レベルの評価	6	低出生体重児・ハイリスク児の評価と治療	7	重症心身障害児の評価と治療 ポジショニング、呼吸障害、摂食嚥下障害、コミュニケーション、 座位保持装置	8	染色体異常の代表的な疾患の概要と介入	9	小児整形外科疾患の概要と介入	10	発達障害の範囲と特徴、介入	11	小児の理学療法各種理学療法の実技	12	ウィメンズ・メンズヘルスの基礎知識、年代別の特徴と障害（概論） 代表的疾患と理学療法、	13	精神科で勤務する理学療法士に必要な精神科病院・病棟に関する知識の習得、 身体合併症のある精神疾患患者への理学療法の提供	14	統合失調症、気分障害、ストレス関連障害の理学療法	15	予防に関する理学療法
回数	内容																																		
1	運動発達の特徴と評価・介入、小児理学療法のパラダイムシフト																																		
2	上肢機能・摂食・反射と姿勢反応、社会性の発達																																		
3	脳性麻痺の概略 定義、分離、発生率、原因、合併症、整形外科的問題、経過 理学療法、補装具と補助具、ホームプログラム、予後予測																																		
4	脳性麻痺の評価と治療 心身機能/身体構造レベル、活動・参加レベルの評価																																		
5	脳性麻痺の評価と治療 心身機能/身体構造レベル、活動・参加レベルの評価																																		
6	低出生体重児・ハイリスク児の評価と治療																																		
7	重症心身障害児の評価と治療 ポジショニング、呼吸障害、摂食嚥下障害、コミュニケーション、 座位保持装置																																		
8	染色体異常の代表的な疾患の概要と介入																																		
9	小児整形外科疾患の概要と介入																																		
10	発達障害の範囲と特徴、介入																																		
11	小児の理学療法各種理学療法の実技																																		
12	ウィメンズ・メンズヘルスの基礎知識、年代別の特徴と障害（概論） 代表的疾患と理学療法、																																		
13	精神科で勤務する理学療法士に必要な精神科病院・病棟に関する知識の習得、 身体合併症のある精神疾患患者への理学療法の提供																																		
14	統合失調症、気分障害、ストレス関連障害の理学療法																																		
15	予防に関する理学療法																																		

【専門分野】運動療法学Ⅵ

担当講師	水上 志帆	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年																																
概 要	皮膚障害、悪性腫瘍、その他の障害においてその特徴を理解し、理学療法での介入方法・リスク管理について学習する。																																		
学習到達目標	I.皮膚障害として褥瘡・熱傷に対する理学療法について説明できる。 II.がんのリハビリテーションにおける理学療法士の役割、理学療法について説明できる。また、リンパ浮腫に対する理学療法について説明できる。 III.その他の障害として、①視覚障害を合併する歩行・生活指導における理学療法、②前庭性めまいに対する理学療法、③摂食嚥下障害に対する理学療法、④排泄（排尿・排便）障害に対する理学療法、⑤産科・婦人科領域の機能障害に対する理学療法について説明できる。 IV.Ⅰ～Ⅲの画像評価を理解し、理学療法実施上の留意点について説明できる。 （レントゲン画像・CT,MRI 画像・超音波エコー画像・ビデオなどの動作解析画像）																																		
教 科 書	理学療法ハンドブック改訂第 4 版第 3 巻疾患別・理学療法基本プログラム・配布資料																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 講義最終試験（定期試験）100 点 ＜評価基準＞ 以上で評価し、60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>I.皮膚障害として：褥瘡の理学療法 臨床所見,褥瘡の管理,重症度の分類について理解する</td></tr><tr><td>2</td><td>I.皮膚障害として：褥瘡の理学療法 リスク管理,理学療法,ADL 指導について理解する。</td></tr><tr><td>3</td><td>I.皮膚障害として：熱傷の理学療法 臨床所見,熱傷管理,重症度の分類について理解する理解する。</td></tr><tr><td>4</td><td>I.皮膚障害として：熱傷の理学療法 リスク管理,理学療法について理解する。</td></tr><tr><td>5</td><td>II. がんのリハビリテーションとして 悪性腫瘍、がんリハビリテーションについて理解する。</td></tr><tr><td>6</td><td>II. がんのリハビリテーションとして リスク管理,理学療法,ADL 指導について理解する。</td></tr><tr><td>7</td><td>II. がんのリハビリテーションとして 終末期ケアと疼痛対策について理解する。</td></tr><tr><td>8</td><td>II. がんのリハビリテーションとして 患者教育、各種疼痛に対する対処法の理解する。</td></tr><tr><td>9</td><td>III.その他の障害として：視覚障害を合併する患者への理学療法 歩行・生活指導における理学療法について理解する。</td></tr><tr><td>10</td><td>III.その他の障害として：前庭性めまいに対する理学療法 前庭性めまいについて,臨床所見,理学療法について理解する。</td></tr><tr><td>11</td><td>III.その他の障害として：摂食障害に対する理学療法 摂食障害について,理学療法,ADL 指導について理解する。</td></tr><tr><td>12</td><td>III.その他の障害として：排泄(排尿・排便)障害に対する理学療法 排泄の機能,排泄障害について理解する。</td></tr><tr><td>13</td><td>III.その他の障害として：排泄(排尿・排便)障害に対する理学療法 リスク管理,理学療法について理解する。</td></tr><tr><td>14</td><td>III.その他の障害として：産科・婦人科領域の機能障害に対する理学療法 産科・婦人科領域の機能障害について理解する。</td></tr><tr><td>15</td><td>III.その他の障害として：産科・婦人科領域の機能障害に対する理学療法 リスク管理,理学療法,ADL 指導について理解する。</td></tr></table>			回数	内容	1	I.皮膚障害として：褥瘡の理学療法 臨床所見,褥瘡の管理,重症度の分類について理解する	2	I.皮膚障害として：褥瘡の理学療法 リスク管理,理学療法,ADL 指導について理解する。	3	I.皮膚障害として：熱傷の理学療法 臨床所見,熱傷管理,重症度の分類について理解する理解する。	4	I.皮膚障害として：熱傷の理学療法 リスク管理,理学療法について理解する。	5	II. がんのリハビリテーションとして 悪性腫瘍、がんリハビリテーションについて理解する。	6	II. がんのリハビリテーションとして リスク管理,理学療法,ADL 指導について理解する。	7	II. がんのリハビリテーションとして 終末期ケアと疼痛対策について理解する。	8	II. がんのリハビリテーションとして 患者教育、各種疼痛に対する対処法の理解する。	9	III.その他の障害として：視覚障害を合併する患者への理学療法 歩行・生活指導における理学療法について理解する。	10	III.その他の障害として：前庭性めまいに対する理学療法 前庭性めまいについて,臨床所見,理学療法について理解する。	11	III.その他の障害として：摂食障害に対する理学療法 摂食障害について,理学療法,ADL 指導について理解する。	12	III.その他の障害として：排泄(排尿・排便)障害に対する理学療法 排泄の機能,排泄障害について理解する。	13	III.その他の障害として：排泄(排尿・排便)障害に対する理学療法 リスク管理,理学療法について理解する。	14	III.その他の障害として：産科・婦人科領域の機能障害に対する理学療法 産科・婦人科領域の機能障害について理解する。	15	III.その他の障害として：産科・婦人科領域の機能障害に対する理学療法 リスク管理,理学療法,ADL 指導について理解する。
回数	内容																																		
1	I.皮膚障害として：褥瘡の理学療法 臨床所見,褥瘡の管理,重症度の分類について理解する																																		
2	I.皮膚障害として：褥瘡の理学療法 リスク管理,理学療法,ADL 指導について理解する。																																		
3	I.皮膚障害として：熱傷の理学療法 臨床所見,熱傷管理,重症度の分類について理解する理解する。																																		
4	I.皮膚障害として：熱傷の理学療法 リスク管理,理学療法について理解する。																																		
5	II. がんのリハビリテーションとして 悪性腫瘍、がんリハビリテーションについて理解する。																																		
6	II. がんのリハビリテーションとして リスク管理,理学療法,ADL 指導について理解する。																																		
7	II. がんのリハビリテーションとして 終末期ケアと疼痛対策について理解する。																																		
8	II. がんのリハビリテーションとして 患者教育、各種疼痛に対する対処法の理解する。																																		
9	III.その他の障害として：視覚障害を合併する患者への理学療法 歩行・生活指導における理学療法について理解する。																																		
10	III.その他の障害として：前庭性めまいに対する理学療法 前庭性めまいについて,臨床所見,理学療法について理解する。																																		
11	III.その他の障害として：摂食障害に対する理学療法 摂食障害について,理学療法,ADL 指導について理解する。																																		
12	III.その他の障害として：排泄(排尿・排便)障害に対する理学療法 排泄の機能,排泄障害について理解する。																																		
13	III.その他の障害として：排泄(排尿・排便)障害に対する理学療法 リスク管理,理学療法について理解する。																																		
14	III.その他の障害として：産科・婦人科領域の機能障害に対する理学療法 産科・婦人科領域の機能障害について理解する。																																		
15	III.その他の障害として：産科・婦人科領域の機能障害に対する理学療法 リスク管理,理学療法,ADL 指導について理解する。																																		

【専門分野】物理療法学Ⅰ

担当講師	小島 賢史	対象学年	I 部 1 年・Ⅱ部 1 年																																
概 要	リハビリテーションにおける、各種物理療法の物理特性を理解したうえで、正しい設定方法、注意点、禁忌を踏まえ実際に施行できるよう実践能力を習得する。																																		
学習到達目標	各種物理療法の特性を理解し、目的別に実際に使用できるだけの知識（適応、禁忌、注意事項、実施方法）を習得し実践できる。																																		
教 科 書	理学療法学テキストⅨ 物理療法 第 2 版 （神稜文庫）																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 実技課題レポート 定期試験 ＜評価基準＞ 実技課題レポート合格の後、定期試験 60%以上の正答にて合格																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>概論 物理療法とは（歴史、種類、原理）</td></tr><tr><td>2</td><td>温熱療法 温熱療法の種類</td></tr><tr><td>3</td><td>温熱療法 熱物理学、電磁波の特性</td></tr><tr><td>4</td><td>温熱療法 生理学的作用、治療目的、適応症状、禁忌と注意事項</td></tr><tr><td>5</td><td>寒冷療法 寒冷療法の種類、生理学的作用、治療目的、適応症状、禁忌と注意事項</td></tr><tr><td>6</td><td>光線療法 光線療法の種類、光の特性</td></tr><tr><td>7</td><td>光線療法 生理学的作用、治療目的、適応症状、禁忌と注意事項</td></tr><tr><td>8</td><td>電気刺激療法 電気刺激療法の種類、電気の特性</td></tr><tr><td>9</td><td>電気刺激療法 生理学的作用、治療目的、適応症状、禁忌と注意事項</td></tr><tr><td>10</td><td>超音波療法 超音波とは、超音波特性</td></tr><tr><td>11</td><td>超音波療法 生理学的作用、治療目的、適応症状、禁忌と注意事項</td></tr><tr><td>12</td><td>実技 1（グループ課題：施行前後における生理的反応の計測） 各種温熱療法、寒冷療法の設定方法、使用方法、注意事項 1</td></tr><tr><td>13</td><td>実技 2（グループ課題：施行前後における生理的反応の計測） 各種温熱療法、寒冷療法の設定方法、使用方法、注意事項 2</td></tr><tr><td>14</td><td>実技 3（グループ課題：施行前後における生理的反応の計測） 各種光線療法、超音波の設定方法、使用方法、注意事項</td></tr><tr><td>15</td><td>実技 4（グループ課題：施行前後における生理的反応の計測） 各種電気刺激療法の設定方法、使用方法、注意事項</td></tr></table>			回数	内容	1	概論 物理療法とは（歴史、種類、原理）	2	温熱療法 温熱療法の種類	3	温熱療法 熱物理学、電磁波の特性	4	温熱療法 生理学的作用、治療目的、適応症状、禁忌と注意事項	5	寒冷療法 寒冷療法の種類、生理学的作用、治療目的、適応症状、禁忌と注意事項	6	光線療法 光線療法の種類、光の特性	7	光線療法 生理学的作用、治療目的、適応症状、禁忌と注意事項	8	電気刺激療法 電気刺激療法の種類、電気の特性	9	電気刺激療法 生理学的作用、治療目的、適応症状、禁忌と注意事項	10	超音波療法 超音波とは、超音波特性	11	超音波療法 生理学的作用、治療目的、適応症状、禁忌と注意事項	12	実技 1（グループ課題：施行前後における生理的反応の計測） 各種温熱療法、寒冷療法の設定方法、使用方法、注意事項 1	13	実技 2（グループ課題：施行前後における生理的反応の計測） 各種温熱療法、寒冷療法の設定方法、使用方法、注意事項 2	14	実技 3（グループ課題：施行前後における生理的反応の計測） 各種光線療法、超音波の設定方法、使用方法、注意事項	15	実技 4（グループ課題：施行前後における生理的反応の計測） 各種電気刺激療法の設定方法、使用方法、注意事項
回数	内容																																		
1	概論 物理療法とは（歴史、種類、原理）																																		
2	温熱療法 温熱療法の種類																																		
3	温熱療法 熱物理学、電磁波の特性																																		
4	温熱療法 生理学的作用、治療目的、適応症状、禁忌と注意事項																																		
5	寒冷療法 寒冷療法の種類、生理学的作用、治療目的、適応症状、禁忌と注意事項																																		
6	光線療法 光線療法の種類、光の特性																																		
7	光線療法 生理学的作用、治療目的、適応症状、禁忌と注意事項																																		
8	電気刺激療法 電気刺激療法の種類、電気の特性																																		
9	電気刺激療法 生理学的作用、治療目的、適応症状、禁忌と注意事項																																		
10	超音波療法 超音波とは、超音波特性																																		
11	超音波療法 生理学的作用、治療目的、適応症状、禁忌と注意事項																																		
12	実技 1（グループ課題：施行前後における生理的反応の計測） 各種温熱療法、寒冷療法の設定方法、使用方法、注意事項 1																																		
13	実技 2（グループ課題：施行前後における生理的反応の計測） 各種温熱療法、寒冷療法の設定方法、使用方法、注意事項 2																																		
14	実技 3（グループ課題：施行前後における生理的反応の計測） 各種光線療法、超音波の設定方法、使用方法、注意事項																																		
15	実技 4（グループ課題：施行前後における生理的反応の計測） 各種電気刺激療法の設定方法、使用方法、注意事項																																		

【専門分野】物理療法学Ⅱ

担当講師	保村 豊	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年																																
概 要	医療者として物理療法（牽引療法、水治療法、マッサージ療法）の知識・理論を理解し、また実際に安全かつ効果的に行う技術・手順について習得する																																		
学習到達目標	①物理療法の方法・種類について説明できる ②物理療法（牽引療法、水治療法、マッサージ療法）の適応について説明できる ③物理療法（牽引療法、水治療法、マッサージ療法）の禁忌について説明できる ④物理療法（牽引療法、水治療法、マッサージ療法）を実際に行う手順を説明できる ⑤物理療法（牽引療法、水治療法、マッサージ療法）を実際に行うことができる																																		
教 科 書	「物理療法」（神陵文庫）、配布資料																																		
評価方法	<評価方法と割合> 筆記試験（60%）、実技（小テスト）試験（20%）、レポート（10%）、講義出席率（10%） <評価基準> 前述の評価方法・割合の総合点にて評価。6割以上にて合格とする																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>牽引療法の治療効果と方法 牽引療法の適応と禁忌について</td></tr><tr><td>2</td><td>牽引療法の実際と小テスト</td></tr><tr><td>3</td><td>水治療法の治療効果と方法 水治療法の適応と禁忌について</td></tr><tr><td>4</td><td>水治療法の実際と小テスト</td></tr><tr><td>5</td><td>マッサージ療法治療効果と方法 マッサージ療法の適応と禁忌について</td></tr><tr><td>6</td><td>マッサージ療法の実際 部位別マッサージ（頸部・肩部）の手技について</td></tr><tr><td>7</td><td>部位別マッサージ（背部・腰部）の手技について 部位別マッサージ（上肢・下肢・他）の手技について</td></tr><tr><td>8</td><td>部位別マッサージのまとめと小テスト</td></tr><tr><td>9</td><td>関節別マッサージ（肩関節・肘関節・手関節）の手技について</td></tr><tr><td>10</td><td>関節別マッサージ（膝関節・足関節・他）の手技について</td></tr><tr><td>11</td><td>関節別マッサージのまとめと小テスト</td></tr><tr><td>12</td><td>疾患別マッサージ（中枢神経疾患等）の手技につい</td></tr><tr><td>13</td><td>疾患別マッサージ（整形外科疾患・他）の手技について</td></tr><tr><td>14</td><td>疾患別マッサージのまとめと小テスト</td></tr><tr><td>15</td><td>物理療法（牽引療法、水治療法、マッサージ療法）のまとめと確認</td></tr></table>			回数	内容	1	牽引療法の治療効果と方法 牽引療法の適応と禁忌について	2	牽引療法の実際と小テスト	3	水治療法の治療効果と方法 水治療法の適応と禁忌について	4	水治療法の実際と小テスト	5	マッサージ療法治療効果と方法 マッサージ療法の適応と禁忌について	6	マッサージ療法の実際 部位別マッサージ（頸部・肩部）の手技について	7	部位別マッサージ（背部・腰部）の手技について 部位別マッサージ（上肢・下肢・他）の手技について	8	部位別マッサージのまとめと小テスト	9	関節別マッサージ（肩関節・肘関節・手関節）の手技について	10	関節別マッサージ（膝関節・足関節・他）の手技について	11	関節別マッサージのまとめと小テスト	12	疾患別マッサージ（中枢神経疾患等）の手技につい	13	疾患別マッサージ（整形外科疾患・他）の手技について	14	疾患別マッサージのまとめと小テスト	15	物理療法（牽引療法、水治療法、マッサージ療法）のまとめと確認
回数	内容																																		
1	牽引療法の治療効果と方法 牽引療法の適応と禁忌について																																		
2	牽引療法の実際と小テスト																																		
3	水治療法の治療効果と方法 水治療法の適応と禁忌について																																		
4	水治療法の実際と小テスト																																		
5	マッサージ療法治療効果と方法 マッサージ療法の適応と禁忌について																																		
6	マッサージ療法の実際 部位別マッサージ（頸部・肩部）の手技について																																		
7	部位別マッサージ（背部・腰部）の手技について 部位別マッサージ（上肢・下肢・他）の手技について																																		
8	部位別マッサージのまとめと小テスト																																		
9	関節別マッサージ（肩関節・肘関節・手関節）の手技について																																		
10	関節別マッサージ（膝関節・足関節・他）の手技について																																		
11	関節別マッサージのまとめと小テスト																																		
12	疾患別マッサージ（中枢神経疾患等）の手技につい																																		
13	疾患別マッサージ（整形外科疾患・他）の手技について																																		
14	疾患別マッサージのまとめと小テスト																																		
15	物理療法（牽引療法、水治療法、マッサージ療法）のまとめと確認																																		

【専門分野】義肢学

担当講師	坂口 勇人	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年																																
概 要	切断の現状・病理等と処方される義肢、特に義足についての構造・機能および理学療法の概要について解説する。																																		
学習到達目標	①切断の社会的病理を理解する。 ②義肢の種類および構造を説明できる ③義肢の適応について説明できる ④義肢の適合性の確認について説明できる ⑤義肢のアライメント調整ができる ⑥切断特有の評価（検査・測定項目とその解釈）を理解する ⑦理学療法の過程を理解する																																		
教 科 書	シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト 改訂第 3 版（南江堂） 下肢切断の理学療法（医歯薬出版）																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 定期試験 90% 講義出席率および受講態度 10% ＜評価基準＞ 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>切断の概要① 発生・原因等</td></tr><tr><td>2</td><td>切断の概要② 切断術等</td></tr><tr><td>3</td><td>義肢の概要</td></tr><tr><td>4</td><td>大腿義足① ソケットの変遷と適応</td></tr><tr><td>5</td><td>大腿義足② 構造の理解</td></tr><tr><td>6</td><td>大腿義足③ アライメント</td></tr><tr><td>7</td><td>股義足① 構造と特徴</td></tr><tr><td>8</td><td>股義足② アライメント</td></tr><tr><td>9</td><td>膝離断用・サイム切断用および足部義足</td></tr><tr><td>10</td><td>下腿義足① ソケットの変遷と適応</td></tr><tr><td>11</td><td>下腿義足②：構造の理解</td></tr><tr><td>12</td><td>下腿義足③ アライメント</td></tr><tr><td>13</td><td>切断の評価① 切断端の検査・測定</td></tr><tr><td>14</td><td>切断の評価② 切断端および全身の検査・測定</td></tr><tr><td>15</td><td>理学療法プログラム</td></tr></table>			回数	内容	1	切断の概要① 発生・原因等	2	切断の概要② 切断術等	3	義肢の概要	4	大腿義足① ソケットの変遷と適応	5	大腿義足② 構造の理解	6	大腿義足③ アライメント	7	股義足① 構造と特徴	8	股義足② アライメント	9	膝離断用・サイム切断用および足部義足	10	下腿義足① ソケットの変遷と適応	11	下腿義足②：構造の理解	12	下腿義足③ アライメント	13	切断の評価① 切断端の検査・測定	14	切断の評価② 切断端および全身の検査・測定	15	理学療法プログラム
回数	内容																																		
1	切断の概要① 発生・原因等																																		
2	切断の概要② 切断術等																																		
3	義肢の概要																																		
4	大腿義足① ソケットの変遷と適応																																		
5	大腿義足② 構造の理解																																		
6	大腿義足③ アライメント																																		
7	股義足① 構造と特徴																																		
8	股義足② アライメント																																		
9	膝離断用・サイム切断用および足部義足																																		
10	下腿義足① ソケットの変遷と適応																																		
11	下腿義足②：構造の理解																																		
12	下腿義足③ アライメント																																		
13	切断の評価① 切断端の検査・測定																																		
14	切断の評価② 切断端および全身の検査・測定																																		
15	理学療法プログラム																																		

【専門分野】 装具学

担当講師	中川 仁	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年																																
概 要	安全かつ効果的な理学療法が提供できるように、疾患・障害に関係なく適用される基本的な技術について、装具のメカニカルな基盤を学習したうえで、各種装具の構造・機能を理解し、疾患や障害の特性を踏まえたうえで装具処方の考え方の基礎を学内実習・演習を通して構築する。																																		
学習到達目標	・装具療法に必要な周辺学問を理解する。 ・装具の目的や役割を理解する。 ・各種装具の構造・機能・適応を理解する。 ・各種装具と病態や疾患との結びつきを理解する。																																		
教 科 書	シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト 改訂第 3 版 （南江堂）																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 小テスト 20%、定期試験 80%、授業姿勢 ＜評価基準＞ 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>装具の目的と機能、役割、限界を学習する。 装具を理解するための運動学を短下肢装具を例に学習する。</td></tr><tr><td>2</td><td>各種長下肢装具の特徴と適応疾患について学習する。</td></tr><tr><td>3</td><td>長下肢装具のチェックアウトと適合性について、実際に装具を装着して実習する。</td></tr><tr><td>4</td><td>各種短下肢装具の特徴と適応疾患について学習する。</td></tr><tr><td>5</td><td>短下肢装具のチェックアウトと適合性、アライメントについて、実際に装具を装着して実習する。</td></tr><tr><td>6</td><td>各種靴型装具の特徴と適応疾患について学習する。</td></tr><tr><td>7</td><td>靴型装具を実際に装着してアライメントについて学習する。 装具歩行の特徴について学習する。</td></tr><tr><td>8</td><td>上肢の末梢神経障害と上肢装具について学習する。 各種上肢装具の特徴と適応疾患について学習する。</td></tr><tr><td>9</td><td>上肢装具のチェックアウトと適合性について、実際に装具を装着して実習する。</td></tr><tr><td>10</td><td>各種体幹装具の特徴と適応疾患について学習する。</td></tr><tr><td>11</td><td>体幹装具のチェックアウトと適合性について、実際に装具を装着して実習する。</td></tr><tr><td>12</td><td>代表的な疾患に用いる各種装具を学習する（1）。</td></tr><tr><td>13</td><td>代表的な疾患に用いる各種装具を学習する（2）。</td></tr><tr><td>14</td><td>スプリント作成実習（1）</td></tr><tr><td>15</td><td>スプリント作成実習（2）</td></tr></table>			回数	内容	1	装具の目的と機能、役割、限界を学習する。 装具を理解するための運動学を短下肢装具を例に学習する。	2	各種長下肢装具の特徴と適応疾患について学習する。	3	長下肢装具のチェックアウトと適合性について、実際に装具を装着して実習する。	4	各種短下肢装具の特徴と適応疾患について学習する。	5	短下肢装具のチェックアウトと適合性、アライメントについて、実際に装具を装着して実習する。	6	各種靴型装具の特徴と適応疾患について学習する。	7	靴型装具を実際に装着してアライメントについて学習する。 装具歩行の特徴について学習する。	8	上肢の末梢神経障害と上肢装具について学習する。 各種上肢装具の特徴と適応疾患について学習する。	9	上肢装具のチェックアウトと適合性について、実際に装具を装着して実習する。	10	各種体幹装具の特徴と適応疾患について学習する。	11	体幹装具のチェックアウトと適合性について、実際に装具を装着して実習する。	12	代表的な疾患に用いる各種装具を学習する（1）。	13	代表的な疾患に用いる各種装具を学習する（2）。	14	スプリント作成実習（1）	15	スプリント作成実習（2）
回数	内容																																		
1	装具の目的と機能、役割、限界を学習する。 装具を理解するための運動学を短下肢装具を例に学習する。																																		
2	各種長下肢装具の特徴と適応疾患について学習する。																																		
3	長下肢装具のチェックアウトと適合性について、実際に装具を装着して実習する。																																		
4	各種短下肢装具の特徴と適応疾患について学習する。																																		
5	短下肢装具のチェックアウトと適合性、アライメントについて、実際に装具を装着して実習する。																																		
6	各種靴型装具の特徴と適応疾患について学習する。																																		
7	靴型装具を実際に装着してアライメントについて学習する。 装具歩行の特徴について学習する。																																		
8	上肢の末梢神経障害と上肢装具について学習する。 各種上肢装具の特徴と適応疾患について学習する。																																		
9	上肢装具のチェックアウトと適合性について、実際に装具を装着して実習する。																																		
10	各種体幹装具の特徴と適応疾患について学習する。																																		
11	体幹装具のチェックアウトと適合性について、実際に装具を装着して実習する。																																		
12	代表的な疾患に用いる各種装具を学習する（1）。																																		
13	代表的な疾患に用いる各種装具を学習する（2）。																																		
14	スプリント作成実習（1）																																		
15	スプリント作成実習（2）																																		

【専門分野】理学療法特論Ⅰ

担当講師	長岡 正和・中川 仁	対象学年	I 部 1 年・II 部 1 年																																
概 要	医療従事者に必要な基本的知識、技術について広く概略を学ぶ 理学療法士として、患者ならびにチームを形成する他の専門職と良好な関係を構築するために必要な事項を学ぶ																																		
学習到達目標	・医療従事者としての心構えを理解し、他の科目で学んだ基本的知識、技術の習熟度を深める ・他者と良好な関係を構築するための理論を理解する ・患者を理解するために必要な情報の収集方法を理解する																																		
教 科 書	授業に応じて資料を配付																																		
評価方法	<評価方法と割合> 規定回数の 2/3 以上の授業参加と定期試験 100% <評価基準> 60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td></tr><tr><td>2</td><td>「彼我一体」の理念とこれからの学修について</td></tr><tr><td>3</td><td>学療法士を目指すということ（人の一生における自立、就職ついて）</td></tr><tr><td>4</td><td>病気やケガをするということについて</td></tr><tr><td>5</td><td>障害者として生きていくということについて</td></tr><tr><td>6</td><td>1 コマ目から 5 コマ目の学修のまとめ</td></tr><tr><td>7</td><td>医療従事者の心構え、倫理観について</td></tr><tr><td>8</td><td>インフォームド・コンセント 説明と同意について</td></tr><tr><td>9</td><td>人間関係の構築について</td></tr><tr><td>10</td><td>患者を知るための情報収集の必要性について</td></tr><tr><td>11</td><td>7 コマ目から 10 コマ目の学修のまとめ</td></tr><tr><td>12</td><td>患者を知るための情報収集とチーム医療について</td></tr><tr><td>13</td><td>情報収集の方法について</td></tr><tr><td>14</td><td>危機管理について</td></tr><tr><td>15</td><td>理学療法士に必要な知識・技術・態度について</td></tr></table>			回数	内容	1	オリエンテーション	2	「彼我一体」の理念とこれからの学修について	3	学療法士を目指すということ（人の一生における自立、就職ついて）	4	病気やケガをするということについて	5	障害者として生きていくということについて	6	1 コマ目から 5 コマ目の学修のまとめ	7	医療従事者の心構え、倫理観について	8	インフォームド・コンセント 説明と同意について	9	人間関係の構築について	10	患者を知るための情報収集の必要性について	11	7 コマ目から 10 コマ目の学修のまとめ	12	患者を知るための情報収集とチーム医療について	13	情報収集の方法について	14	危機管理について	15	理学療法士に必要な知識・技術・態度について
回数	内容																																		
1	オリエンテーション																																		
2	「彼我一体」の理念とこれからの学修について																																		
3	学療法士を目指すということ（人の一生における自立、就職ついて）																																		
4	病気やケガをするということについて																																		
5	障害者として生きていくということについて																																		
6	1 コマ目から 5 コマ目の学修のまとめ																																		
7	医療従事者の心構え、倫理観について																																		
8	インフォームド・コンセント 説明と同意について																																		
9	人間関係の構築について																																		
10	患者を知るための情報収集の必要性について																																		
11	7 コマ目から 10 コマ目の学修のまとめ																																		
12	患者を知るための情報収集とチーム医療について																																		
13	情報収集の方法について																																		
14	危機管理について																																		
15	理学療法士に必要な知識・技術・態度について																																		

【専門分野】理学療法特論Ⅱ

担当講師	保村 豊	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年																																
概 要	理学療法士として患者との関係を良好に構築しながら、コミュニケーションを図り、良質な技術を提供できることを念頭に置く。																																		
学習到達目標	いわゆる特殊テクニックについてその概略を理解し、患者の反応に的確に対応できるように技術を習得する。																																		
教 科 書	参考図書：理学療法ハンドブック 第二巻（協同医書出版） 配布資料など																																		
評価方法	＜評価方法と割合＞ 筆記試験（60％）、課題など（30％）、講義出席率（10％） ＜評価基準＞ 前述の評価方法・割合の総合点にて評価。6 割以上にて合格とする																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>授業の進め方について 学習方法、その他</td></tr><tr><td>2</td><td>中枢神経疾患、整形外科疾患、その他の疾患などの理学療法について いわゆる特殊テクニックについて Brunnstrome 法 Bobath 法 Vojta 法、PNF 法 その他</td></tr><tr><td>3</td><td>特殊テクニック PNF 法について</td></tr><tr><td>4</td><td>上肢のパターン①</td></tr><tr><td>5</td><td>上肢のパターン②</td></tr><tr><td>6</td><td>チョッピング、リフティングパターン</td></tr><tr><td>7</td><td>下肢のパターン①</td></tr><tr><td>8</td><td>下肢のパターン②</td></tr><tr><td>9</td><td>肩甲帯のパターン</td></tr><tr><td>10</td><td>骨盤帯のパターン</td></tr><tr><td>11</td><td>対称性、非対称性パターン、相反性パターン その他の組み合わせパターン</td></tr><tr><td>12</td><td>寝返り、起き上がり動作</td></tr><tr><td>13</td><td>いざり動作、立ち上がり動作、歩行動作</td></tr><tr><td>14</td><td>ADL、各種スポーツなどでの応用</td></tr><tr><td>15</td><td>まとめ</td></tr></table>			回数	内容	1	授業の進め方について 学習方法、その他	2	中枢神経疾患、整形外科疾患、その他の疾患などの理学療法について いわゆる特殊テクニックについて Brunnstrome 法 Bobath 法 Vojta 法、PNF 法 その他	3	特殊テクニック PNF 法について	4	上肢のパターン①	5	上肢のパターン②	6	チョッピング、リフティングパターン	7	下肢のパターン①	8	下肢のパターン②	9	肩甲帯のパターン	10	骨盤帯のパターン	11	対称性、非対称性パターン、相反性パターン その他の組み合わせパターン	12	寝返り、起き上がり動作	13	いざり動作、立ち上がり動作、歩行動作	14	ADL、各種スポーツなどでの応用	15	まとめ
回数	内容																																		
1	授業の進め方について 学習方法、その他																																		
2	中枢神経疾患、整形外科疾患、その他の疾患などの理学療法について いわゆる特殊テクニックについて Brunnstrome 法 Bobath 法 Vojta 法、PNF 法 その他																																		
3	特殊テクニック PNF 法について																																		
4	上肢のパターン①																																		
5	上肢のパターン②																																		
6	チョッピング、リフティングパターン																																		
7	下肢のパターン①																																		
8	下肢のパターン②																																		
9	肩甲帯のパターン																																		
10	骨盤帯のパターン																																		
11	対称性、非対称性パターン、相反性パターン その他の組み合わせパターン																																		
12	寝返り、起き上がり動作																																		
13	いざり動作、立ち上がり動作、歩行動作																																		
14	ADL、各種スポーツなどでの応用																																		
15	まとめ																																		

【専門分野】臨床理学療法学

担当講師	内部教員	対象学年	I 部 3 年・Ⅱ部 3 年																																																														
概 要	これまで学習してきた基礎分野、専門基礎分野、専門分野の総合学習と位置付け、必要な学力・知識の定着をはかりその理解度を深める。 模擬試験の実施にてその到達度・理解度を確認する。																																																																
学習到達目標	理学療法士として必要な学力・知識を身につける。																																																																
教 科 書	配布資料																																																																
評価方法	国家試験に準じた模擬試験、定期試験等を総合的に判定し、可否を決定する																																																																
授業計画	グループでの学習（資料の作成およびその理解） 国家試験に準じた模擬試験の実施および実施後の解答確認作業 <table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>模擬試験 ①</td></tr><tr><td>2</td><td>模擬試験 ①</td></tr><tr><td>3</td><td>模擬試験 ①</td></tr><tr><td>4</td><td>模擬試験 ②</td></tr><tr><td>5</td><td>模擬試験 ②</td></tr><tr><td>6</td><td>模擬試験 ②</td></tr><tr><td>7</td><td>模擬試験 ③</td></tr><tr><td>8</td><td>模擬試験 ③</td></tr><tr><td>9</td><td>模擬試験 ③</td></tr><tr><td>10</td><td>模擬試験 ④</td></tr><tr><td>11</td><td>模擬試験 ④</td></tr><tr><td>12</td><td>模擬試験 ④</td></tr><tr><td>13</td><td>模擬試験 ⑤</td></tr><tr><td>14</td><td>模擬試験 ⑤</td></tr><tr><td>15</td><td>模擬試験 ⑤</td></tr><tr><td>16</td><td>模擬試験 ⑥</td></tr><tr><td>17</td><td>模擬試験 ⑥</td></tr><tr><td>18</td><td>模擬試験 ⑥</td></tr><tr><td>19</td><td>模擬試験 ⑦</td></tr><tr><td>20</td><td>模擬試験 ⑦</td></tr><tr><td>21</td><td>模擬試験 ⑦</td></tr><tr><td>22</td><td>模擬試験 ⑧</td></tr><tr><td>23</td><td>模擬試験 ⑧</td></tr><tr><td>24</td><td>模擬試験 ⑧</td></tr><tr><td>25</td><td>模擬試験 ⑨</td></tr><tr><td>26</td><td>模擬試験 ⑨</td></tr><tr><td>27</td><td>模擬試験 ⑨</td></tr><tr><td>28</td><td>模擬試験 ⑩</td></tr><tr><td>29</td><td>模擬試験 ⑩</td></tr><tr><td>30</td><td>模擬試験 ⑩</td></tr></table>			回数	内容	1	模擬試験 ①	2	模擬試験 ①	3	模擬試験 ①	4	模擬試験 ②	5	模擬試験 ②	6	模擬試験 ②	7	模擬試験 ③	8	模擬試験 ③	9	模擬試験 ③	10	模擬試験 ④	11	模擬試験 ④	12	模擬試験 ④	13	模擬試験 ⑤	14	模擬試験 ⑤	15	模擬試験 ⑤	16	模擬試験 ⑥	17	模擬試験 ⑥	18	模擬試験 ⑥	19	模擬試験 ⑦	20	模擬試験 ⑦	21	模擬試験 ⑦	22	模擬試験 ⑧	23	模擬試験 ⑧	24	模擬試験 ⑧	25	模擬試験 ⑨	26	模擬試験 ⑨	27	模擬試験 ⑨	28	模擬試験 ⑩	29	模擬試験 ⑩	30	模擬試験 ⑩
回数	内容																																																																
1	模擬試験 ①																																																																
2	模擬試験 ①																																																																
3	模擬試験 ①																																																																
4	模擬試験 ②																																																																
5	模擬試験 ②																																																																
6	模擬試験 ②																																																																
7	模擬試験 ③																																																																
8	模擬試験 ③																																																																
9	模擬試験 ③																																																																
10	模擬試験 ④																																																																
11	模擬試験 ④																																																																
12	模擬試験 ④																																																																
13	模擬試験 ⑤																																																																
14	模擬試験 ⑤																																																																
15	模擬試験 ⑤																																																																
16	模擬試験 ⑥																																																																
17	模擬試験 ⑥																																																																
18	模擬試験 ⑥																																																																
19	模擬試験 ⑦																																																																
20	模擬試験 ⑦																																																																
21	模擬試験 ⑦																																																																
22	模擬試験 ⑧																																																																
23	模擬試験 ⑧																																																																
24	模擬試験 ⑧																																																																
25	模擬試験 ⑨																																																																
26	模擬試験 ⑨																																																																
27	模擬試験 ⑨																																																																
28	模擬試験 ⑩																																																																
29	模擬試験 ⑩																																																																
30	模擬試験 ⑩																																																																

【専門分野】臨床理学療法演習Ⅰ

担当講師	内部教員	対象学年	I部2年・II部2年
概 要	これまで学内で学習してきたことの総合学習とし、臨床で求められる理学療法技術や症例に対する総合的理解・判断力を深める。 疑似症例を用いて、理学療法評価や統合・解釈を行う練習をする。 症例検討を行い、その症例のもつ問題点を追究する。		
学習到達目標	これまで学習してきたことを総合的に学習し理解する。 理学療法評価や統合・解釈の一連の流れを理解する。 症例検討を行い、その症例のもつ問題点を追究できるようになる。		
教 科 書	配布資料		
評価方法	客観的臨床能力試験・課題試験・授業態度等を総合的に判定する		
授業計画	検査・測定技術の意義・目的の確認および練習。臨床医学を復習し、各疾患の特徴を再確認する。模擬症例を用いた理学療法評価の課程を再学習する 症例検討を行い、その症例のもつ問題点の抽出やそこに至るまでの考え方についてディスカッションする		
	回数	内容	
	1	授業の進め方について	
	2	課題症例提示	
	3	情報収集・疾患の特徴・病態の把握	
	4	検査・測定項目の抽出	
	5	検査測定の意味・目的の確認	
	6	実技練習・課題症例についての学習①	
	7	実技練習・課題症例についての学習②	
	8	実技練習・課題症例についての学習③	
	9	実技練習・課題症例についての学習④	
	10	実技練習・課題症例についての学習⑤	
	11	客観的臨床能力試験	
	12	試験後のフィードバック、再学習状況の確認	
	13	実技練習・課題症例についての学習⑥	
	14	実技練習・課題症例についての学習⑦	
	15	まとめ	

【専門分野】臨床理学療法演習Ⅱ

担当講師	内部教員	対象学年	I 部 3 年・II 部 3 年																																																														
概 要	これまで学内で学習してきたことの総合学習とし、臨床実習で求められる理学療法技術や症例に対する総合的理解・判断力を学習する。 模擬症例を用いて、理学療法評価や統合・解釈を行う練習をする。 国家試験対策を通じて基礎医学・臨床医学・理学療法学の再学習を行う																																																																
学習到達目標	これまで学習してきたことを総合的に学習し理解する。 理学療法評価や統合・解釈の基本的な流れを理解する。 基礎医学・臨床医学・理学療法学の知識の定着をはかる。																																																																
教 科 書	配布資料																																																																
評価方法	課題試験・授業態度等を総合的に判定する																																																																
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>基礎医学 学習①</td></tr><tr><td>2</td><td>基礎医学 学習②</td></tr><tr><td>3</td><td>基礎医学 学習③</td></tr><tr><td>4</td><td>臨床医学 学習①</td></tr><tr><td>5</td><td>臨床医学 学習②</td></tr><tr><td>6</td><td>臨床医学 学習③</td></tr><tr><td>7</td><td>理学療法学 学習①</td></tr><tr><td>8</td><td>理学療法学 学習②</td></tr><tr><td>9</td><td>理学療法学 学習③</td></tr><tr><td>10</td><td>模擬症例 情報収集①</td></tr><tr><td>11</td><td>模擬症例 情報収集②</td></tr><tr><td>12</td><td>模擬症例 情報収集③</td></tr><tr><td>13</td><td>模擬症例 理学療法評価①</td></tr><tr><td>14</td><td>模擬症例 理学療法評価②</td></tr><tr><td>15</td><td>模擬症例 理学療法評価③</td></tr><tr><td>16</td><td>動作分析①</td></tr><tr><td>17</td><td>動作分析②</td></tr><tr><td>18</td><td>動作分析③</td></tr><tr><td>19</td><td>統合と解釈①</td></tr><tr><td>20</td><td>統合と解釈②</td></tr><tr><td>21</td><td>統合と解釈③</td></tr><tr><td>22</td><td>問題点抽出①</td></tr><tr><td>23</td><td>問題点抽出②</td></tr><tr><td>24</td><td>問題点抽出③</td></tr><tr><td>25</td><td>治療プログラムの立案・解釈①</td></tr><tr><td>26</td><td>治療プログラムの立案・解釈②</td></tr><tr><td>27</td><td>治療プログラムの立案・解釈③</td></tr><tr><td>28</td><td>理学療法評価 技術①</td></tr><tr><td>29</td><td>理学療法評価 技術②</td></tr><tr><td>30</td><td>理学療法評価 技術③</td></tr></table>			回数	内容	1	基礎医学 学習①	2	基礎医学 学習②	3	基礎医学 学習③	4	臨床医学 学習①	5	臨床医学 学習②	6	臨床医学 学習③	7	理学療法学 学習①	8	理学療法学 学習②	9	理学療法学 学習③	10	模擬症例 情報収集①	11	模擬症例 情報収集②	12	模擬症例 情報収集③	13	模擬症例 理学療法評価①	14	模擬症例 理学療法評価②	15	模擬症例 理学療法評価③	16	動作分析①	17	動作分析②	18	動作分析③	19	統合と解釈①	20	統合と解釈②	21	統合と解釈③	22	問題点抽出①	23	問題点抽出②	24	問題点抽出③	25	治療プログラムの立案・解釈①	26	治療プログラムの立案・解釈②	27	治療プログラムの立案・解釈③	28	理学療法評価 技術①	29	理学療法評価 技術②	30	理学療法評価 技術③
回数	内容																																																																
1	基礎医学 学習①																																																																
2	基礎医学 学習②																																																																
3	基礎医学 学習③																																																																
4	臨床医学 学習①																																																																
5	臨床医学 学習②																																																																
6	臨床医学 学習③																																																																
7	理学療法学 学習①																																																																
8	理学療法学 学習②																																																																
9	理学療法学 学習③																																																																
10	模擬症例 情報収集①																																																																
11	模擬症例 情報収集②																																																																
12	模擬症例 情報収集③																																																																
13	模擬症例 理学療法評価①																																																																
14	模擬症例 理学療法評価②																																																																
15	模擬症例 理学療法評価③																																																																
16	動作分析①																																																																
17	動作分析②																																																																
18	動作分析③																																																																
19	統合と解釈①																																																																
20	統合と解釈②																																																																
21	統合と解釈③																																																																
22	問題点抽出①																																																																
23	問題点抽出②																																																																
24	問題点抽出③																																																																
25	治療プログラムの立案・解釈①																																																																
26	治療プログラムの立案・解釈②																																																																
27	治療プログラムの立案・解釈③																																																																
28	理学療法評価 技術①																																																																
29	理学療法評価 技術②																																																																
30	理学療法評価 技術③																																																																

【専門分野】臨床理学療法演習Ⅲ

担当講師	内部教員	対象学年	I部3年・II部3年																																
概 要	学内での学習、臨床実習で修得した知識・技能・態度の総合学習とし、臨床で求められる理学療法技術や代表的な症例に対する総合的理解・判断力を深める。 実際に体験した症例をもとに、理学療法評価より統合・解釈を行い、症例検討の中で問題点の抽出、理学療法プログラム立案、理学療法プログラムの実施（水準1）を安全に実演する。																																		
学習到達目標	総合臨床実習での学習経験を活かし、基本的な理学療法技術、一連の流れを理解し説明できる。 症例の総合的な理解に努め、臨床に必要な基本的理学療法評価と水準1の治療を実施することができる。																																		
教 科 書	配布資料																																		
評価方法	1. 各種疾患の理解の確認：症例報告書 2. 総合臨床実習の記録：学生ノート、症例レポート等のポートフォリオ ※1・2および授業態度等を総合的に判定する																																		
授業計画	臨床実習で体験した症例をもとに症例検討を行い、その症例のもつ問題点の抽出やそこに至るまでの考え方についてディスカッションする。 <table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>授業の進め方について 課題症例の提示①神経疾患（脳血管系） ②神経疾患（脊髄損傷）③整形疾患（骨折） ④整形外科（変形性関節症）⑤内部障害（呼吸・循環）⑥内部障害（糖尿病/その他）</td></tr><tr><td>2</td><td>情報収集（医学的・社会的）、疾患の特徴、病態の把握</td></tr><tr><td>3</td><td>医療面接技術と報告書について</td></tr><tr><td>4</td><td>検査測定の意義・目的の確認 検査・測定項目の抽出</td></tr><tr><td>5</td><td>検査・測定の実施 ①動作介助（誘導補助）技能</td></tr><tr><td>6</td><td>②リスク管理技能（標準予防、患者状態確認、バイタルサイン測定、意識レベル評価）</td></tr><tr><td>7</td><td>③感覚検査、反射検査、形態計測、筋緊張検査、疼痛検査</td></tr><tr><td>8</td><td>④関節可動域検査、片麻痺機能検査、徒手筋力検査、姿勢観察、バランス検査</td></tr><tr><td>9</td><td>⑤日常活動検査（起居動作、移乗動作、歩行、ADLテスト）</td></tr><tr><td>10</td><td>運動療法技術 ①関節可動域運動、筋力増強運動、全身持久力</td></tr><tr><td>11</td><td>②バランス練習、基本的動作練習</td></tr><tr><td>12</td><td>③移乗動作練習（車椅子駆動、歩行、応用歩行）</td></tr><tr><td>13</td><td>④物理療法技術、義肢装具、福祉用具、環境整備</td></tr><tr><td>14</td><td>病期別理学療法（通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション）について</td></tr><tr><td>15</td><td>地域包括ケアシステム、多職種連携の理解と理学療法士の役割について</td></tr></table>			回数	内容	1	授業の進め方について 課題症例の提示①神経疾患（脳血管系） ②神経疾患（脊髄損傷）③整形疾患（骨折） ④整形外科（変形性関節症）⑤内部障害（呼吸・循環）⑥内部障害（糖尿病/その他）	2	情報収集（医学的・社会的）、疾患の特徴、病態の把握	3	医療面接技術と報告書について	4	検査測定の意義・目的の確認 検査・測定項目の抽出	5	検査・測定の実施 ①動作介助（誘導補助）技能	6	②リスク管理技能（標準予防、患者状態確認、バイタルサイン測定、意識レベル評価）	7	③感覚検査、反射検査、形態計測、筋緊張検査、疼痛検査	8	④関節可動域検査、片麻痺機能検査、徒手筋力検査、姿勢観察、バランス検査	9	⑤日常活動検査（起居動作、移乗動作、歩行、ADLテスト）	10	運動療法技術 ①関節可動域運動、筋力増強運動、全身持久力	11	②バランス練習、基本的動作練習	12	③移乗動作練習（車椅子駆動、歩行、応用歩行）	13	④物理療法技術、義肢装具、福祉用具、環境整備	14	病期別理学療法（通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション）について	15	地域包括ケアシステム、多職種連携の理解と理学療法士の役割について
回数	内容																																		
1	授業の進め方について 課題症例の提示①神経疾患（脳血管系） ②神経疾患（脊髄損傷）③整形疾患（骨折） ④整形外科（変形性関節症）⑤内部障害（呼吸・循環）⑥内部障害（糖尿病/その他）																																		
2	情報収集（医学的・社会的）、疾患の特徴、病態の把握																																		
3	医療面接技術と報告書について																																		
4	検査測定の意義・目的の確認 検査・測定項目の抽出																																		
5	検査・測定の実施 ①動作介助（誘導補助）技能																																		
6	②リスク管理技能（標準予防、患者状態確認、バイタルサイン測定、意識レベル評価）																																		
7	③感覚検査、反射検査、形態計測、筋緊張検査、疼痛検査																																		
8	④関節可動域検査、片麻痺機能検査、徒手筋力検査、姿勢観察、バランス検査																																		
9	⑤日常活動検査（起居動作、移乗動作、歩行、ADLテスト）																																		
10	運動療法技術 ①関節可動域運動、筋力増強運動、全身持久力																																		
11	②バランス練習、基本的動作練習																																		
12	③移乗動作練習（車椅子駆動、歩行、応用歩行）																																		
13	④物理療法技術、義肢装具、福祉用具、環境整備																																		
14	病期別理学療法（通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション）について																																		
15	地域包括ケアシステム、多職種連携の理解と理学療法士の役割について																																		

【専門分野】 日常生活活動論

担当講師	豊田 慎一・宮田 かおり	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年																																
概 要	健常者を通して、基本的動作能力および生活関連動作能力の概略を知り、セルフケア能力低下・種々の機能低下の要因との関連を把握するため、その知識・技術を習得し、結果から解釈することを学習する																																		
学習到達目標	日常的な活動、能力について理解できる。 活動制限について解説、説明することができる。 セルフケア能力の程度を把握するため定型様式「FIM」を用い評価ができる																																		
教 科 書	「日常生活活動（ADL）」（神陵文庫）、配布資料																																		
評価方法	<評価方法と割合> レポート（10%）、定期試験（90%） <評価基準> 以上の評価割合の総合点で評価し、60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>日常生活活動（ADL）の概略について 成人の正常な運動発達等について知る（重心・支持面から）</td></tr><tr><td>2</td><td>基本的な肢位について知る（臥位～座位～立位、他） 基本的動作方法、介助方法などについて</td></tr><tr><td>3</td><td>ADL 評価「FIM」の概要</td></tr><tr><td>4</td><td>起居動作（起き上がり・寝返りなど）の分析 立ち上がり動作その他の移動動作の分析</td></tr><tr><td>5</td><td>生活関連動作について 食事動作の分析</td></tr><tr><td>6</td><td>食事動作に関わる評価「FIM」</td></tr><tr><td>7</td><td>更衣動作について 整容動作について</td></tr><tr><td>8</td><td>更衣動作、整容動作に関わる評価「FIM」</td></tr><tr><td>9</td><td>入浴動作について 排泄動作について</td></tr><tr><td>10</td><td>入浴動作、排泄動作に関わる評価「FIM」</td></tr><tr><td>11</td><td>福祉用具（杖・松葉杖・歩行器他）その種類・適用について</td></tr><tr><td>12</td><td>福祉用具（杖・松葉杖・歩行器他）の実際</td></tr><tr><td>13</td><td>車椅子、その種類・適用などについて 車椅子の操作、調整などについて</td></tr><tr><td>14</td><td>移動動作に関わる評価「FIM」</td></tr><tr><td>15</td><td>その他の ADL 評価方法について ADL のまとめと確認</td></tr></table>			回数	内容	1	日常生活活動（ADL）の概略について 成人の正常な運動発達等について知る（重心・支持面から）	2	基本的な肢位について知る（臥位～座位～立位、他） 基本的動作方法、介助方法などについて	3	ADL 評価「FIM」の概要	4	起居動作（起き上がり・寝返りなど）の分析 立ち上がり動作その他の移動動作の分析	5	生活関連動作について 食事動作の分析	6	食事動作に関わる評価「FIM」	7	更衣動作について 整容動作について	8	更衣動作、整容動作に関わる評価「FIM」	9	入浴動作について 排泄動作について	10	入浴動作、排泄動作に関わる評価「FIM」	11	福祉用具（杖・松葉杖・歩行器他）その種類・適用について	12	福祉用具（杖・松葉杖・歩行器他）の実際	13	車椅子、その種類・適用などについて 車椅子の操作、調整などについて	14	移動動作に関わる評価「FIM」	15	その他の ADL 評価方法について ADL のまとめと確認
回数	内容																																		
1	日常生活活動（ADL）の概略について 成人の正常な運動発達等について知る（重心・支持面から）																																		
2	基本的な肢位について知る（臥位～座位～立位、他） 基本的動作方法、介助方法などについて																																		
3	ADL 評価「FIM」の概要																																		
4	起居動作（起き上がり・寝返りなど）の分析 立ち上がり動作その他の移動動作の分析																																		
5	生活関連動作について 食事動作の分析																																		
6	食事動作に関わる評価「FIM」																																		
7	更衣動作について 整容動作について																																		
8	更衣動作、整容動作に関わる評価「FIM」																																		
9	入浴動作について 排泄動作について																																		
10	入浴動作、排泄動作に関わる評価「FIM」																																		
11	福祉用具（杖・松葉杖・歩行器他）その種類・適用について																																		
12	福祉用具（杖・松葉杖・歩行器他）の実際																																		
13	車椅子、その種類・適用などについて 車椅子の操作、調整などについて																																		
14	移動動作に関わる評価「FIM」																																		
15	その他の ADL 評価方法について ADL のまとめと確認																																		

【専門分野】生活環境支援学

担当講師	北川 秀朗	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年																																
概 要	生活する事の意味を理解し、日常生活障害の理由からいかに患者の生活する環境を整えるか、社会保障制度の中で理学療法士における手段、方法、目的を理解し学習する。																																		
学習到達目標	高齢者、障害者が入院生活、在宅生活を続けるための援助を考え実施できるよう、各種社会保障制度、バリアフリー、ユニバーサルデザインについて概念、実際の事例を踏まえ理解する。 高齢者、障害者の生活像を理解し、対応する生活環境の把握方法、評価方法を学び実際の支援方法（リフト等）を実践することができる。																																		
教 科 書	理学療法学テキストX 生活環境論（神陵文庫）																																		
評価方法	<評価方法と割合> 実技課題レポート 定期試験 <評価基準> 実技課題レポート合格後、定期試験 60%以上の正答にて合格																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>生活環境学を学ぶに当たり必要な法律、制度</td></tr><tr><td>2</td><td>高齢者、障害者、介護保険に関わる法律の内容とその推移</td></tr><tr><td>3</td><td>生活環境整備 1 総論 1（生活とは、生活環境とは）</td></tr><tr><td>4</td><td>生活環境整備 2 障害別による日常生活活動上の障害と事故及び生活環境整備の留意点</td></tr><tr><td>5</td><td>生活環境整備 3 関節可動域と日常生活活動との関連</td></tr><tr><td>6</td><td>生活環境整備 4（実技課題） 関節可動域と日常生活活動との関連（各動作時の関節可動範囲計測）</td></tr><tr><td>7</td><td>障害別の日常生活活動の実際と理解</td></tr><tr><td>8</td><td>障害別の日常生活活動の有効な支援方法 1 （補助具、自助具、装具などの考え方、種類等）</td></tr><tr><td>9</td><td>障害別の日常生活活動の有効な支援方法 2（実技課題） 日常生活活動における補助具、自助具、装具使用時の変化</td></tr><tr><td>10</td><td>障害別の日常生活活動の有効な支援方法 3（実技課題） 日常生活活動における補助具、自助具、装具使用時の変化</td></tr><tr><td>11</td><td>各疾患別に予測できる日常生活活動障害 1 中枢神経疾患</td></tr><tr><td>12</td><td>各疾患別に予測できる日常生活活動障害 2 整形疾患</td></tr><tr><td>13</td><td>各疾患別日常生活活動障害の対処法 リフト等、移乗動作の支援方法の種類、設定方法、注意点</td></tr><tr><td>14</td><td>各疾患別日常生活活動障害の対処法（実技課題） リフト等、各種移乗動作の支援方法の設定と実施 1</td></tr><tr><td>15</td><td>各疾患別日常生活活動障害の対処法（実技課題） リフト等、各種移乗動作の支援方法の設定と実施 2</td></tr></table>			回数	内容	1	生活環境学を学ぶに当たり必要な法律、制度	2	高齢者、障害者、介護保険に関わる法律の内容とその推移	3	生活環境整備 1 総論 1（生活とは、生活環境とは）	4	生活環境整備 2 障害別による日常生活活動上の障害と事故及び生活環境整備の留意点	5	生活環境整備 3 関節可動域と日常生活活動との関連	6	生活環境整備 4（実技課題） 関節可動域と日常生活活動との関連（各動作時の関節可動範囲計測）	7	障害別の日常生活活動の実際と理解	8	障害別の日常生活活動の有効な支援方法 1 （補助具、自助具、装具などの考え方、種類等）	9	障害別の日常生活活動の有効な支援方法 2（実技課題） 日常生活活動における補助具、自助具、装具使用時の変化	10	障害別の日常生活活動の有効な支援方法 3（実技課題） 日常生活活動における補助具、自助具、装具使用時の変化	11	各疾患別に予測できる日常生活活動障害 1 中枢神経疾患	12	各疾患別に予測できる日常生活活動障害 2 整形疾患	13	各疾患別日常生活活動障害の対処法 リフト等、移乗動作の支援方法の種類、設定方法、注意点	14	各疾患別日常生活活動障害の対処法（実技課題） リフト等、各種移乗動作の支援方法の設定と実施 1	15	各疾患別日常生活活動障害の対処法（実技課題） リフト等、各種移乗動作の支援方法の設定と実施 2
回数	内容																																		
1	生活環境学を学ぶに当たり必要な法律、制度																																		
2	高齢者、障害者、介護保険に関わる法律の内容とその推移																																		
3	生活環境整備 1 総論 1（生活とは、生活環境とは）																																		
4	生活環境整備 2 障害別による日常生活活動上の障害と事故及び生活環境整備の留意点																																		
5	生活環境整備 3 関節可動域と日常生活活動との関連																																		
6	生活環境整備 4（実技課題） 関節可動域と日常生活活動との関連（各動作時の関節可動範囲計測）																																		
7	障害別の日常生活活動の実際と理解																																		
8	障害別の日常生活活動の有効な支援方法 1 （補助具、自助具、装具などの考え方、種類等）																																		
9	障害別の日常生活活動の有効な支援方法 2（実技課題） 日常生活活動における補助具、自助具、装具使用時の変化																																		
10	障害別の日常生活活動の有効な支援方法 3（実技課題） 日常生活活動における補助具、自助具、装具使用時の変化																																		
11	各疾患別に予測できる日常生活活動障害 1 中枢神経疾患																																		
12	各疾患別に予測できる日常生活活動障害 2 整形疾患																																		
13	各疾患別日常生活活動障害の対処法 リフト等、移乗動作の支援方法の種類、設定方法、注意点																																		
14	各疾患別日常生活活動障害の対処法（実技課題） リフト等、各種移乗動作の支援方法の設定と実施 1																																		
15	各疾患別日常生活活動障害の対処法（実技課題） リフト等、各種移乗動作の支援方法の設定と実施 2																																		

【専門分野】地域理学療法学

担当講師	水上 志帆	対象学年	I 部 2 年・II 部 2 年																																
概 要	医学モデルから生活モデルへの転換を含めて、理学療法士は医療機関内に留まることなく、実生活の場で対象者支援を行うために必要な基本的知識を修得する。地域包括ケアシステムが展開されている現在、理学療法の領域の拡がりを見据えて、介護予防、健康増進、さらには、災害時支援・国際支援と視野を広げた医療機関以外での多くの活動についても理解する。																																		
学習到達目標	①地域における理学療法士概念と実際の活動に関して説明できる。 ②災害時の理学療法に関して説明できる。 ③国際支援における理学療法に関して説明できる。 ④産業理学療法における理学療法に関して説明できる。 ⑤学校保健および特別支援教育における理学療法に関して説明できる。 ⑥スポーツ活動支援における理学療法に関して説明できる。																																		
教 科 書	シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーションテキスト 改訂第 3 版 南江堂																																		
評価方法	<評価方法と割合> 定期試験 80% 講義課題 20% <評価基準> 以上の評価割合の総合点で評価し,60 点以上を合格とする。																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>地域理学療法における理学療法士の役割について理解する。</td></tr><tr><td>2</td><td>地域理学療法の定義について理解する。</td></tr><tr><td>3</td><td>地域理学療法に関する制度の変遷に関して理解する。</td></tr><tr><td>4</td><td>地域理学療法を支える制度に関して理解する。 (介護保険・障害者自立支援法)</td></tr><tr><td>5</td><td>地域理学療法を支える制度に関して理解する。 (身体障害者福祉法・長寿医療制度)</td></tr><tr><td>6</td><td>入所施設における理学療法士の関わりを理解する。</td></tr><tr><td>7</td><td>通所施設における理学療法士の関わりを理解する。</td></tr><tr><td>8</td><td>訪問リハビリにおける理学療法士の関わりを理解する。</td></tr><tr><td>9</td><td>地域における他職種連携について理解する。</td></tr><tr><td>10</td><td>大規模災害時における活動支援の概要と理学療法士の関わりについて理解する。</td></tr><tr><td>11</td><td>国際支援に関わる基盤（JICA 等）と理学療法士の関わりについて理解する。</td></tr><tr><td>12</td><td>産業理学療法において予防の基礎と理学療法士の関わりについて理解する。</td></tr><tr><td>13</td><td>学校保健および特別支援教育における理学療法士の関わりについて理解する。</td></tr><tr><td>14</td><td>スポーツ活動支援の概要と考え方を学び理学療法士の関わりについて理解する。</td></tr><tr><td>15</td><td>障害者スポーツ活動支援の概要と考え方を学び理学療法士の関わりについて理解する。</td></tr></table>			回数	内容	1	地域理学療法における理学療法士の役割について理解する。	2	地域理学療法の定義について理解する。	3	地域理学療法に関する制度の変遷に関して理解する。	4	地域理学療法を支える制度に関して理解する。 (介護保険・障害者自立支援法)	5	地域理学療法を支える制度に関して理解する。 (身体障害者福祉法・長寿医療制度)	6	入所施設における理学療法士の関わりを理解する。	7	通所施設における理学療法士の関わりを理解する。	8	訪問リハビリにおける理学療法士の関わりを理解する。	9	地域における他職種連携について理解する。	10	大規模災害時における活動支援の概要と理学療法士の関わりについて理解する。	11	国際支援に関わる基盤（JICA 等）と理学療法士の関わりについて理解する。	12	産業理学療法において予防の基礎と理学療法士の関わりについて理解する。	13	学校保健および特別支援教育における理学療法士の関わりについて理解する。	14	スポーツ活動支援の概要と考え方を学び理学療法士の関わりについて理解する。	15	障害者スポーツ活動支援の概要と考え方を学び理学療法士の関わりについて理解する。
回数	内容																																		
1	地域理学療法における理学療法士の役割について理解する。																																		
2	地域理学療法の定義について理解する。																																		
3	地域理学療法に関する制度の変遷に関して理解する。																																		
4	地域理学療法を支える制度に関して理解する。 (介護保険・障害者自立支援法)																																		
5	地域理学療法を支える制度に関して理解する。 (身体障害者福祉法・長寿医療制度)																																		
6	入所施設における理学療法士の関わりを理解する。																																		
7	通所施設における理学療法士の関わりを理解する。																																		
8	訪問リハビリにおける理学療法士の関わりを理解する。																																		
9	地域における他職種連携について理解する。																																		
10	大規模災害時における活動支援の概要と理学療法士の関わりについて理解する。																																		
11	国際支援に関わる基盤（JICA 等）と理学療法士の関わりについて理解する。																																		
12	産業理学療法において予防の基礎と理学療法士の関わりについて理解する。																																		
13	学校保健および特別支援教育における理学療法士の関わりについて理解する。																																		
14	スポーツ活動支援の概要と考え方を学び理学療法士の関わりについて理解する。																																		
15	障害者スポーツ活動支援の概要と考え方を学び理学療法士の関わりについて理解する。																																		

【専門分野】臨床実習Ⅰ

担当講師	対象学年	I部1年・II部1年
概 要	見学・体験実習は、理学療法士としての足がかりとして重要である。早期から実際の理学療法士の仕事・職場を通して、今まで勉強してきた概念・知識を再認識するとともに、より具体的な理学療法士像を確立することを目標とするために、実習指導者の下で見学や体験を通して、理学療法の対象者との関係性構築と他職種との関係性及び理学療法士としての役割を学修する。	
学習到達目標	①清潔で適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で対象者に接する。 ②共感的態度を持ってより良い・善い人間関係を対象者との間で構築する。 ③周囲における自己の存在を意識した行動を行う。 ④自らが置かれた立場で、必要とされている要件を認識し、他者や指導者の助言などに対して適切に応答する。 ⑤対象者、家族のニーズ・要望などに対し、自分の感情を制御して接する。 ⑥対象者、家族にとって、相談しやすい雰囲気作りに心がける。 ⑦医療職としての心得や職場内におけるルールを守る。 ⑧部門におけるルールを理解し、診療プロセス(処方の確認、計画書、効果判定、カルテ記録、算定手順など)を理解した言動をとる。 ⑨臨床実習指導者と十分なコミュニケーションを保って良好な関係を維持する。 ⑩積極的に理学療法スタッフや他職種と関わり、良好な関係を構築する。 ⑪インシデント・アクシデントが生じた際には実習施設の手順に従って対応する。 ⑫守秘義務を果たし、プライバシーを守る。 ⑬臨床実習施設における他職種連携の展開について見学する。	
教 科 書	なし	
評価方法	臨床実習評価報告書・課題提出状況にて総合的に判定する。	
授業計画	見学体験実習（1週）	

【専門分野】臨床実習Ⅱ

担当講師	対象学年	I部2年・II部2年
概 要	検査体験実習は、理学療法の第一歩である「検査・測定」を体験する実習である。臨床的問題を解決するために理学療法士が行う検査・測定について、各検査の目的・方法を理解し、それらを実践できるようになることを目標とするために、以下の内容について実習指導者の下で検査・測定を体験し、評価実習につながるよう、さらなる学習意欲を高めることが重要である。	
学習到達目標	①学内で習得した検査・体験の理論と技術を臨床場面で実践する。 ②対象者への検査・測定を通して正常との相違を体験する。 ③実習指導者が実施している評価・治療の中で、既に学内で学習した内容について臨床的な実施方法を学ぶ。	
教 科 書	なし	
評価方法	臨床実習評価報告書・課題提出状況にて総合的に判定する。	
授業計画	検査体験実習（1週）	

【専門分野】臨床実習Ⅲ

担当講師	対象学年	I 部 3 年・II 部 3 年
概 要	評価実習は、対象者の持つ障害の全体像を把握するために「評価」が実施される実習である。臨床的問題を解決するために適切な情報を収集し、検査・測定の結果を統合的に解釈し、知識を総動員して問題点の抽出・治療方針の決定ができるようになることを目標とする。	
学習到達目標	①学内で習得した検査・測定の理論と技術を臨床場面で実践を通して学ぶ。 ②対象者に応じた検査・測定を実施し、得られた結果より対象者の障害を把握するための評価の過程を学ぶ。 ③対象者の全体像を把握した上で、理学療法プログラムの提案をすることができる。 ④実習指導者が実施している評価・治療の中で、既に学内で学習した内容について臨症的な実施方法を学ぶ。	
教 科 書	なし	
評価方法	臨床実習評価報告書・課題提出状況・症例報告にて総合的に判定する。	
授業計画	評価実習（6 週）	

【専門分野】臨床実習Ⅳ

担当講師	対象学年	I 部 3 年・II 部 3 年
概 要	総合実習は、これまでに受けた教育の総括的な修練の場として位置づけられる。対象者にご協力をいただき必要な評価を行い、得られた結果に基づき障害を把握し、実習指導者の下で治療の一部を体験・実施し、その適否や有効性について考察できることを目標とする。この目標を達成するために、以下の内容について経験する。	
学習到達目標	①評価結果について理論的な裏付けを持って解釈し、治療体験を通じて基本的な治療技術を習得する。 ②評価および治療を通して、対象となる障害・生活機能の変化の過程を把握する。 ③対象者の基本的な理学療法の一連の流れについて、実習での体験を通して考察する。 ④対象者の基本的動作の現状を把握し、また、将来像を加味した上で、その改善に向けて具体的な介入方法および指導を習得する。 ⑤対象者の日常生活能力に応じた環境整備を考察することができる。 ⑥リハビリテーションにおけるチームアプローチの必要性を認識し、専門職としての自覚を持つことができる。 ⑦高齢化の進展に伴う医療需要の増大や、地域包括ケアシステムの構築等により、理学療法士に求められる地域での役割や多職種連携について理解する。 ＊特に本学院では、総合実習を理学療法士の基盤を集大成する最後の機会として位置づけ、専門職としてふさわしい知識、技術、態度を身に付けることを目標とする。	
教 科 書	なし	
評価方法	臨床実習評価報告書・課題提出状況・症例報告にて総合的に判定する。	
授業計画	総合実習（Ⅰ期：8週、Ⅱ期：7週＋訪問・通所リハビリテーション実習1週）	